

表紙

広島大学の男女共同参画2015

科学技術人材育成費補助金

**女性研究者研究活動支援事業
(拠点型)**

～平成25-27年度成果報告書～

平成28年3月

広島大学男女共同参画推進室

広島大学男女共同参画宣言

男女は、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画し、政治的、経済的、社会的及び文化的利益を等しく享受する権利を有するとともに、そのような社会をともに創り出す責務を負う。平成11年6月に公布・施行された男女共同参画社会基本法においても、男女共同参画社会の実現は、「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付けられており、この方針の実現のため、平成17年12月に男女共同参画基本計画（第2次）が閣議決定されている。

我が国においては、日本国憲法に個人の尊重と法の下での平等がうたわれ、これまでも男女平等の実現に向けた様々な取組が、国際社会の取組とも連動しつつ進められてきた。しかし、長い歴史の中で形成された性別による差別的取扱いや固定的な社会通念は、教育・研究の分野においても様々な形態で依然として存在する。知の拠点としての大学は、知の生産のみならず次世代の教育と社会的文化的価値の創造を担う重要な機関であるがゆえに、男女の特性を認識しつつ、男女間の格差を是正し、構成員一人一人の個性と能力が十分発揮できる組織であることを示す社会的責務を有する。

広島大学は、その前身の一つである広島師範学校において明治15年にいち早く女子部を併設し、教育界に多くの優れた女性の人材を輩出してきた。さらに、昭和4年に設置された広島文理科大学においても設置当初から女子学生を受け入れ、戦前から高等教育における男女共学を実現してきた。この歴史に体现されている精神をさらに発展させ、男女共同参画の今日的課題に取り組んでいくこととしたい。

また、広島大学が目指す「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」を実現するためにも、大学における男女の対等な参画をより一層推進することによって、個人がその個性と能力をいかに発揮できる風土を創出することが最重要課題である。

以上の観点から、広島大学は、男女共同参画基本計画（第2次）の趣旨を十分に踏まえつつ、次の基本方針を基に男女共同参画を推進し、男女共同参画社会の構築に積極的に寄与することを宣言する。

<基本方針>

- 1 教育・研究・就業の場における男女平等の推進
- 2 性別に基づく差別や排除を助長する制度・慣行の見直し・改善
- 3 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進
- 4 家庭生活と教育・研究・就業とを両立させるための男女への支援
- 5 地域社会・国際社会との連携を通じた男女共同参画の推進
- 6 男女共同参画の啓発活動と教育研究の推進

平成18年10月17日

広島大学

目次

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| I 広島大学のシステム改革と女性研究者の活躍 | 3 |
| 1. 広島大学のシステム改革 | 4 |
| 1-1. 広島大学構成員の女性の割合の変遷 | 7 |
| 1-2. 男女共同参画に関する取組履歴 | 8 |
| 1-3. 広島大学の人材育成システム改革に関連する推進担当責任者 | 9 |
| 1-4. 研究科等別の女性教員在籍割合の経年変化 | 10 |
| 1-5. 職位別の女性教員の割合の変移 | 11 |
| 1-6. 広島大学の女性の教員と学生の割合の比較 | 11 |
| 1-7. 学位（博士）の授与数と女性の割合 | 13 |
| 1-8. 広島大学特別研究員 | 14 |
| 1-9. URA | 15 |
| 2. 広島大学の女性の活躍 | 16 |
| 2-1. 本務教員数と承継教員数の経年変化 | 16 |
| 2-2. 本務教員のシニア・若手の男女別の数と割合の経年変化 | 17 |
| 2-3. 科研費等外部資金の獲得 | 18 |
| 2-4. 財団等から支援された、女性研究者の研究テーマ | 20 |
| II 女性研究者研究活動支援事業（拠点型） | 23 |
| 3. 実施内容 | 24 |
| 3-1. 実施体制図 | 24 |

| | |
|---------------------------------------|-----------|
| 3-2. 実施内容図 | 24 |
| 3-3. ミッションステートメント | 25 |
| 3-4. 取組内容 | 26 |
| 4. 女性研究活動委員会 | 28 |
| 4-1. 女性研究活動委員会委員 | 28 |
| 4-2. 開催一覧 | 29 |
| 5. 産学官連絡会 | 30 |
| 5-1. 産学官連絡会委員 | 30 |
| 5-2. 開催一覧 | 31 |
| 5-3. 議事概要 | 33 |
| 6. 女性の大学院生支援（キャリアスタート支援） | 37 |
| 6-1. 企業訪問 | 37 |
| 6-2. セミナー | 49 |
| 6-3. 広報誌 | 53 |
| 6-4. インターンシップ | 55 |
| 7. 女性の研究者支援（アドバンスト支援） | 56 |
| 7-1. 管理職セミナー | 56 |
| 7-2. 講演会等 | 58 |
| 7-3. 託児サービス | 59 |
| 8. 共同研究支援 | 60 |
| 8-1. イノベーションセミナー | 60 |

| | |
|--|-----------|
| 8-2. 女性研究者研究交流会 | 61 |
| 8-3. 広島大学女性研究者研究シーズ集 | 63 |
| 8-4. 若手研究者シーズ発表会 | 64 |
| 8-5. 広島大学 新技術説明会 2015 in 広島 | 73 |
| 9. 意識啓発 | 74 |
| 9-1. セミナー・シンポジウム | 74 |
| 9-2. 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」 | 83 |
| Ⅲ 基盤整備（平成27年度） | 85 |
| 10. 男女共同参画推進体制 | 86 |
| 11. 男女共同参画推進室 | 87 |
| 11-1. 広島大学における位置づけ | 87 |
| 11-2. 平成27年度のメンバー | 88 |
| 12. 男女共同参画推進委員会 | 89 |
| 12-1. 男女共同参画推進委員会委員 | 89 |
| 12-2. 開催一覧 | 90 |
| 12-3. 男女共同参画推進委員会の目標と計画 | 93 |
| 12-4. 活動の指針 | 93 |
| 12-5. 広島大学男女共同参画基本方針 | 94 |
| 12-6. 男女共同参画推進委員会の「行動の目標」と「行動計画」 | 94 |
| 12-7. 平成27年度行動項目一覧表 | 95 |
| 12-8. 平成27年度重点項目 | 98 |

| | |
|---|------------|
| 1 2 - 9. 各グループの実施状況 | 99 |
| 1 3. 仕事と子育ての両立支援 | 101 |
| 1 3 - 1. 学内保育園 | 101 |
| 1 3 - 2. 学童保育 | 101 |
| 1 3 - 3. 病後児保育利用料補助事業 | 105 |
| 1 3 - 4. キャリア支援担当員によるキャリア相談 | 106 |
| 1 3 - 5. ユビキタス研究環境の整備 | 106 |
| 1 3 - 6. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の認定 | 107 |
| 1 4. リーダーシップ育成と意識啓発 | 110 |
| 1 4 - 1. 女性研究者奨励賞 | 110 |
| 1 4 - 2. 教養教育科目「ジェンダーと社会」 | 111 |
| 1 4 - 3. 女子学生交流会 BBC | 112 |
| 1 4 - 4. 女子高校生対象の体験科学講座 | 113 |
| 1 4 - 5. 女子高校生対象の質問・相談コーナー | 115 |
| 1 4 - 6. 男女共同参画セミナー | 117 |
| 1 5. ポジティブ・アクション | 119 |
| 1 5 - 1. 教員公募文書 | 119 |
| 1 5 - 2. 女性教員採用割合目標値及び達成度 | 120 |
| 1 5 - 3. 両性の意見を意思決定に反映させる仕組みに関する提言 | 121 |
| 1 6. 構成員や学生の意見 | 123 |
| IV 関連資料 | 125 |

| | |
|------------------------------|-----|
| 17. 広島大学における男女共同参画関連年表 | 126 |
| 17-1. 全学関連事項 | 126 |
| 17-2. 男女共同参画推進委員会関連事項 | 137 |
| 18. 広島県「仕事と家庭の両立支援企業」 | 139 |
| 19. 広島大学における女性の割合 | 140 |
| 19-1. 職種別, 本給表別在職状況 | 140 |
| 19-2. 教員における女性の割合の変遷 | 140 |
| 19-3. 教職員の職名別在職状況 | 141 |
| 19-4. 役員等 | 142 |
| 19-5. 全学委員会 | 143 |
| 19-6. 学部学生および大学院生 | 143 |
| 20. 平成27年度成果のまとめ | 145 |

はじめに

平成 27 年度は、科学技術人材育成費「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」に広島大学の取り組みが採択されてから 3 年目の最終年度にあたります。本学では、平成 18 年に広島大学男女共同参画宣言が行われて以来、学内保育園の開園や長期休暇中の学童保育の実施、仕事と家庭の両立支援のための各種制度が整備されると共に、全学体制での男女共同参画及び女性研究者支援の推進体制が構築されてきました。特に、女性研究者の比率向上と活躍促進の取り組みは、全学体制で実施しており、平成 18 年 5 月 1 日現在ではわずか 9.0%であった本学の女性教員割合は、平成 28 年 3 月 1 日現在では 14.6%に達するなど、広島大学のシステム改革は着実に進行しております。また、「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」では、全学委員会として設置した女性研究活動委員会を中心に、学内のさまざまな組織が連携した女性研究活動推進本部によって、本学がこれまで推進してきた両立支援や女性研究者支援を地域にも広げていく活動を行っています。一例として、中国四国地方の産学官が協働して活動する場として女性研究活動委員会のもとに設置した産学官連絡会には、現在までに、官公庁、企業、大学など 40 以上の機関から、人事担当者や研究職に就く女性社員等に参加いただいております。学内における取り組みと他機関連携の取り組みを効果的に進めています。今後もより一層、男女共同参画及び女性研究者活躍促進の取り組みを進める必要があると考えております。

女性研究者の人数が増えることそのものには、活用されるべき人材を活用する意義や、女子学生に対するロールモデルの多様性を確保する意義など多くの意義がありますが、ただ単に人数が増えればそれでよしというわけではありません。女性研究者がその能力を存分に発揮できるような仕組みと風土づくりをさらに進めることによって、将来的には性別にかかわらず全ての研究者が、そして職員や学生など全ての構成員が、今以上に活躍できる風土を創出することに結びつける必要があると考えております。

この報告書は、「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の約 2 年半の取り組みを中心として、広島大学における平成 27 年度の男女共同参画推進の活動と成果をまとめたものです。広島大学の取り組みを広く知っていただき、男女共同参画について今後も皆様と共に考えてゆければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月 1 日

広島大学副理事（男女共同参画担当）

森永 康子（広島大学大学院教育学研究科教授）

I 広島大学のシステム改革と女性研究者の活躍

1. 広島大学のシステム改革

科学技術振興調整費は、総合科学技術会議の方針に沿って文部科学省が制度運用を行う、政策誘導型の競争的資金であった。第2期科学技術基本計画から第3期科学技術基本計画への移行を踏まえ、平成18年度に科学技術システム改革関連のプログラムが科学技術振興調整費に大幅に創設された。さらに、平成21年度から、科学技術システム改革を先導するプログラムについては、それまでの委託費としての運用から補助金の運用に変更された。補助金化は、各機関で実施された科学技術システム改革が、科学技術振興調整費による支援期間終了後もその機関に根付いていかせるため、とされている。

科学技術システム改革関連事業の中で、広島大学が採択され、実施したものは次のとおりである。

- (1) 女性研究者支援システム改革
 - (1-1) 女性研究者支援モデル育成(平成23年度からは、「女性研究者研究活動支援事業」)
 - (1-2) 女性研究者養成システム改革加速
- (2) 若手研究者養成システム改革
 - (2-1) 若手研究者の自立的な研究環境整備促進
 - (2-2) イノベーション創出若手研究人材養成
- (3) アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進
 - (3-1) 戦略的環境リーダー育成拠点形成
- (4) 先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

それぞれの広島大学の課題名および実施期間は次のとおりである。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| (1-1) 『リーダーシップを育む広大型女性研究者支援』 | (2007～2009) (H19～H21) |
| (1-2) 『広大システム改革による女性研究者活躍促進』 | (2010～2014) (H22～H26) |
| (2-1) 『国際サステナブル科学リーダー育成システム』 | (2010～2014) (H22～H26) |
| (2-2) 『地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画』 | (2009～2013) (H21～H25) |
| (3-1) 『低炭素社会を設計する国際環境リーダー育成』 | (2008～2012) (H20～H24) |
| (4) 『半導体・バイオ融合集積化技術の構築』 | (2006～2009) (H18～H21) |

これらのプログラムは、いずれも、大学の従来型の組織や教育の枠組みでは実施できない内容を含むものであった。実施期間終了後も大学にその取り組み内容を根付かせるために、さまざまな工夫と努力を続けている。

広島大学では、特に次の観点でのシステム改革を進め、これまでの取組内容の実績をふまえ、さらに、より発展した内容をめざして、大型の競争的資金による事業を実施している。

- [1] 女性の活躍促進
- [2] 若手研究者育成
- [3] 博士課程の教育強化
- [4] 研究力強化
- [5] グローバル化推進

それぞれについて、広島大学が申請し、採択された事業は次のとおりである。

- [1-1] 女性研究者研究活動支援事業(拠点型) (2013～2015) (H25～H27)
- [2-1] グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGE プログラム)
『ひろしまアントレプレナーシッププログラム』 (2014～2016) (H26～H28)
- [2-2] 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
『未来を拓く地方協奏プラットフォーム』 (2014～2021) (H26～H33)
- [3-1] 博士課程教育リーディングプログラム
『放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム』
(2011～2017) (H23～H29)
- [3-2] 博士課程教育リーディングプログラム
『たおやかで平和な共生社会創生プログラム』 (2013～2019) (H25～H31)
- [4-1] 研究大学強化促進事業 (2013～2022) (H25～H34)
- [5-1] スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプ A)
『世界をキャンパスとして展開する広島大学改革構想』 (2014～2023) (H26～H35)

大学の「システム改革」は、組織や教育課程等の「形」の改革と、それを構成している構成員の「意識」の改革の両方が伴って、はじめて実効あるものとなる。特にその両方が必要な項目として次のようなものがある。

- ・大学の男女共同参画に関する基盤整備と、教職員の意識改革
- ・若手研究者の養成に関する基盤整備と、教職員の意識改革
- ・博士課程後期の教育システム改革と、教職員の意識改革
- ・大規模データの収集と活用に関するシステム改革と、教職員の意識改革

これらのシステム改革は、上記の大型外部資金の導入と歩調をあわせて推進してきている。とくに最近の大型システム改革関連事業は、8年間や10年間のよう、事業期間が長くなっている。すなわち、中長期的な視点のもとで、大学のシステム改革の計画をたてることができる。

広島大学では、平成 19 年度からこれまで 9 年間、途切れることなく、女性研究者支援関連事業を実施してきた。

(1) 女性研究者支援モデル育成

『リーダーシップを育む広大型女性研究者支援』 (2007～2009) (H19～H21)

(2) 女性研究者養成システム改革加速

『広大システム改革による女性研究者活躍促進』 (2010～2014) (H22～H26)

(3) 女性研究者研究活動支援事業(拠点型)

(2013～2015) (H25～H27)

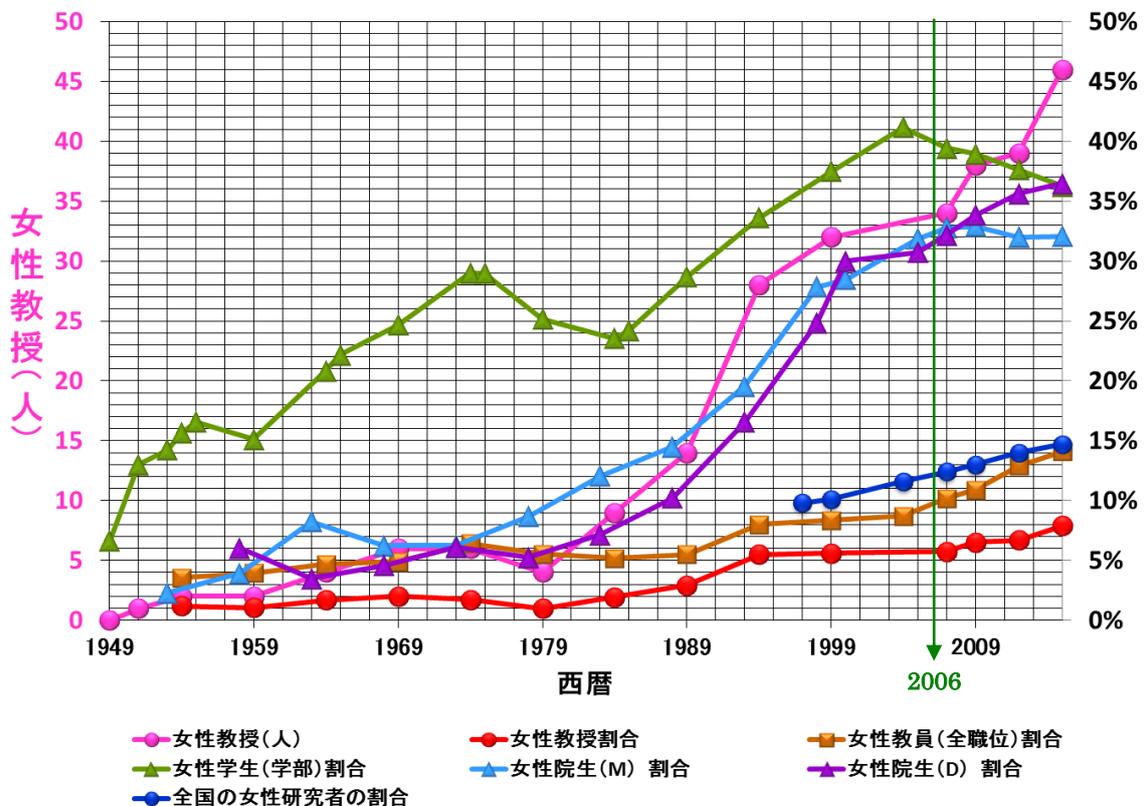
「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」事業は、平成 25 年度の公募要領に記載されているように、人材の多様化、研究の活性化、男女共同参画意識の醸成、柔軟な組織編成や環境整備等を、体系的・組織的に実施することをめざすものである。本書の第 I 章では、この 9 年間に広島大学において進行した、「形」と「意識」の両面におけるシステム改革の結果として、女性の割合がどのように変化してきたか、また、女性研究者の活躍状況をまとめる。

1-1. 広島大学構成員の女性の割合の変遷

広島大学は、昭和24年(1949年)に、広島文理科大学や広島女子高等師範学校を含む多くの前身校を包括し、設置された。その年の第1回入学許可数(1304名)の内、女性は86名であった。以来、学部生における女性の割合は増え続け、文学部と教育学部では昭和40年(1965年)頃には、50%を超えた。理工農系の学部でも女性の学部生は増えており、平成12年(2000年)頃から、理学部では20%程度、工学部では10%程度、生物生産学部では50%程度である。全学平均でも、学部生における女性の割合は、平成元年(1989年)頃から30%を超え、平成20年(2008年)頃からは40%程度となっている

広島大学大学院は昭和28年(1953年)に設置(当初は、文学、教育学、理学研究科)された。その年、79名が入学し、その内、女性は2名(文学1名・教育学1名)であった。博士課程前期(M)生における女性の割合は、昭和45年(1970年)頃から増え始め、博士課程後期(D)生における女性の割合は、昭和55年(1980年)頃から増え始めた。ともに、平成元年(1989年)頃から急激に増加し、平成20年(2008年)頃からは、大学院生における女性割合は、M生もD生も30%を超している。

一方、広島大学の教員における女性の割合は、長い間、数%程度であったが、平成19年(2007年)に、やっと10%台になった。教授における女性の割合は、平成5年(1994年)頃から5%を超えた。女性教授の数としては、長い間、一桁であったが、平成元年(1989年)頃から増え始め、平成10年(1998年)頃に30人を超えた。



広島大学男女共同参画宣言が出された平成 18 年(2006 年)は、このように、学部生および大学院生(MもDも)における女性の割合が30%以上になって久しい、という時代であったことがわかる。それにもかかわらず、教員における女性の割合は 9%に達していなかった。広島大学男女共同参画宣言の後、広島大学は、いろいろな面で大きく変わった。その変遷過程を次に示す。

1-2. 男女共同参画に関する取組履歴

広島大学の、男女共同参画推進に関連する取組みは次のように進んでいる。



1-3. 広島大学の人材育成システム改革に関連する推進担当責任者

(1) 男女共同参画推進委員会委員長

| | | |
|-----------------|-------------|--------|
| 平成19年2月～平成20年3月 | 理事(総務担当) | 工藤 敏夫 |
| 平成20年4月～平成21年3月 | 理事(総務担当) | 河本 朝光 |
| 平成21年4月～平成24年3月 | 理事(財務・総務担当) | 河本 朝光 |
| 平成24年4月～平成26年3月 | 理事(財務・総務担当) | 平野 仁司 |
| 平成26年4月～ | 理事(財務・総務担当) | 松ヶ迫 和峰 |

(2) 副理事(男女共同参画担当)

| | |
|--------------------------------|----------------------|
| 平成19年5月21日～平成21年12月 | 相田 美砂子(大学院理学研究科教授) |
| (平成19年6月30日までは、学長補佐(男女共同参画担当)) | |
| 平成22年1月～平成25年3月 | 坂田 桐子(大学院総合科学研究科教授) |
| 平成25年4月～平成27年3月 | 中坂 恵美子(大学院社会科学研究科教授) |
| 平成27年4月～ | 森永 康子(大学院教育学研究科教授) |

(3) 男女共同参画推進室長

| | |
|------------------|----------------------|
| 平成20年4月～平成21年12月 | 相田 美砂子(大学院理学研究科教授) |
| 平成22年1月～平成25年3月 | 坂田 桐子(大学院総合科学研究科教授) |
| 平成25年4月～平成27年3月 | 中坂 恵美子(大学院社会科学研究科教授) |
| 平成27年4月～ | 森永 康子(大学院教育学研究科教授) |

(4) 人材育成推進室長

| | | |
|-----------------|--------------|-------|
| 平成21年4月～平成22年3月 | 副理事(総務企画担当) | 児島 昌樹 |
| 平成22年4月～平成24年3月 | 副理事(総務企画担当) | 山口 良文 |
| 平成24年4月～平成25年3月 | 副理事(総務企画担当) | 加藤 敏雄 |
| 平成25年4月～平成26年3月 | 副理事(人事・労務担当) | 羽田 誠一 |
| 平成26年4月～ | 副理事(人事・労務担当) | 眞田 一美 |

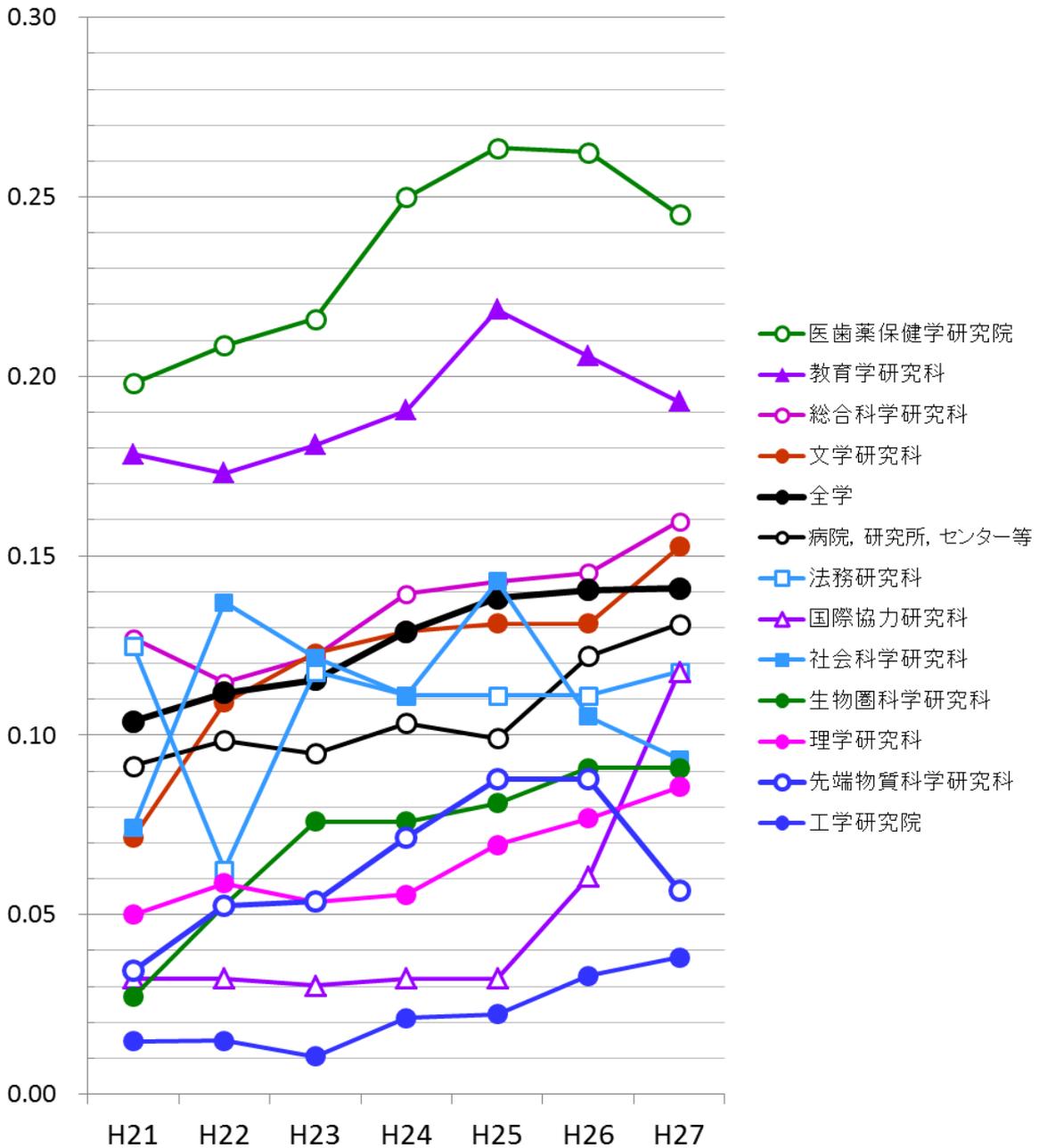
(5) 人材育成推進室 女性研究者キャリアアップ部会長

| | |
|------------|--------------------|
| 平成22年9月1日～ | 伊藤 圭子(大学院教育学研究科教授) |
|------------|--------------------|

(6) 女性研究活動委員会 委員長

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 平成25年10月3日～平成27年3月 | 三浦 道子(大学院先端物質科学研究科教授) |
| 平成27年4月～ | 坂田 桐子(大学院総合科学研究科教授) |

1-4. 研究科等別の女性教員在籍割合の経年変化

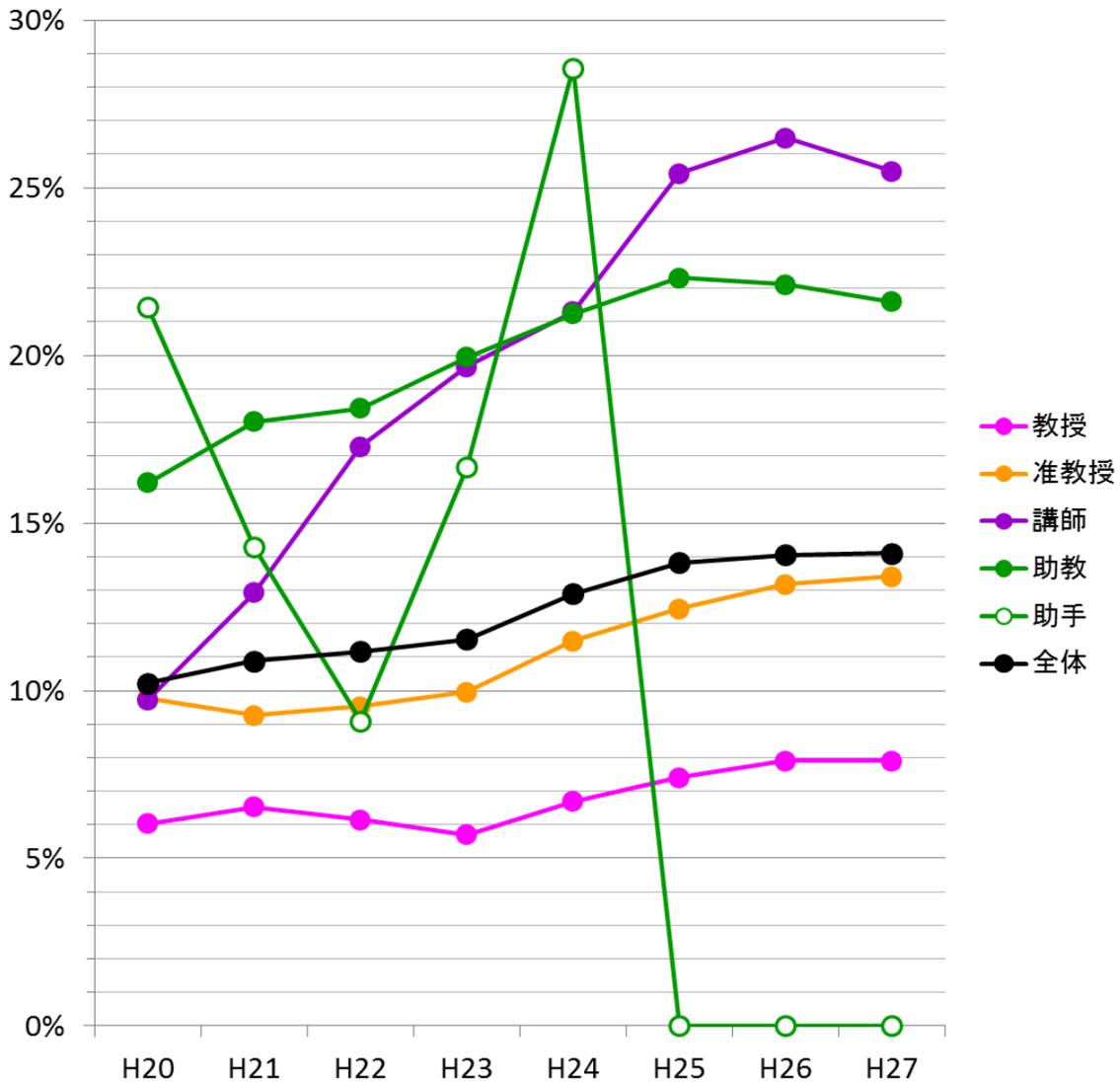


※ 各年度 5 月 1 日現在

※ 医歯薬保健学研究院は平成 24 年 4 月 1 日に統合されたが、ここでは、それ以前も統合してプロット。

平成 21 年度に女性教員の在籍割合が特に低かった 5 研究科(工学, 国際協力, 理学, 先端物質科学, 生物圏科学)も, 女性教員の在籍割合が着実に増加している。工学研究院以外は, 5% 以上になった。

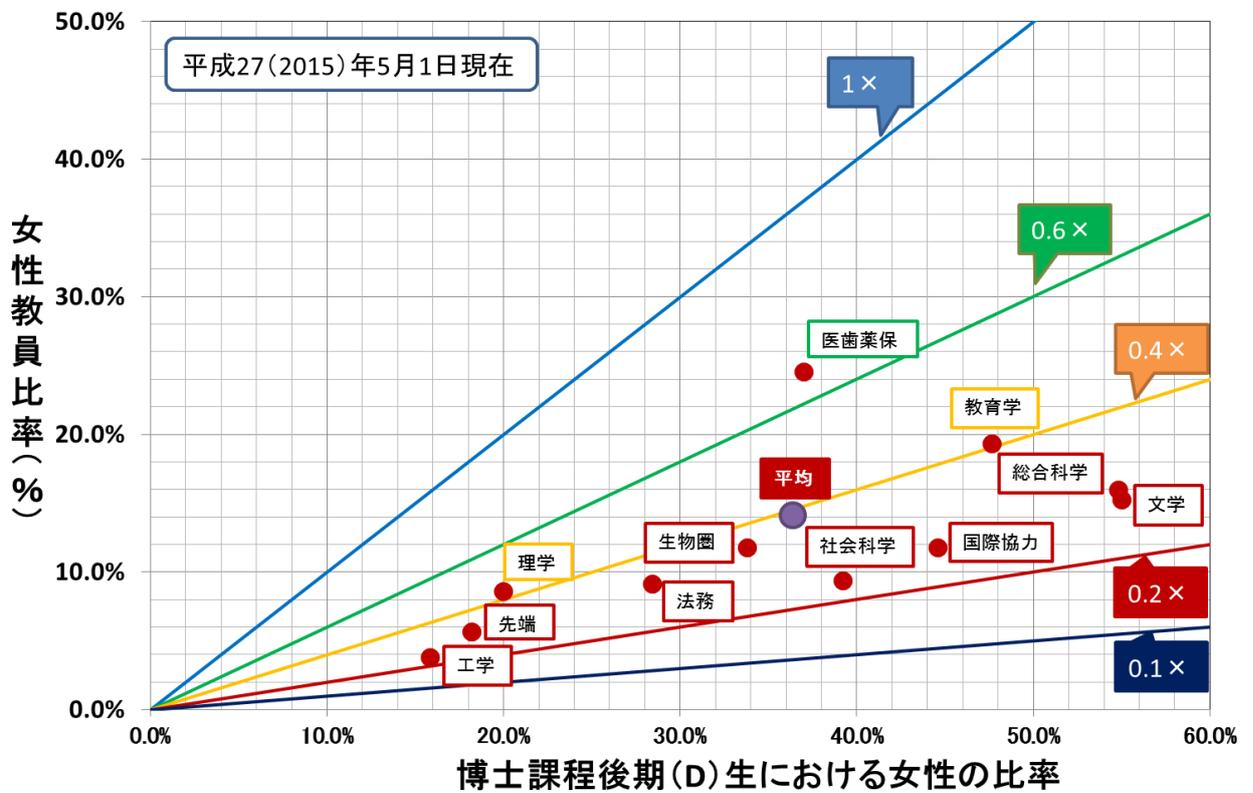
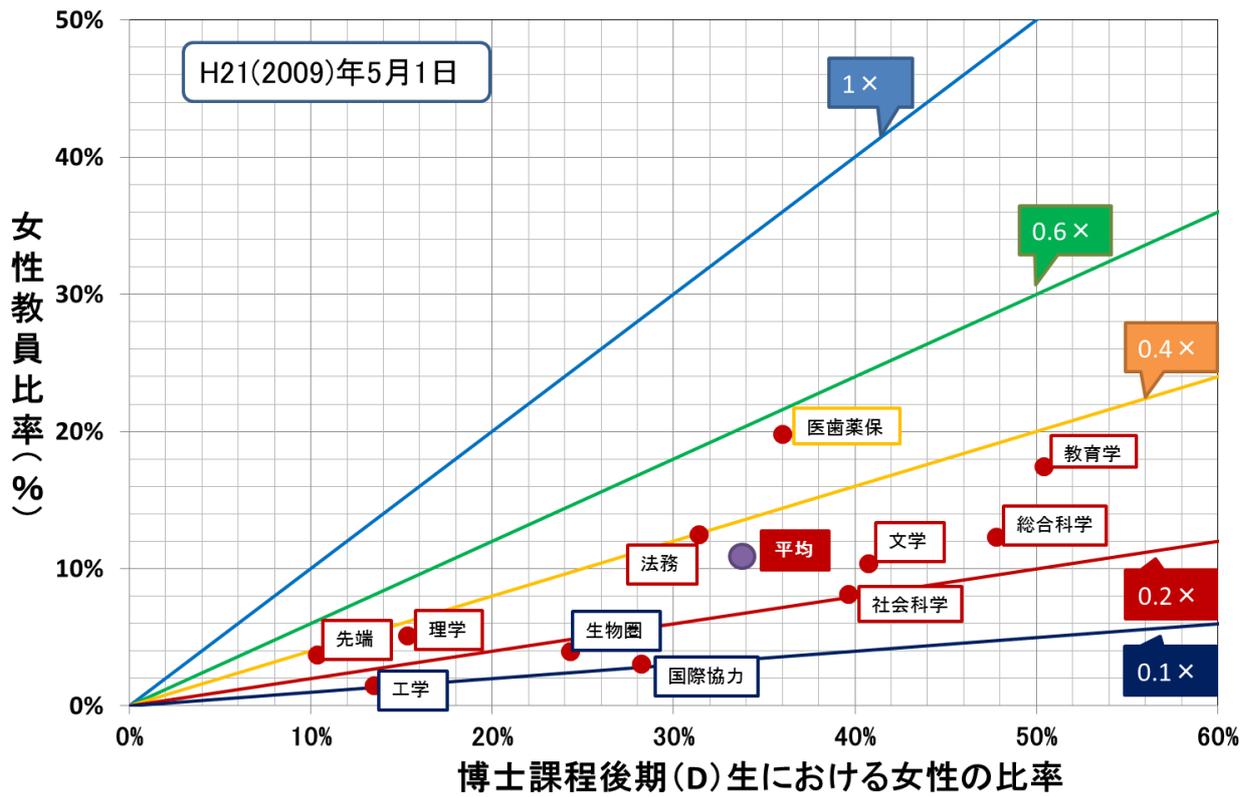
1-5. 職位別の女性教員の割合の変移



1-6. 広島大学の女性の教員と学生の割合の比較

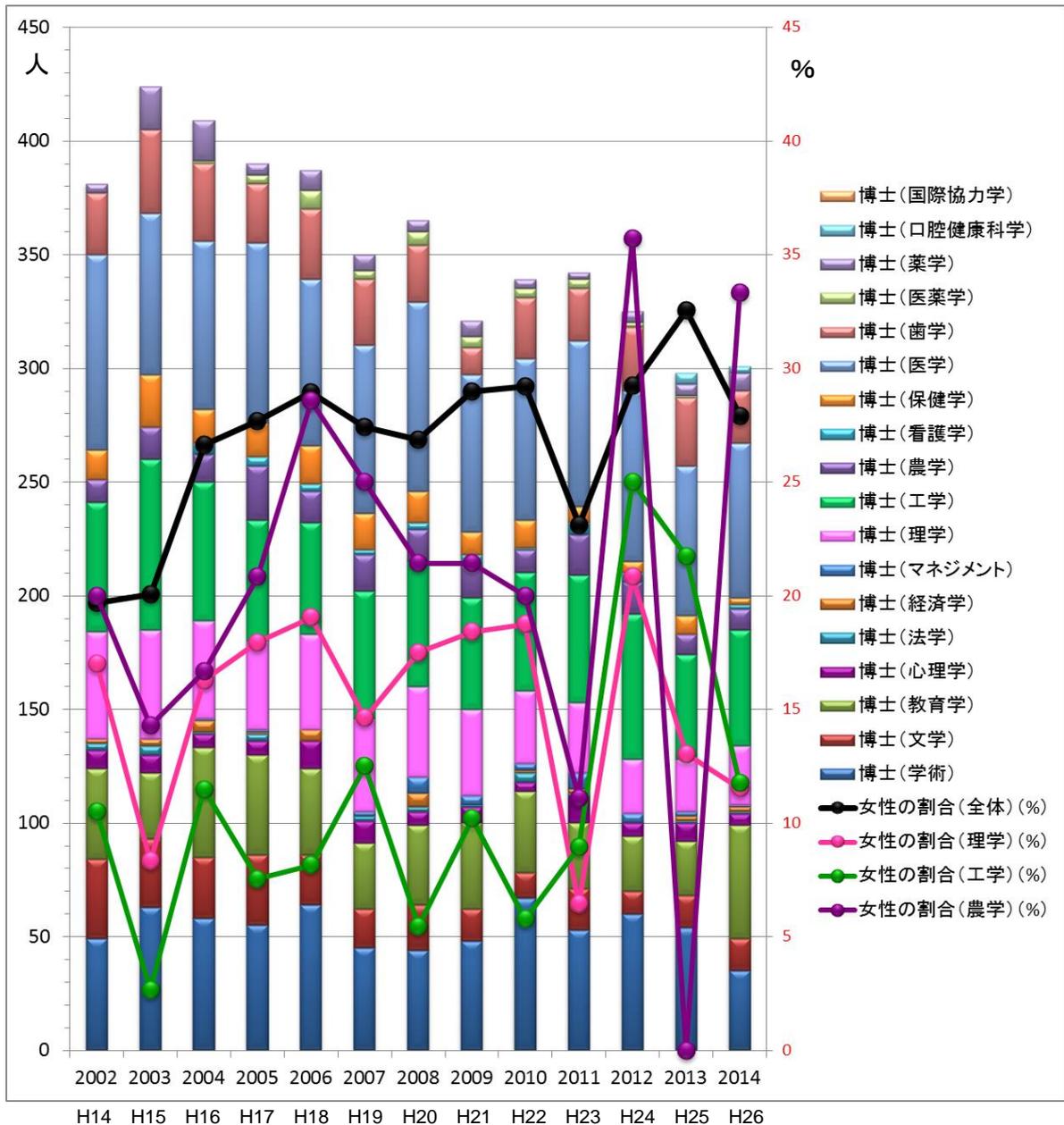
縦軸に各研究科における女性教員の割合を、横軸に各研究科における博士課程後期の学生の中の女性の割合をプロットしたグラフを次ページに示す。2009(平成 21)年と 2014(平成)26 年の、各年度 5 月 1 日現在のデータである。女性教員の割合と女性の D 生の比が 1:1 の対応にあれば、青い線上にのる。女性の D 生の割合と比べて女性教員の割合が、6/10 では緑のライン、4/10 では黄色のライン、2/10 では赤のライン、1/10 では紺の線上にのる。

2009(平成 21)年に比べて、2014(平成 26)年度では、ほぼすべての研究科で女性の D 生の割合は増加傾向、すなわち、横軸で右方向に移動し、また、ほぼすべての研究科で女性教員の割合は増加傾向、すなわち、縦軸で上の方向に移動している。平成 26(2014)年度は、国際協力研究科以外のすべての研究科で赤のラインより上になった。なお、国際協力研究科も、12 月 1 日現在の教員データでは、赤のラインより上になっている。



1-7. 学位（博士）の授与数と女性の割合

広島大学の博士号には、現在、18種類の名称がある。年度毎の、それぞれの博士の授与数を次図に棒グラフ(左軸)で示す。全体の博士授与数の中の女性の割合、及び、博士(理学)、博士(工学)、博士(農学)の授与の女性の割合を折れ線グラフ(右軸)で示す。年度ごとの変動は大きいですが、全体では、平成16(2004)年度以降、概ね30%程度を女性が占めており、増大傾向にある。博士(理学)と博士(農学)については、平成14年度には既に女性の割合は20%程度であった。博士(工学)については、平成24年度に20%以上になっている。



1-8. 広島大学特別研究員

広島大学特別研究員制度を、平成 26 年度から次のように内容を充実した。

広島大学大学院博士課程(博士課程前期を除く。)を修了し博士の学位を取得した者を、広島大学特別研究員として雇用(広島大学の独自経費)し、教育研究機関や産業界で活躍する人材を育成する。また、女性枠を設ける。

広島大学特別研究員は、グローバルキャリアデザインセンターに所属し、希望の研究室で独自の研究、あるいは企業との共同研究等に従事する。併せて、当センターの「実践プログラム」を受講することにより、実務能力の基礎や幅広い研究展開能力を身につける。また、企業派遣プログラムにより企業等でのインターンシップを行う。

公募回数=年 2 回

募集人数=年 15 人程度

雇用開始=4 月(第 1 期)と 10 月(第 2 期)

雇用期間=1 年間(原則として)

実績(応募者の内訳)

| | | 人文社会系 | | 理工農系 | | 医療系 | | 計 | | | |
|-----|-------|-------|----|------|----|-----|----|----|----|----|-------|
| | | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 総計 | 女性% |
| H26 | 第 1 期 | 9 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 14 | 1 | 15 | 6.7% |
| | 第 2 期 | 1 | 1 | 6 | 3 | 1 | 2 | 8 | 6 | 14 | 42.9% |
| H27 | 第 1 期 | 2 | 3 | 9 | 6 | 2 | 0 | 13 | 9 | 22 | 40.9% |
| | 第 2 期 | 2 | 2 | 7 | 3 | 0 | 1 | 9 | 6 | 15 | 40% |
| H28 | 第 1 期 | 7 | 8 | 12 | 5 | 2 | 0 | 21 | 13 | 34 | 38.2% |
| | 第 2 期 | | | | | | | | | | |

実績(採用者の内訳)

| | | 人文社会系 | | 理工農系 | | 医療系 | | 計 | | | |
|-----|-------|-------|----|------|----|-----|----|----|----|----|-------|
| | | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 総計 | 女性% |
| H26 | 第 1 期 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0※ | 6 | 0% |
| | 第 2 期 | 1 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 | 6 | 3 | 9 | 33.3% |
| H27 | 第 1 期 | 0 | 2 | 4 | 2 | 1 | 0 | 5 | 4 | 9 | 44.5% |
| | 第 2 期 | 0 | 2 | 3 | 2 | 0 | 0 | 3 | 4 | 7 | 57.2% |
| H28 | 第 1 期 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 4 | 4 | 8 | 50% |
| | 第 2 期 | | | | | | | | | | |

(※平成 26 年度第 1 期に女性の採用者が 0 であるのは、本人の都合で辞退したため。)

平成 26 年度第 1 期は女性の応募自体が少なかったが、第 2 期以降は、応募者の内の女性の割合は 4 割以上である。また、採用者の内の女性の割合は、平成 26 年度第 2 期が 3 割強、平成 27 年度以降は 4 割以上になっている。

1－9. URA

URA (University Research Administrator) は、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材である。平成 23 年度から文部科学省が「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業を開始したこともあり、近年、大学等において URA の配置が急速に進んでいる。

広島大学では、研究大学強化促進事業や女性研究者研究活動支援事業(拠点型)の一環として、平成 25 年度から URA を配置している。広島大学の URA は、次の 3 層で構成している。

- (1) シニア URA (学術系, 事務系)
- (2) URA (学術系, 専門系, 事務系)
- (3) アソシエイト URA

学術系の URA は、研究力を有する博士学位取得者などであり、9 名(平成 28 年 2 月現在)が研究企画室に在籍している。その内訳は次のとおりである。

男性 5 名(内, 学位取得者 4 名)

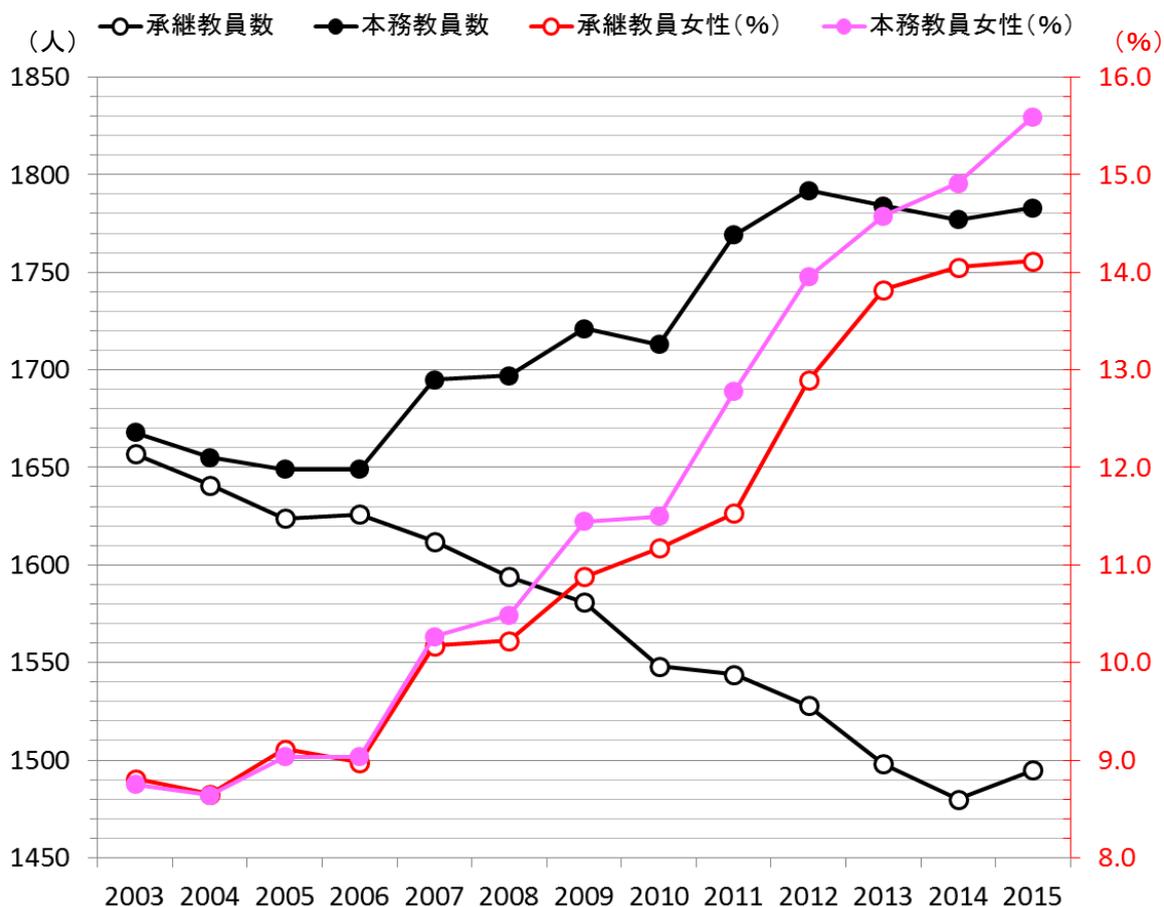
学位の種類: 博士(学術)×2, 博士(工学)×1, 博士(農学)×1

女性 4 名(内, 学位取得者 4 名)

学位の種類: 博士(学術)×1, 博士(理学)×3

2. 広島大学の女性の活躍

2-1. 本務教員数と承継教員数の経年変化

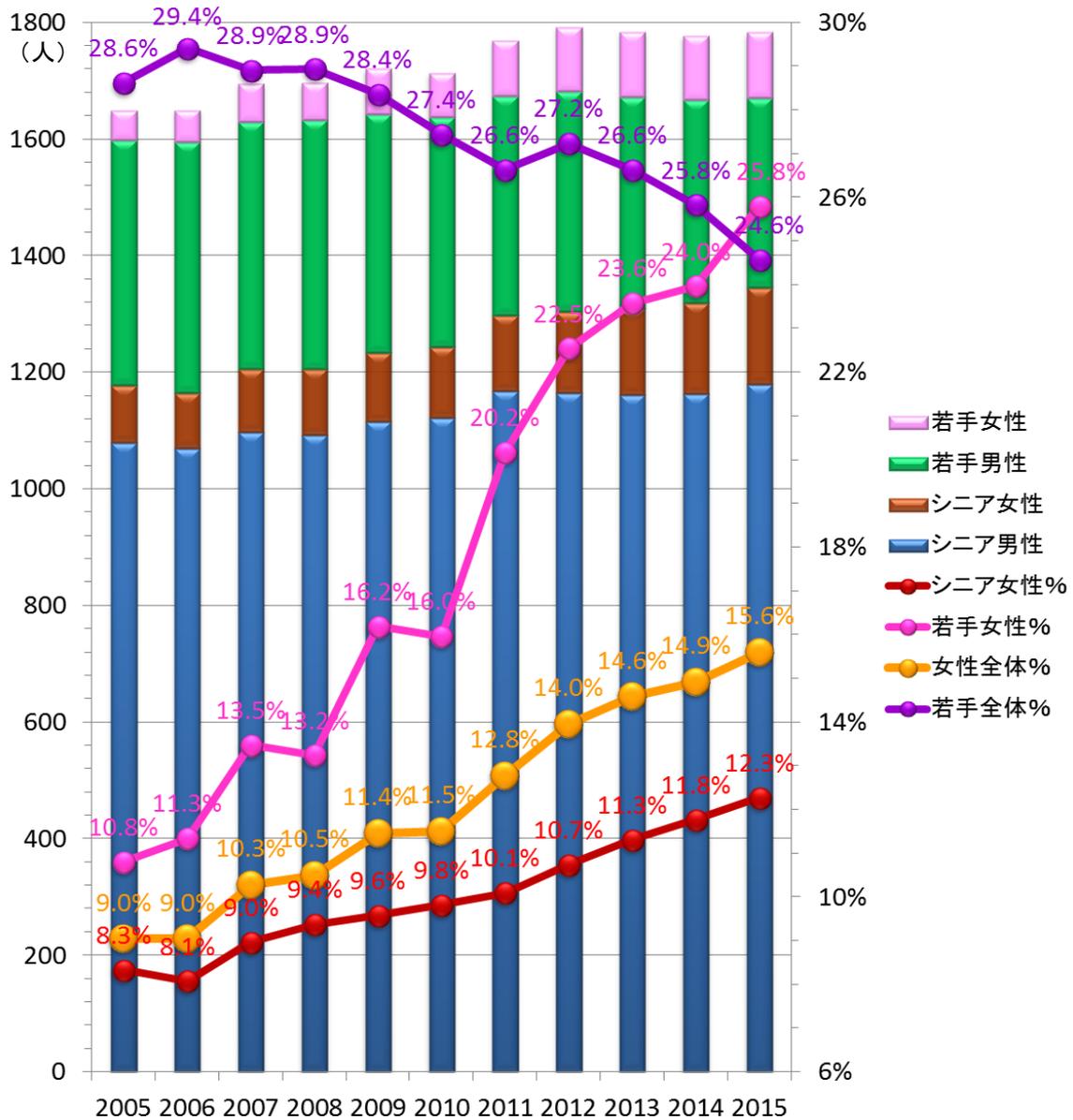


(各年度5月1日現在)

人件費削減により、承継教員は年々減少している。広島大学では、平成 22(2010)年度より、人件費ポイント制を導入している。その影響が、平成 23(2011)年度から現れており、それにより特任教員等数が増加し、本務教員の総数は増加している。女性教員の割合(右軸(%))は、本務教員では2011(平成 23)年度から、承継教員では2012(平成 24)年度から、増大が顕著である。

2-2. 本務教員のシニア・若手の男女別の数と割合の経年変化

※各年度5月1日現在



若手は40歳未満と定義する。若手の割合は最近減少傾向であるが、これには定年延長の影響もあるが、40歳代の中堅層の転出が少なくなっていることも一因、と考えられる。

若手の中の女性の割合(折線(右軸)濃桃色)は、10年前は10%台であったが、数年前に20%を超した。シニア教員の中の女性の割合(折線(右軸)濃赤色)も年々増加しており、本務教員に占める女性の割合(折線(右軸)橙色)は、年々増加している。

2-3. 科研費等外部資金の獲得

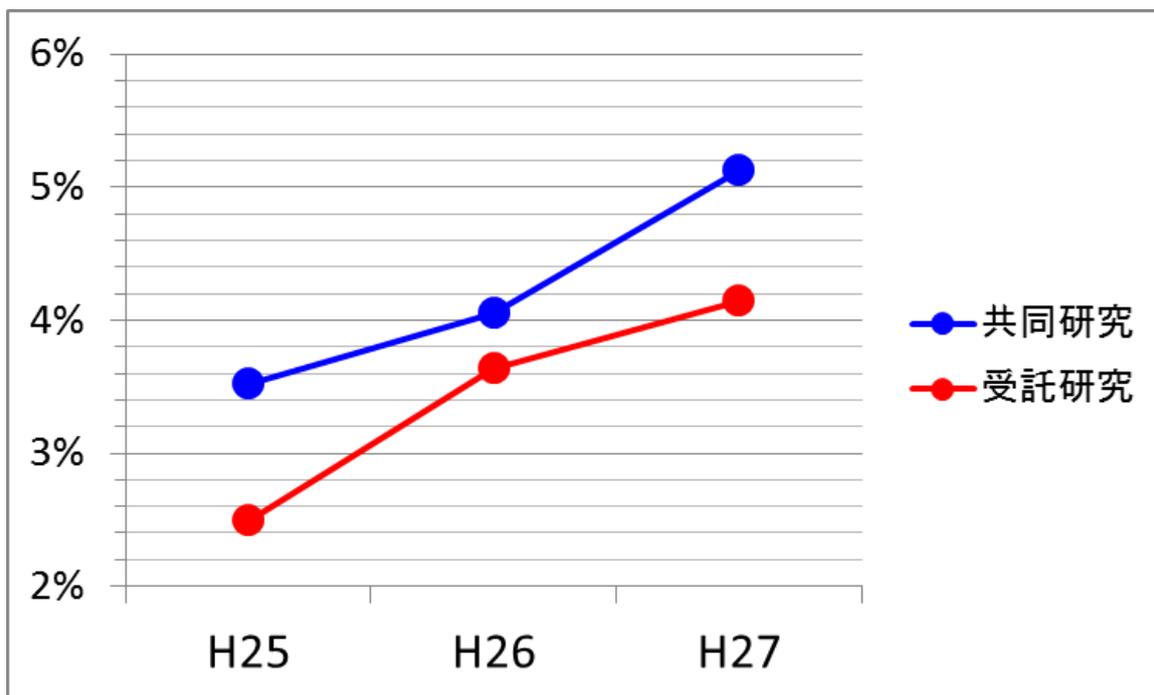
女性研究者の活躍促進の一環で、女性の研究者に係る外部資金の情報の通知及び申請する際のバックアップ支援を行っている。

本学の女性研究者による外部資金の獲得件数は次のとおり（部局共通や広島大学基金など、個人に紐付けできないものを除く）。なお、平成27年度の共同研究および受託研究は、平成28年1月7日現在のデータである。

(件)

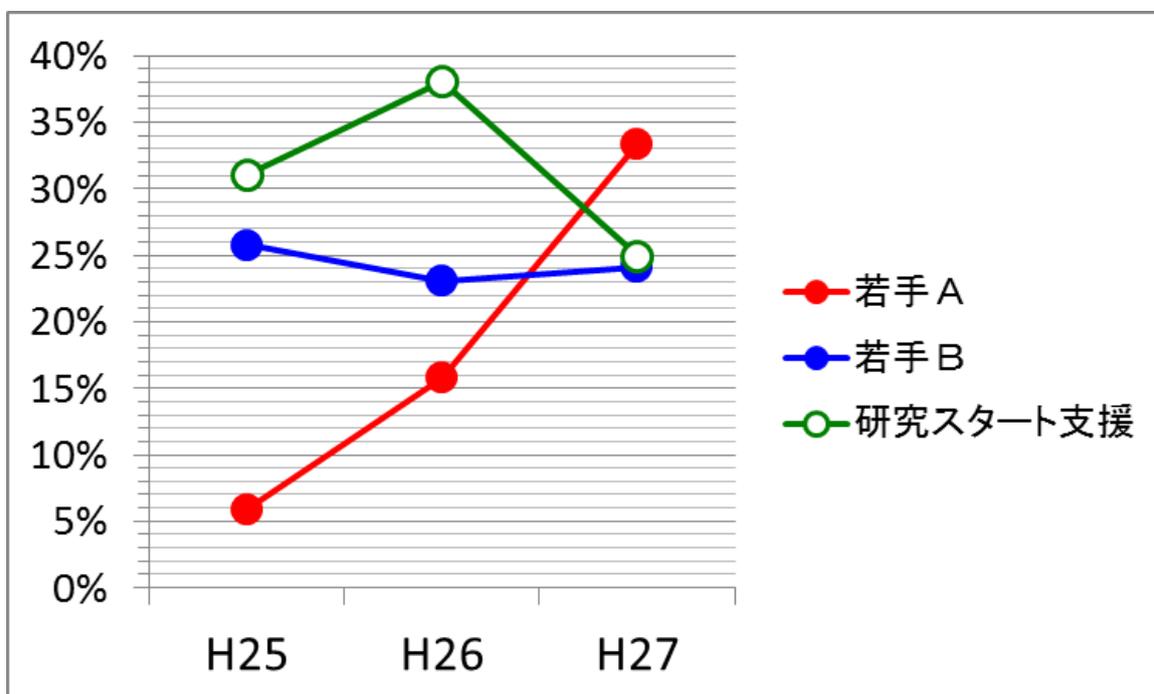
| | | 平成25年度 (内, 女性) | 平成26年度 (内, 女性) | 平成27年度 (内, 女性) |
|---------------|----------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 寄付金 | | 2168 (56) | 868 (14) | 1398 (32) |
| 共同研究 | | 369 (13) | 370 (15) | 351 (18) |
| 受託研究 | | 321 (8) | 330 (12) | 362 (15) |
| 科学研究費 助成事業 | 新学術領域研究 | 46 (3) | 41 (3) | 23 (2) |
| | 基盤S | 2 (0) | 3 (0) | 2 (0) |
| | 基盤A | 40 (1) | 35 (0) | 32 (0) |
| | 基盤B | 148 (8) | 146 (9) | 141 (7) |
| | 基盤C | 499 (64) | 532 (69) | 508 (75) |
| | 挑戦的萌芽 | 141 (8) | 140 (7) | 123 (6) |
| | 若手A | 17 (1) | 19 (3) | 15 (5) |
| | 若手B | 252 (65) | 251 (58) | 203 (49) |
| | 研究スタート支援 | 29 (9) | 21 (8) | 20 (5) |
| | 奨励研究 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |

(1) 企業等との共同研究と受託研究の件数の、女性教員の獲得割合



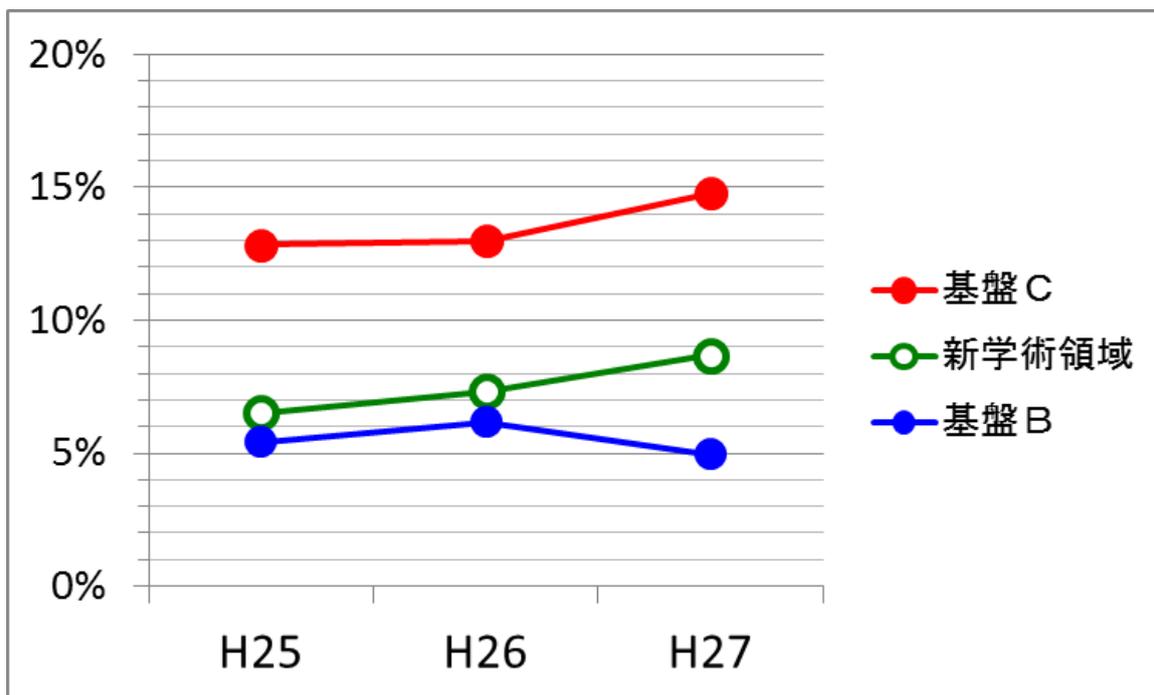
平成27年度のデータは、平成28年1月7日現在である。共同研究と受託研究ともに、女性教員の獲得割合が、顕著に高くなっていることがわかる。

(2) 科研費（若手対象の種目）採択件数の、女性教員の獲得割合



若手教員のうちの女性教員の割合が25%程度であることを考慮に入れると、若手Aの獲得者のうちの女性の割合が顕著に高くなっていることがわかる。

(3) 科研費（一般の種目）採択件数の、女性教員の獲得割合



年齢層の高い教員のうちの女性の割合がまだ低いことを考慮に入れると、これらの種目の女性教員の獲得割合は低くはない。特に基盤Cの獲得割合は、人数における女性の割合より高い。

2-4. 財団等から支援された、女性研究者の研究テーマ

支援の年数はそれぞれ異なる。採択年度別に記載する。職名は採択時のものである。

(1) 2013（平成25）年度

- 日本生命財団 研究助成（若手研究・奨励研究） 100万円 内井喜美子（研究員）
 「水中の浮遊DNA情報に基づく同種内外来集団の侵入状況の推定」
- 三島海雲記念財団 学術研究奨励金（自然科学） 100万円 岩越栄子（研究員）
 「視床下部で新たに発見した神経ペプチドによる三大栄養素の嗜好性に関する研究」
- トヨタ財団 2013年度研究助成プログラム助成金 160万円 小栗恵美子（特任助教）
 「福島原子力発電所事故によるコケ植物の生殖器官異常と遺伝的影響の検出」
- 矢崎科学技術振興記念財団 研究助成（奨励研究助成） 100万円 富永依里子（助教）
 「ビスマス系III-V族半導体のバンド構造の解析 -温度無依存禁制帯幅の起源の解明-
- 内藤記念科学振興財団 奨励金・研究助成 300万円 佐々木道子（准教授）
 「アミノ酸を不斉源とするキラル α -ニトリルカルバニオンの発生と捕捉」

(2) 2014 (平成26) 年度

- 武田科学振興財団 薬学系研究奨励 200万円 木下恵美子(助教)
「チオリン酸化反応を利用した脆弱なタンパク質リン酸基転移反応中間体の追跡」
- 科学技術振興機構 A-STEP FSステージ(探索タイプ) 300万円 山崎佐知子(助教)
「無血清・フィーダーフリー・ウイルスインテグレーションフリー培養系でのiPS細胞の樹立と治療への応用」
- 科学技術振興機構 A-STEP FSステージ(探索タイプ) 170万円 小川由布子(助教)
「廃瓦骨材の内部養生を活かした高強度フライアッシュコンクリートの開発」
- 内藤記念科学振興財団 女性研究者研究助成金 200万円 高橋美佐(助教)
「植物における二酸化窒素による新規バイオマス蓄積/花芽形成調節ペプチドの分子機能解析」
- 内藤記念科学振興財団 女性研究者研究助成金 200万円 中島一恵(助教)
「三環系抗うつ薬アミトリプチリンの脳アストロサイトを介する新規薬理作用に着目したin vivoモデル動物における薬効解析」
- 武田科学振興財団 ビジヨナリーリサーチ助成 200万円 岡村好子(准教授)
「難培養性微生物由来新規生理活性物質取得に向けたモジュール型酵素遺伝子の分離」
- 科学技術振興機構 A-STEP FSステージ(探索タイプ) 170万円 宮内睦美(准教授)
「血清Galectin-3を標的とした早産の予測・診断法の開発」
- 二十一世紀文化学術財団 学術奨励金 126万円 北仲千里(准教授)
「日本の自然科学研究者の研究不正に関する認識の研究－オーサーシップ問題を中心に－」

(3) 2015 (平成27) 年度

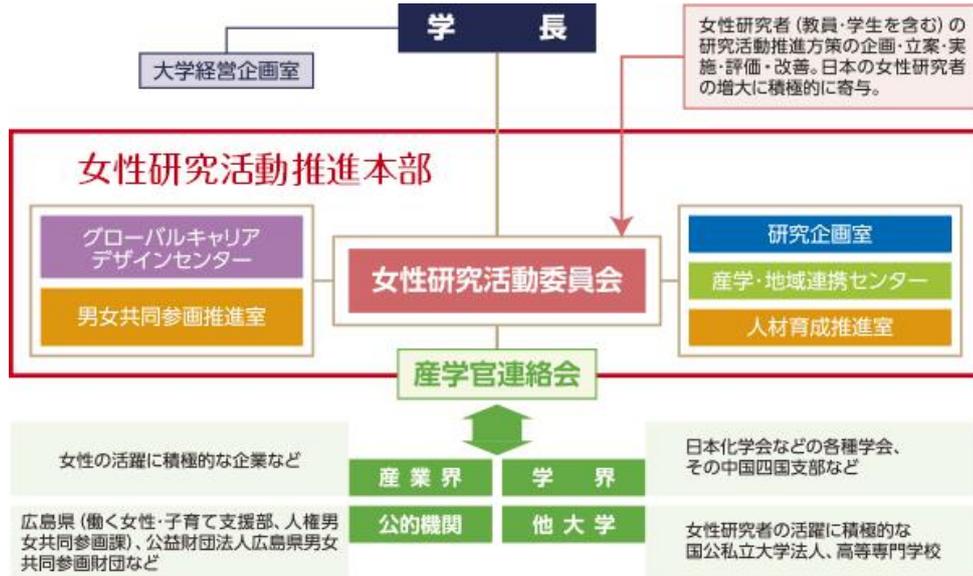
- 住友生命 第9回「未来を強くする子育てプロジェクト」スミセイ女性研究者奨励賞
「平安時代の儀式と音楽」 山本佳奈(研究員)
- セメント協会 第29回研究奨励金 100万円 小川由布子(助教)
「廃瓦骨材混入によるコンクリートの性能向上機構の解明」
- 武田科学振興財団 医学系研究奨励 200万円 浅田梨絵(助教)
「褐色脂肪細胞の小胞体ストレス応答制御による肥満症治療の基盤構築」
- 武田科学振興財団 ライフサイエンス研究奨励 200万円 佐藤明子(准教授)
「複数膜貫通ドメインタンパク質生合成へのEMC機能の解明」
- キャノン財団 研究助成 1900万円 富永依里子(准教授)
「海洋光合成細菌にIII-V族半導体結晶を成長させる技術の開拓」
- 日本教育公務員弘済会 日教弘本部奨励金 80万円 伊藤圭子(教授)
「危険予測・回避能力を育成する家庭科教員教育プログラム開発のための基礎的研究」

Ⅱ 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

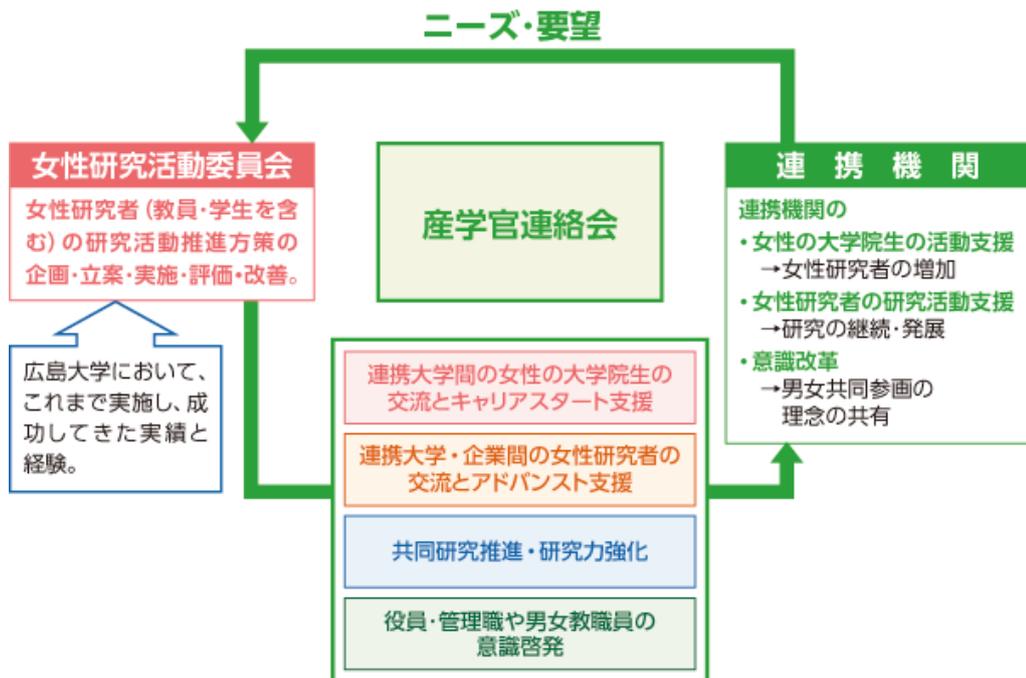
3. 実施内容

女性研究活動推進本部は、全学委員会である女性研究活動委員会を中心に、学内のさまざまな組織と連携しながら、研究活動推進の企画・立案・実施・評価・改善を行う。また、女性研究活動委員会のもとに設置した産学官連絡会を通して、外部の産業界・学界・公的機関・他大学等との連携を図り、女性研究者の研究活動をさらに支援していく。

3-1. 実施体制図



3-2. 実施内容図



3-3. ミッションステートメント

○事業名称

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

○総括責任者名

広島大学長 浅原 利正

○提案機関名

国立大学法人 広島大学

1. 事業目的

我が国の女性研究者の数の増加と、女性研究者の研究力のさらなる向上に資するため、主として中国四国地方の国公立大学法人等、公的機関及び企業体との連携を強化し、女性研究者研究活動支援の取組の他機関への普及を推進する。本学及び連携機関に所属する女性の大学院生を対象としたキャリアスタート支援や、女性研究者や管理職等を対象としたアドバンスト支援、また、女性研究者の共同研究支援等を推進するために、本学において、女性研究活動委員会を全学委員会として設置し、活動する。また、他機関連携を強力に推進するために、本委員会に、産学官連絡会を設置し、産学官の連携を具体的に進める場とする。

2. 達成目標

(1) 女性研究者の支援活動の普及状況

(1) - 1. 本学における普及

女性研究者数に関しては、本学では、第二期中期目標・中間計画において、取組終了時である平成27年度までに女性教員の割合を14%程度にすることを明確な目標として定め、そのために、女性教員の採用割合の目標値を各部局ごとに設定している。すなわち、総合科学研究科、文学研究科、教育学研究科、社会科学研究科、国際協力研究科、法務研究科、病院の各部局においては30%、医歯薬保健学研究院のうち旧保健学研究科は50%、同じく旧医歯薬学総合研究科は27%、原爆放射線医科学研究所27%、生物圏科学研究科26%、理学研究科17%、工学研究科12%、先端物質科学研究科6%、人文社会系センター等30%、自然科学系センター等25%である。これらの数値目標を取組終了時には達成できていることを目標とする。なお、本学は人件費ポイント制を導入しているため、職位別の人数が決まっていない。したがって、職位別の採用割合や在籍割合についての目標値は設定できない。

女性研究者の研究業績に関しては、若手研究者に関しては企業との共同研究実施率が、毎年、前年度より上昇することを目標とする。また、シニアの女性研究者に関しては、期間内に大型のプロジェクト研究が開始することを目標とする。

(1) - 2. 連携機関への普及

「女性研究活動委員会」のもとに設置する「産学官連絡会」のメンバー企業の数、3年間で30以上となることを、本事業の目標とする。

現在、本学は四大学（山口大学、福山大学、広島工業大学、広島国際大学）及び一企業（株式会社サタケ）との連携が確定している。これらの機関は、いずれも女性研究者の採用増加に取り組んでいるので、本学は、各機関がそれぞれの目標達成をできるように支援をしてゆく。

それ以外の、今後連携をすすめていく機関に関しては、取組終了時には以前に比して在籍女性比率又は在籍女性数が増加することを目標とする。

3-4. 取組内容

○女性研究者在職者数，在職比率，採用比率の変移

| | 在職者数 (助教以下) | 在職者数 (講師・准教授以上) | 在職者数計 | 在職比率 | 採用比率※ |
|---------|----------------|--------------------|-------|-------|-------|
| 平成 24 年 | 81 | 116 | 197 | 12.9% | 26% |
| 平成 25 年 | 79 | 128 | 207 | 13.8% | 39% |
| 平成 26 年 | 73 | 135 | 208 | 14.1% | 25% |
| 平成 27 年 | 80 | 131 | 211 | 14.1% | 26% |

※採用比率は、平成 26 年度までは当該年度全体の、平成 27 年度は平成 28 年 3 月 1 日現在の数値である。その他の数字は、当該年度の 5 月 1 日現在である。

1. 運営体制（第 4 章を参照）

- ・女性研究者（教員及び大学院生を含む）の研究活動における活躍を支援し、新たな独創的・学際的研究を推進すること、我が国における女性研究者のさらなる活躍促進に資することを目的として、本学の全学委員会として設置した「女性研究活動委員会」において、取組みを推進することとした。委員長は学長が任命した女性教授であり、教育研究評議会の評議員となっている。同委員会の取組を全学で推進した。また、同委員会に設置した「産学官連絡会」を通じて、学内における取組と他機関連携の取組を効果的に進めた。これらの取組の推進は、グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成担当及び産学・地域連携センターが協働して支援を行った。
- ・霞キャンパス（広島市内）に置いた拠点において、他機関との連携を推進した。
- ・独自ホームページを通じて、本事業を学内外に周知を行った。

2. キャリアスタート支援（第 6 章を参照）

- ・社会で活躍する女性人材の裾野を広げ、候補者を増やすことを目的として、本学だけでなく連携大学の女性の大学院生を対象として、材料系やバイオ系の企業見学や各種セミナーを企画した。
- ・女性の大学院生を対象としたインターンシップのためのマッチングを実施した。
- ・学生の意識啓発を目的として、小冊子等を作成し、広く配布した。

3. アドバンスト支援（第 7 章および第 9 章を参照）

- ・大学や企業研究所における女性の上位職の割合はまだ低いことから、女性の教授や管理職対象の管理職セミナーを開催した。
- ・学内外の意識啓発を目的としたセミナーやシンポジウムを開催した。また、女性の活躍の場を広げることによって社会全体の活力向上に貢献した個人・団体を対象とする「広島大学女性活躍促進賞」の授与候補者を選定し、賞を授与した。
- ・女性研究者に係る外部資金の情報通知及び申請する際のバックアップ支援を実施した。

4. 共同研究支援（第8章を参照）

- ・女性研究者の企業等との共同研究を推進し、女性研究者の研究の幅の拡大を図ることを目的として、イノベーションセミナーや研究交流会を開催した。
- ・女性研究者の大型研究プロジェクト構築を進めるために、研究活動支援者（URA）を配置した。

5. 他機関連携（第5章を参照）

- ・主として中国四国地域の国公立大学法人等や企業等との連携を進めた。また、より良い取組としていくための参考とするために、広域シンポジウム等に参加し情報収集を行った。
- ・本学の若手研究人材養成事業の連携企業及び産学官連携推進研究協力会の会員企業等との連携を進め、本取組の浸透を図り、本事業の連携機関を拡大した。
- ・産学官連絡会を四半期に1回程度開催し、取組の効果的な推進と浸透を図った。
- ・セミナー等開催の場合、必要に応じ、託児サービスを実施した。（7-3. を参照）

4. 女性研究活動委員会

4-1. 女性研究活動委員会委員

委員長： 坂田 桐子 （総合科学研究科教授）

女性賞担当

| | 氏名 | 所属・職名 |
|---|-------|------------------------|
| ① | 江坂 宗春 | 生物圏科学研究科教授，副学長（学生支援担当） |
| 2 | 藤田 聡 | 工学研究院教授 |
| 3 | 田中 純子 | 医歯薬保健学研究院教授 |
| 4 | 堀田 泰司 | 国際センター教授，副理事（国際担当） |

意識啓発セミナー担当

| | 氏名 | 所属・職名 |
|---|--------|-------------------------|
| ① | 斎藤 祐見子 | 総合科学研究科教授 |
| 2 | 古賀 信吉 | 教育学研究科教授 |
| 3 | 中坂 恵美子 | 社会科学研究科教授 |
| 4 | 太田 茂 | 医歯薬保健学研究院教授，副理事（研究企画担当） |

提言担当

| | 氏名 | 所属・職名 |
|---|--------|------------------------|
| ① | 坂田 桐子 | 総合科学研究科教授 |
| 2 | 越智 貢 | 文学研究科教授 |
| 3 | 森永 康子 | 教育学研究科教授，副理事（男女共同参画担当） |
| 4 | 相田 美砂子 | 理学研究科教授，副学長（大学経営企画担当） |

※ ○印は各分科会の座長を示す。

4-2. 開催一覧

| | |
|-------|----------------------------------|
| 2013年 | 第1回 10月3日(木) |
| 2014年 | 第2回 1月15日(水) |
| | 第3回 2月10日(月) |
| | 第4回 3月4日(火) |
| | 第5回 4月30日(水) |
| | 第6回 6月24日(火) |
| | 第7回 8月27日(水) |
| | 第8回 10月20日(月) |
| | 平成26年度 女性活躍促進賞選考委員会 10月27日(月) |
| | 第9回 12月3日(水) |
| 2015年 | 第10回 2月18日(水) |
| | 第11回 3月16日(月) |
| | 第12回 5月11日(月) |
| | 第13回 7月13日(月) |
| | 第14回 9月2日(月) |
| | 平成27年度 女性活躍促進賞選考委員会 10月28日(木) |
| | 第15回 11月17日(火) |
| 2016年 | 第16回 1月28日(木) |
| | 第17回 3月〇日(〇) |

運営事務局

学術・社会産学連携室 研究企画室

5. 産学官連絡会

5-1. 産学官連絡会委員

中国四国地方の産学官が協同し、具体的に活動する場として、産学官連絡会を設置した。産学官連絡会では、連携機関やその他の参加機関のニーズや要望をくみ上げながら、さまざまな取組を実施していく。

産学官連絡会メンバーは次のとおり。

| | 氏名 | 所属 |
|---|--------|---|
| ① | 石川 幸秀 | 副理事（社会連携担当） |
| 2 | 青山 恵子 | 副理事（研究連携担当） |
| 3 | 太田 茂 | 副理事（研究企画担当） |
| 4 | 江坂 宗春 | 副学長（学生支援担当） グローバルキャリアデザインセンター センター長 |
| 5 | 相田 美砂子 | 副学長（大学経営企画担当） グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 |
| 6 | 森永 康子 | 副理事（男女共同参画担当） 男女共同参画推進室長 |

※ ○印は座長を示す。

連携機関（平成28年2月末現在）

| | | |
|---------------|--------------------------|-----------------------|
| 官公庁 | | |
| 広島県 | 呉市 | 廿日市市 |
| 東広島市 | 広島市 | 福山市 |
| 三次市 | | |
| 研究所 | | |
| 独立行政法人酒類総合研究所 | | |
| 公的機関 | | |
| 中国経済連合会 | 一般社団法人中国地域 ニュービジネス協議会 | 公益財団法人 広島県男女共同参画財団 |

| 大学等教育機関 | | |
|--------------------------|-----------------|--------------------|
| 広島市立大学 | 広島工業大学 | 広島国際大学 |
| 福山大学 | 福山市立大学 | 山口大学 |
| 企業 | | |
| 株式会社アンデルセン ・パン生活文化研究所 | 株式会社イズミ | 大塚製薬株式会社 |
| 株式会社サタケ | 株式会社 ソアラサービス | 株式会社中国新聞社 |
| 株式会社日本政策金融公 庫広島支店 | 広島ガス株式会社 | 富士通株式会社中国支社 |
| フマキラー株式会社 | マツダ株式会社 | 三菱重工業株式会社 広島製作所 |
| 三菱レイヨン株式会社 大竹研究所 | 株式会社もみじ銀行 | その他 1 社 |

5-2. 開催一覧

平成 25 年度から平成 27 年度にかけて計 6 回実施し、計 官公庁 4 機関、公的機関 3 機関、研究機関 1 機関、大学等教育機関 9 校、企業 16 社が参加した。

1. 第 1 回産学官連絡会

日時：平成 25 年 11 月 16 日（土） 10：30～11：30

場所：広島大学学士会館 2F レセプションホール（東広島キャンパス）

参加機関：官公庁 3 機関、公的機関 1 機関、企業 8 社、大学 5 校、高専 1 校

※終了後、ランチ交流会（学士会館 1 階 La Boheme） 11：30～12：20

2. 第 2 回産学官連絡会

日時：平成 26 年 2 月 8 日（土） 10：30～11：30

場所：エソール広島 2 階会議室

参加機関：官公庁 3 機関、公的機関 1 機関、企業 5 社、大学 5 校、高専 1 校

※終了後、ランチミーティング（エソール広島 2 階） 11：30～12：30

3. 第3回産学官連絡会

日時：平成26年7月18日（金） 10：30～11：30

場所：県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま 6F

参加機関：官公庁2機関，公的機関1機関，企業8社，大学4校

※終了後，ランチミーティング

（県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま 6F） 11：30～12：30

4. 第4回産学官連絡会

日時：平成27年3月13日（金） 13：30～14：30

場所：エソール広島 2F

参加機関：官公庁3機関，公的機関1機関，企業4社，大学3校

※終了後，ティータイム交流会（エソール広島 2F） 14：30～15：00

5. 第5回産学官連絡会

日時：平成27年6月26日（金） 11：00～12：20

場所：広島大学理学部 大会議室（E203室）（東広島キャンパス）

参加機関：官公庁1機関，企業5社，大学4校

※終了，ランチミーティング

（広島大学理学部 大会議室（E203室）） 12：20～13：30

6. 第6回産学官連絡会

日時：平成27年12月10日（木） 10：30～11：30

場所：広島大学理学部 大会議室（E203室）（東広島キャンパス）

参加機関：官公庁3機関，研究機関1機関，公的機関1機関，企業11社，

大学7校

※終了，ランチミーティング

（広島大学理学部 大会議室（E203室）） 11：30～12：30

5-3. 議事概要

1. 第1回産学官連絡会

- 事業説明
- 参加者自己紹介
- 平成25年度実施予定内容
 - (1)独自HPの開設
 - (2)セミナーの開催
 - (3)小冊子（主として女性の学生対象）
 - (4)企業訪問
 - (5)アドバンスト支援
 - (6)共同研究の推進
 - (7)セミナー等の際の託児サービス

○意見交換

- ・本事業の意義や目的について
広島大学では平成17年度から、男女共同参画推進の取組を実施してきた。本事業は、その取組を他機関にも広げることが目的としている。そのために、とくに、女性の大学院生が企業で活躍することの支援、女性研究者の共同研究の推進、および、幹部層への意識啓発を重点的に進める。本事業が終了する3年後には、広島大学だけでなく、周囲の機関において、さらに男女共同参画が根付いているような活動を進めていく。
- ・独自HPについて
広島大学と参加機関の意思疎通ができるような場に。
- ・小冊子（主として女性の学生対象）について
市や県で、女性の学生対象の取組など、配布の機会がある場合に配布していただく。
- ・企業訪問について
他大学からの参加も可能。
その場合、できるだけ参加学生の負担を少なくする形で実施する。

2. 第2回産学官連絡会

- 平成25年度 進捗状況
 - (1)独自HP
 - (2)セミナーの開催
 - (3)小冊子（主として女性の学生対象）
 - (4)企業訪問
 - (5)アドバンスト支援
 - (6)共同研究の推進
 - (7)セミナー等の際の託児サービス

企業訪問については、開催について参加企業に呼びかけた。

数社から、企業見学、女性研究者とのディスカッションについて可能、との回答があり、年度内の開催に向けて調整を行うことになった。

○平成 26 年度実施予定内容

- (1)産学官連絡会の開催
- (2)セミナーの開催
- (3)企業訪問
- (4)女性の大学院生の企業へのインターンシップ
- (5)アドバンスト支援
- (6)共同研究の推進

○意見交換

- ・官公庁からは、女性の就労支援を考えるのに、産学官連絡会で企業の声を聴くことができるのは、非常に良い、行政として地元企業と学生をつなげる役割を担いたい等の意見があった。
- ・企業からは、女性が働くための制度が整ってきているので、働く女性の選択肢が広がり、女性が活躍できる環境に改善されているとの意見があった。
また、女性社員の多い企業からは、例えば育児休暇中の支援等には、女性のみでなく男性社員の理解が必要、との意見もあった。
- ・大学等教育機関からは、女性の学生のための環境整備や教員の意識改革を図り、女性研究者の育成についても、取組を始めている等の意見があった。

3. 第3回産学官連絡会

○参加者自己紹介

○平成 25 年度 進捗状況

- (1)独自 HP
- (2)セミナーの開催
- (3)小冊子（主として女性の学生対象）
- (4)企業訪問
- (5)アドバンスト支援
- (6)共同研究の推進
- (7)セミナー等の際の託児サービス

企業訪問について、開催企業から、開催時期が学生の就職活動の時期と重ならないほうがよいのでは、との意見があった。また、他の開催企業からは、女性研究者とのディスカッションは、お互いに有意義な取組だったとの感想をいただいた。

○平成 26 年度実施予定内容

- (1)産学官連絡会の開催
- (2)セミナーの開催（キャリアスタート支援）
- (3)企業訪問
- (4)女性の大学院生の企業へのインターンシップ

(5)アドバンスト支援

①意識啓発セミナー

②第2回広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」公募

(6)共同研究の推進

○意見交換

- ・官公庁からは、女性の活躍促進に関する活動について報告があった。
広島市：経済団体を中心に、国、広島県、県内市町が「働く女性応援隊ひろしま」を結成。企業、特に経営者の意識啓発を目的とした女性の活躍促進シンポジウム等を開催。
東広島市：(株)サタケと共同で、ワークライフバランスについての記事を掲載。
- ・企業からは、特に女性学生についてのインターンシップの受入れ状況、大学との共同研究等について現状をうかがった。
- ・大学等教育機関からは、各校における女性の学生や教員の割合、インターンシップについて現状をうかがった。
- ・各機関からの意見、報告を踏まえ、相田副学長より、女性の院生が増えてきているが、女性の院生の活躍の場が広がっていない。特に、女性の院生へ、多様なキャリアパスがあることを示していく仕掛けが必要、と提言があった。
- ・JST から、企業訪問についてよい企画なので参加者の増加を目指して欲しい、共同研究についてシーズ発表会などを通じて、シニア研究者を含めて、共同研究を進めて欲しいと提言があった。

4. 第4回産学官連絡会

○平成26年度 進捗状況

(1)産学官連絡会の開催

(2)セミナーの開催

(3)企業訪問

(4)女性の大学院生の企業へのインターンシップ

(5)アドバンスト支援

(6)共同研究の推進

○平成27年度 実施予定内容

基本的には平成26年度と同様に実施する。

○意見交換

企業訪問について参加企業より意見をいただいた。

また、女性の活躍促進について、各参加機関より意見交換を行った。特にメンター制度を置く機関からその詳細について情報提供があった。

5. 第5回産学官連絡会

○参加者自己紹介

○平成26年度 実施報告

○平成27年度 進捗状況

(1)産学官連絡会

(2)キャリアスタート支援

(3)アドバンスト支援

(4)共同研究の推進

○意見交換

各出席者より女性の割合に関する数値目標について意見交換を行った。相田副学長より、官公庁の審議会等の女性委員比率の向上に関しては、大学から女性教員を案内することで可能になるのではないかと、との意見があった。

6. 第6回産学官連絡会

○平成27年度 進捗状況

(1)キャリアスタート支援

・セミナーの開催

・企業訪問

・女性の大学院生の企業へのインターンシップ実施への支援

・広報誌の作成

(2)アドバンスト支援

・意識啓発セミナー，シンポジウム

・平成27年度広島大学女性研究者奨励賞

・第3回広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」

(3) 共同研究の推進

・連携機関向けセミナーの開催

・若手研究者シーズ発表会

・女性研究者研究交流会等

○意見交換

各出席者より採用者及び管理職の女性比率及び数値目標について発表いただき、意見交換を行った。相田副学長より①家庭、②学校教育、③就職活動、④社会のどのレベルにおいても意識改革が必要である。この産学官連絡会だけで解決できることではないが、女性が上位職に就くように自覚を促し、社会の中にそのための育成システムを構築するよう、少しでもより良い仕組みの構築につながる努力をしていきたいと発言があった。

6. 女性の大学院生支援（キャリアスタート支援）

6-1. 企業訪問

女性が活躍する様々な企業を訪問し、女性研究者とのディスカッションなどを経験することで、研究者を目指す女性の大学院生のキャリアスタートを支援する。

実施内容は次のとおり。

1. 平成25年度

○オタフクソース株式会社

日時：平成26年2月21日（金）14：00～16：30

内容：会社情報・働き方の説明

卒業生とのディスカッション

（商品開発本部 研究室 マネージャー 片貝 由香里さん）

工場・お好み焼き館の見学

参加者：5名

参加者の声（一部抜粋）

- 研究というと、男性のイメージが強いが、女性研究者がチームを引っ張っていることを聞き、研究への意欲が高まった。
- 企業で働く研究者の生の声を聴くことができ、とても参考になった。
- 実際に商品を開発する現場に立ち会うことができ、将来こういうところで働きたいなという実感がわいた。
- 見学会の時期について、論文の発表準備などで忙しい時期だったので、もう少し時間に余裕のある時期の開催だとありがたい。

文部科学省科学技術・人材育成費補助事業
女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

企業見学バスツアー

平成26年度 広大⇨オタフクソース

旅行日程 平成26年2月21日（金）
募集定員 45名
募集対象 研究者を目指す女性の大学院生
大学院へ進学予定の女性の学部4年生

【内 容】
研究者を目指す女性の大学院生を対象に、様々な企業を訪問し、企業で研究をはじめ働く女性の姿を見て、今後の学習に活かす。

【訪問先】
オタフクソース株式会社
（詳しくは、下記の旅行日程参照）



| <申込期間> | | <旅行日程> | |
|----------|-------|----------|-------|
| 申込 | 開始 | 開始 | 終了 |
| 2月15日（月） | 12:00 | 2月21日（金） | 17:00 |

【申込方法】
2月15日（月）12:00～2月18日（水）17:00
キャリアセンター窓口にて、必要事項をパソコンで提出していただきます。
応募希望の場合、抽選となります。
2月15日（月）から申込書に参加の可否の連絡いたします。

【費用】
参加費 14,000円
交通費 2,000円
お昼食 1,000円
お土産 1,000円
合計 18,000円

【集合・解散場所】
学生アザザリ（間違えないよう確認） ※集合は15分前集合となります。到着は多少遅延になる場合があります。

【その他】
旅行はキャンセル料がかかります。詳細はのぞいてください。
旅行は必ず参加してください。旅行参加費は旅行代金に含めさせていただきます。旅行参加費は旅行代金に含めさせていただきます。旅行参加費は旅行代金に含めさせていただきます。

後 援
広島大学 女性研究活動委員会
広島大学キャリアセンター



（ディスカッションの様子）



（工場見学の様子）

○株式会社サタケ

日時：平成26年3月19日（水）13：30～15：30

内容：会社・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：6名（内他機関からの参加者4名）

参加者の声（一部抜粋）

- 会社のサポートがあり働きやすそう。男性と平等に働くことができそう。
- 結婚・出産において、サタケさんでのサポートが充実していることを、実際に女性から聞いたことで、信頼がより大きくなった。
- 女性に対する働きやすい環境（育児の配慮）があるからこそ、仕事に集中することができるのではないかと思います。
- 女性社員の声を聞いて良かった。会社説明会とはまた違った視点から見ることができ、とても良かった。

国立科学博物館学芸員 研究員 佐藤 美穂 氏
女性研究者研究活動推進事業（拠点型）

企業見学バスツアー

平成26年度 広大のサタケ

旅行日程 平成26年3月19日（水）
募集定員 29名
募集対象 研究者を目指す女性の大学院生
大学院へ進学予定の女性の学部4年生

【内 容】
研究者を目指す女性の大学院生を対象に、様々な企業を訪問し、企業で研究員として働く女性の姿を見て、今後の参考にしてもらう。

【送迎バス】
株式会社サタケ
（詳しくは、下記の旅行日程表参照）



| <申込期間> | | <旅行日程> | | | |
|----------------------------|---------------------|--------|---|---------------|-----|
| 3月4日（水）18:30～3月12日（水）17:00 | 3月19日（水）13:30～15:30 | 日 | 時 | 場 所 | 備 考 |
| 12:30 | 13:30 | | | 広大女子大学 学生センター | |
| 13:00 | 14:30 | | | 広大女子大学 学生センター | |
| 13:30 | 14:30 | | | 会社 工場見学 | |
| 14:30 | 15:30 | | | 広大女子大学 学生センター | |
| 15:30 | 16:30 | | | 広大女子大学 学生センター | |
| 16:30 | 17:00 | | | 広大女子大学 学生センター | |

※旅行日程表は、申込受付開始後、必ずご確認ください。
※旅行日程表は、申込受付開始後、必ずご確認ください。
※旅行日程表は、申込受付開始後、必ずご確認ください。

後 援
広島大学 女性研究活動委員会
広島大学 キャンパスセンター



（研究紹介の様子）



（会社見学の様子）

○三菱レイヨン株式会社

日時：平成26年3月27日（木）13：30～16：30

内容：工場・施設見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：8名（内他機関からの参加者3名）

参加者の声（一部抜粋）

- 女性であるということは、企業で研究者、技術者として働く上ではあまり関係ないと感じた。
- 自分の専門性を活かして仕事をされているからか、活き活きと働いているように見え、私も、専門に近い職に就くことができるかわからないが、働き甲斐のある仕事に就きたいと感じた。
- 女性の研究者の方と実際に会ってお話する機会がなかったので、有意義な企業見学会だった。
- 就業しながら大学などでの勉強する機会も与えられている企業で、社員の一層のレベルアップが期待できるシステムだと思った。

立派な科学者を目指す人に対する活動助成事業
女性研究者研究活動支援事業（拠点別）

企業見学バスツアー

平成26年度 広大⇄三菱レイヨン株式会社

旅行日程 平成26年3月27日（木）
募集定員 25名
募集対象 研究者を目指す女性の大学院生
大学院へ進学予定の女性の学部4年生

【内 容】
研究者を目指す女性の大学院生を対象に、様々な企業を訪問し、企業で研究者として働く女性の姿を見て、今後の夢を話し合おう。

【送迎先】
三菱レイヨン株式会社
（詳しくは、下記の旅行日程参照）



| <申込期間> | | <旅行日程> | |
|---|--|--|--|
| 3月4日（火）18:30～3月9日（水）17:00 | | 3月27日（木） | 13:30～16:30 |
| <申込方法> | | <費用> | |
| キャリアセンター窓口にて、必要事項をバ ンクロに記入していただきます。 応募者多数の場合は、抽選となります。 3月10日（水）に申込数に増加の可否の通 知いたします。 | | 11500 広大生アゲイン 15000 広大生アゲイン 15000 三菱レイヨン | 11500 工場見学 14000 宿泊費 15000 女性研究者との ディスカッション |
| <参加費> 無料 | | 15000 送迎バス代 15000 広大生アゲイン代 | |
| <集合・解散場所> 学生アゲイン（広島駅西口） | | 送迎バス代 送迎バス代 | |

※旅行日程は変更の可能性があります。詳細は必ず要項をご確認ください。

主催 広島大学 女性研究活動委員会
協賛 三菱レイヨン株式会社



（施設見学の様子）

2. 平成26年度

○株式会社サタケ

日時：平成26年11月27日（木）13：30～15：30

内容：会社・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：9名

参加者の声（一部抜粋）

- 女性が職場で活躍している様子を実際に見ることができ、今後の就活の参考になった。
- 企業の中で、思っていたよりも多くの女性が働いているのを見て、少し驚いた。
- 今回は農業機械系の企業だったが、自分の専門である化学分析等も行っていたので、就職先の選択肢の一つとしたいと思った。
- コミュニケーション能力、語学力、理解力というのは、やはり社会において重要とされるものであり、改めてそれを意識することができたし、これからのスキルアップに意欲を持とうと思った。
- 一つ一つの研究室や、施設を細かく説明していただき、イメージだけで終わることがなかったのでよかった。
- 見学時に、突発的な質問にも気さくに答えていただき、多くのことを学ぶことができた。女性研究者、ということにこだわらず、このような企業見学が大学でもっと広く認識されたらよいなと思った。

企業見学バスツアー
広島大学⇄(株)サタケ
旅行日程 平成26年11月27日(木)
募集定員 25名
募集対象 研究者を目指す女性の大学生
大学院へ進学予定の女性の学部生

| 時間 | 内容 | 場所 | 備考 |
|-------|------------------|-------|----|
| 13:30 | 広島学生協会のバスにて広島駅集合 | 広島駅 | |
| 14:00 | サタケ本社へ到着 | サタケ本社 | |
| 14:30 | サタケの工場見学 | サタケ工場 | |
| 15:00 | サタケの社員とのディスカッション | サタケ本社 | |
| 15:30 | 広島駅まで送迎 | 広島駅 | |



(工場見学の様子)



(ディスカッションの様子)

○湧永製薬株式会社

日時：平成26年12月1日（月）14：00～16：00

内容：会社説明・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：13名

参加者の声（一部抜粋）

- 今後の研究や、就職活動を行うにあたって、視野を広めること、企業で研究することと大学で研究することが具体的にどう違うのか理解することが大事だと思った。
- 実際に女性研究者の方からお話を聞いたことで、企業での研究がどういうものなのか、イメージが少し明確になった。
- 大手の企業に比べて、小規模で研究開発を行っているが、だからこそ大きな仕事を任せられ、やりがいを感じているということを知り興味があった。
- 直接仕事についてのお話を聞くことができ、とても充実した研究活動が伝わってきたのでよかった。
- 結婚、出産を経験されている女性の方も、復帰後、以前と同じように働いておられることを知り、とても安心した。男女の差もなく、研究に熱心に取り組まれている姿を見て、同じように働きたいと思った。

文部科学省科学技術振興機構 企業見学バスツアー
 本学が主催する企業見学バスツアー（第10回）

企業見学バスツアー

広島大学 ↔ 湧永製薬(株)

旅行日程 平成26年12月1日(月)

募集定員 25名
 募集対象 研究者を目指す女性の大学院生
 大学院へ進学予定の女性の学部生

【内 容】
 女性が活躍する様々な企業を訪ね、女性研究者とのディスカッションなどを体験することで、研究者を目指す女性の大学院生のキャリアスタートを支援します。

【往復バス】
 湧永製薬株式会社 広島事業所
 一乗車費
 (運 賃 金) 5,000円
 (運 賃 額) 25名 (2012年は有償) 1,250円
 【定員確保のため】 募集人数超過の場合は、募集開始の翌日より募集人数を調整いたします。
 URL: <http://www.wakunaga.co.jp/>

| <申込期間> | | <旅行日程> | |
|--|--|--------|-------|
| 11月15日(金)～11月27日(木)17:00 | | 14:00 | 16:00 |
| <申込方法> | | 12:00 | 14:00 |
| グローバルキャリアデザインセンター窓口にて、企業見学の申し込みをいたします。 | | 15:00 | 16:00 |
| 応募者多数の場合は、抽選となります。 | | 16:00 | 17:00 |
| 11月15日(金)に申込書に申込の可否の連絡をいたします。 | | 17:00 | 18:00 |
| <費用> | | 18:00 | 19:00 |
| 無料 | | 19:00 | 20:00 |
| <服装> | | | |
| スーツ | | | |
| <集合・解散場所> | | | |
| 学生プラザ1号館(入場券はなし)※集合・解散は本学指定の場所となります。 | | | |
| <問い合わせ先> 広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 学生研究人材育成担当 E-mail: scrc@hiroshima-u.ac.jp U R L: http://scrc.hiroshima-u.ac.jp/scrcnet/ | | | |
| ※本ツアーの企画・実施は、本学が主催する「グローバルキャリアデザインセンター」が中心となり、本学は協賛の形でサポートさせていただきます。また、本学は本学が主催する「グローバルキャリアデザインセンター」が中心となり、本学は協賛の形でサポートさせていただきます。 | | | |



(施設見学の様子)



(ディスカッションの様子)

○三菱レイヨン株式会社

日時：平成26年12月3日（水）13：30～16：30

内容：工場・施設見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：10名

参加者の声（一部抜粋）

- 研究者としてだけでなく、家庭との両立ができていても多く、あこがれを感じたと同時に企業の環境の良さも感じられた。
- 想像していたよりも多くの女性が研究職につかれています、驚いた。育休や産休、家庭との両立などされている方も多かったので将来の不安が解消できた。
- 今の研究を大切にしようという強いモチベーションになった。
- 就職で研究職を考えていたため、現場の研究員の方のお話を聞いて大変面白かった。
- 座談会のようなスタイルで、とても話しやすかった。
- 一つの話題に対して、いろいろな方のお話が聴けて、貴重な経験だった。
- 将来自分が仕事に就くイメージが浮かびやすくなった。
- 企業での研究もやりがいがありそうと思った。
- 今までは自分の専門分野の職業しか考えていなかったが、専攻が違っていてもあきらめなくてよいことが分った。

企業見学バスツアー

広島大学 ⇄ 三菱レイヨン(株)

旅行日程 平成26年12月3日(水)

募集定員 25名

募集対象 研究者を目指す女性の大学院生
大学院へ進学予定の女性の学部生

【内容】
女性が活躍する様々な企業を訪問し、女性研究者とのディスカッションなどを体験することで、研究意欲を高め、女性の大学院生のキャリアスタートを支援します。

【訪問先】
三菱レイヨン株式会社

～当日概要～
【集合時間】 9:30(広島大学内)
【集合場所】 広島大学内
【主な事業内容】 化粧品・機能繊維・応用有機化学・水環境事業・その他

＜申し込み＞
11月4日(水)8:30～11月9日(木)17:00

＜申込方法＞
グローバルキャリアデザインセンター窓口にて、必要書類をパソコンに入力していただきます。
必要書類の提出・確認は21日まで。
11月25日(水)に申込し参加の可否の連絡をいたします。

＜費用＞
参加費 10,000円
交通費 10,000円
昼食 10,000円

＜集合・解散場所＞
広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 留学生センター受付

＜問い合わせ＞ 広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 留学生センター受付担当
E-mail: women@global.hiroshima-u.ac.jp
E-mail: http://global.hiroshima-u.ac.jp/women/



(ディスカッションの様子)



(集合写真)

○マツダ株式会社

日時：平成27年2月23日（月）13：30～16：00

内容：ミュージアム・工場見学

女性エンジニアとのディスカッション

参加者：15名

参加者の声（一部抜粋）

- 実際に活躍されている女性の声を聞くことができてよかったです。
- 研究のことだけではなく、女性研究者としての働き方についても知ることができて参考になった。
- 昔から車好きで自動車メーカー勤務が夢だったが、「車社会は男が多い」「車関係は男の仕事」といったイメージが少しあり、かなわない夢かなと思っていたが、今回の企業訪問でとても勇気づけられた。
- 少人数のグループでの座談会は、話しやすく本当にありがたかった。
- 生き生きと語られている姿を見て、研究者になりたいという気持ちが強くなった。
- 車の製造工程をリアルに見ることができ、それぞれの工程に様々な方が関わっていることを知ることができた。研究のことだけではなく、女性研究者としての働き方についても知ることができて参考になった。
- 育児や家庭の仕事をこなしながら、技術職をこなし、キャリアアップを進めていく姿に感動した。
- 自分の意思を持った方が多く、自分の人生を自分の力で切り開いていこうという雰囲気を感じた。とても共感できた。



(施設見学の様子)



(集合写真)

3. 平成27年度

○三菱レイヨン株式会社

日時：平成27年12月1日(火) 13時30分～16時30分

内容：会社・工場見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：5名

参加者の声（一部抜粋）

- 女性の働き方や、女性が働いている現場の生の声がきけて、他の企業について何を見ればよいか分かった。
- 企業で活躍している女性は、仕事中心の生活をしているというイメージがあったが、家庭を持ちながら企業で活躍することが可能であるということがよく分かった。
- 今後の進路について、すぐ目の前にある就職だけでなく、そのもっと後のことも考えながら、就職活動をしていこうと思った。
- 女性に優しい企業で、雰囲気も和やかな印象を受けた。
- フランクな雰囲気です、色々な話が聞けて良かった。

企業見学バスツアー
広島大学 × 三菱レイヨン(株)
旅行日程 平成27年12月1日(火)
募集定員 20名
募集対象 研究者を目指す女性の大学院生
大学院へ進学予定の女性の学部生

内容 女性活躍の場から企業説明、女性研究者とのディスカッションなどを実施予定です。募集対象は研究者を目指す女性の大学院生のキャリアサポートを実施します。

【訪問先】
三菱レイヨン株式会社
広島県広島市東区
〒733-0292
広島県広島市東区
広島県広島市東区
広島県広島市東区

| 時間 | 内容 | 担当者 |
|-------|----------------------------|------------|
| 13:30 | 集合 | 三菱レイヨン株式会社 |
| 14:00 | 三菱レイヨン株式会社 工場見学 | 三菱レイヨン株式会社 |
| 14:30 | 三菱レイヨン株式会社 女性研究者とのディスカッション | 三菱レイヨン株式会社 |
| 15:00 | 三菱レイヨン株式会社 女性研究者とのディスカッション | 三菱レイヨン株式会社 |
| 15:30 | 三菱レイヨン株式会社 女性研究者とのディスカッション | 三菱レイヨン株式会社 |
| 16:00 | 解散 | 三菱レイヨン株式会社 |



(ディスカッションの様子)

○マツダ株式会社

日時：平成 27 年 12 月 2 日(水) 10 時 30 分～15 時 00 分

内容：会社説明・工場見学

研究紹介

女性エンジニアとのディスカッション

参加者：10 名

参加者の声（一部抜粋）

- 大学院生の方の経験を聞くことができたので、大学院生になった後、社会人になった後のことを想像して今後の進路を考えることができるようになると思う。
- 自分と同じような進路を歩んできた方のお話はとても刺激的で、参考になった。
- 仕事と生活の両方の点からの考え方や、女性視点での仕事の選び方を知ることができて良かった。
- 将来目指したいと思える、働く女性の方々とお会いできたことと、お話しできたことがとても良かった。
- 工場見学もでき、実際にお話も聴けてとてもためになった。



(施設見学の様子)



(集合写真)

○帝人株式会社

日時：平成 28 年 1 月 13 日(水) 13 時 00 分～16 時 30 分

内容：工場・施設見学

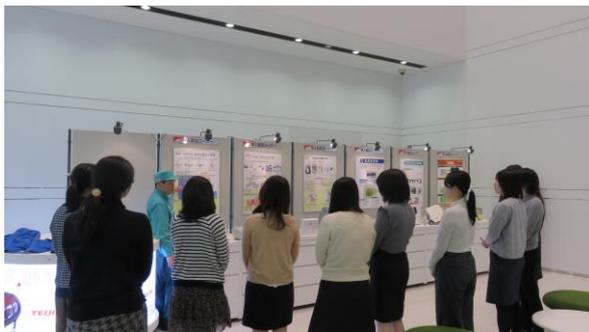
研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：11 名

参加者の声（一部抜粋）

- 自分も研究者・技術者を志望しているが、実際に、話を聞いたり現場を見たりする機会がなかなかなかったので、話が聞けて良かった。
- オフィスや実験室を見学することができ、職場の雰囲気が分かって良かった。
- 出産などの自分のライフプランは、自分の人生なので、タイミングなどについては会社のことを考える必要はない、というお話が印象的だった。今後自分のキャリアプランを考える上で役に立つ考えだと思った。
- 企業で活躍している女性の研究者・技術者の方々は、自己の研究を真剣にやりながら、家庭でもいろいろと仕事をこなさなければならないので、大変だと思う。この見学会で、企業では働く女性を支える様々な取組みを行っていることが分かった。
- 女性に対して理解のある企業で活躍されている方は、仕事と家庭との両立が可能だという印象を受けた。
- キャリアか家庭かどちらかを選ばなければならないようなイメージがあったが、制度をうまく活用し、周囲の人たちに助けってもらうことで仕事も家庭も充実させることができるとわかり、希望が持てた。



(施設見学の様子)



(集合写真)

○株式会社日本製鋼所

日時：平成28年1月14日(木) 13時00分～15時30分

内容：工場・施設見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：5名

参加者の声（一部抜粋）

- 男女分け隔てなく働かれている印象を持ちました。
- 一見、自分の研究分野と異なる企業でも、自分の専門が活かせるところがあるのだという発見がありました。
- 人数が少ない中でも、仕事にやりがいをもって取り組んでおられたので、不安に思っていることがあっても、他の社員の方々と助け合える雰囲気があるのだろうな、と思いました。
- ディスカッションでは、企業で働く女性について、よく理解することができました。
- 工場内の見学がとても充実していて、とても興味が持てました。ディスカッションの時間を長くっていただけたのもよかったです。



(ディスカッションの様子)



(集合写真)

○大塚製薬株式会社

日時：平成28年1月15日(金) 13時00分～16時00分

内容：工場・施設見学

研究紹介

女性研究者とのディスカッション

参加者：25名

参加者の声（一部抜粋）

- まず、企業について深く知ることができたこと、次に、女性研究者と実際に話すことができたことがとても良かった。
- 企業の研究者の方と話すのは初めてで、とても緊張したが、踏み込んだ質問にも丁寧な答えてくださって、よい経験になった。
- 女性研究者という視点で見学・お話を聞くことができ、インターンシップや説明会とは違う経験ができた。
- 今、何をすべきか等、刺激を受けることが多く、今後自分がどうしていきたいのか等を考える上で、参考になった。
- 自分の研究を極めて就職するという選択肢も、ありかもしれないと思った。
- ドクターに進学された方も多く、マスターまでで終わらなかった理由など詳しく聞くことができた。これからの自分の進路選択に役立つと思う。
- 実際に女性研究者の方から話を伺うことができ、疑問が解決でき、不安が解消され、とてもためになった。



(ディスカッションの様子)



(集合写真)

6-2. セミナー

女性の若手研究者および大学院生を対象として、英語論文の作成を支援するためのライティングセミナーや、研究者としてのキャリアデザインを考える講演やセミナーを実施した。

1. 英語論文ライティングセミナー

日 時：平成25年11月16日（土）14：40～17：10

会 場：広島大学 東広島キャンパス 理学部B棟301室

講 師：エダズグループジャパン株式会社 Jeffrey Robens 氏

対 象：日本語での論文投稿経験があり、これから海外への論文投稿を考えている女性研究者又は大学院生。 ※セミナーは英語で実施

参加者：54名（連携機関として、福山大学及び山口大学からの参加者含む）

プログラム：

Session 1：講義 30分＋Exercises 10分

1-1 Academic publishing

1-2 Journal selection

1-3 Exercises

（休憩：10分）

Session 2：講義 30分＋Exercises 20分

2-1 Titles and abstracts

2-2 Manuscript structure

2-3 Exercises

（休憩：10分）

Session 3：講義 30分＋Exercises 20分

3-1 Effective writing

3-2 Cover letters

3-3 Peer review

3-4 Exercises

参加者の声（一部抜粋）

- 自身の研究成果を世界に発信する上で、Section3（効果的な書き方・カバーレター・査読について）では、わかりやすい英語表現を使うこと、カバーレター、レスポンスレターの書き方が重要になることを認識できた。
- 構造的に書く方法を教えていただき、日本語で書く時にも役立つ感じがして参加して良かった。
- これまでに読んだ論文の構成がどうなっていたのかが分かり、何をどのポイントで書くべきかも分かり、大変有意義でした。
- 知らない投稿文献の検索サイトを教えてもらえたり、文献引用時文章をどのように変えるか等、非常に参考になった。



2. 公益社団法人 日本工学教育協会 中国・四国工学教育協会

ワークショップ I

オーガナイズドセッション「ダイバーシティの観点からみるリケジョの活躍」

日 時：平成 26 年 8 月 28 日（木）10:15～12:15

会 場：広島大学 東広島キャンパス 工学部 B 会場（103 講義室）

協 賛：広島大学男女共同参画推進室，広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

概 要：「リケジョ」が社会で活躍するためには，送り出す側の大学，高専において，男女共同参画推進の体制整備が極めて重要である。広島大学をはじめ各大学の先進的な取組に関する報告を元に，これからの大学，高専におけるダイバーシティ推進について，参加者を交えて議論する。

基調講演

相田 美砂子 広島大学 副学長（大学経営企画担当）

シンポジスト

中野 美由紀 芝浦工業大学男女共同参画推進室

内藤 和美 芝浦工業大学教育イノベーション推進センター

川上 善嗣 広島工業大学女子学生キャリアデザインセンター

中野（村田） 享香 新潟大学企画戦略本部

司会

内海 房子 国立女性教育会館

3. 2014 年 日本化学会中国四国支部大会

理系のキャリアデザインー男女共同参画社会の実現を目指してー（ランチオンセミナー）

日 時：平成 26 年 11 月 9 日（日）12:30～13:30

会 場：山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟 11 番教室

共 催：山口大学女性研究者支援室

内 容：オーガナイザー

山崎 鈴子 山口大院理工・山口大学女性研究者支援室長

（1）中四国における大学での取り組み事例

相田 美砂子 広島大学 副学長（大学経営企画担当）

（2）宇部興産株式会社での取り組み

柏木 公一 宇部興産株式会社 研究開発本部 企画管理部
研究推進グループリーダー

4. 第1回 科研費計画調書執筆リトリート

日時：①平成27年9月12日(土)、13日(日) 9:00~17:00

②平成27年10月3日(土)、4日(日) 9:00~17:00

会場：①東広島キャンパス 西条共同研修センター

②霞キャンパス 薬学部2階多目的室

主催：研究企画室・ライティングセンター

共催：女性研究者研究活動支援事業(拠点型)

内容：

i) オープニング

- ・参加者による各自の当日の到達目標の提示

ii) 計画調書作成

- ・個人の執筆スペースはパーティション等によって隔離
- ・アドバイザー(現役シニア教員)、URAおよび研究企画室(科研費担当)事務担当者による相談受付
- ・過去の計画調書の閲覧可
- ・休憩用にソフトドリンクと軽食を提供
- ・計画調書作成中は、できるだけパソコン・携帯電話等によるインターネットの使用を控えることを推奨

iii) クロージング

- ・参加者による個々各自の当日の到達目標についての報告

参加者の声(一部抜粋)

- まだ研究者になっていない私にとって、研究の最先端でどのようなことが行われているのかを実感できたことは最高の体験であった。
- 集中できる環境で「研究計画調書」作成がはかどった。他の研究者の「研究計画調書」も大変参考になった。
- 科研費データベースについて教えてもらい、情報を得ることができた。とても役に立ちそうである。
- 締め切りより前にまとまった時間が取れて良かった。書きあげるのに何が足りないかを把握できた。
- 他の業務が入ってしまうと、ついそちらを先にすることで科研申請書の作成を後回しにしてしまうので、今回こういうイベントに参加できて良かった。

研究企画室・ライティングセンター
共催：女性研究者研究活動支援事業(拠点型)

科研費計画調書執筆Retreat

採択へ向けて、計画調書作成に集中する環境を提供します!

対象：採択を希望する研究者

日時・場所

西条共同研修センター
9月12日(土)、13日(日)
霞キャンパス(薬学部2F多目的室、セミナー室)
10月3日(土)、4日(日)
各日 9:00~17:00

※ご希望の滞日数に申し込めます。
※参加費は、1日200円。希望者には、お弁当(500円)を手配します。
※本イベントへの参加をご希望の方は、事前に申込フォームからお申し込みください。
※託児所(事前申し込みが必須)の利用が可能です。

内容

- 作成に集中できる環境の提供
- ベテラン研究者によるアドバイス
- URAによる相談受付
- 過去の計画調書の閲覧

リトリート(Retreat)とは?

「日常業務から離れ、自分だけの時間に集中することで自分を見つめなおす場所」を意味します。
アメリカが大学では論文等の執筆におけるリトリートが活用されています。

問合せ：研究企画室 内線(4532, 4469) E-mail: ura@office.hiroshima-u.ac.jp
申込み: www.litretreattime.uac.jp/retreat/

5. 女性学生のためのキャリアスタート支援セミナー（マツダ株式会社）

自動車会社での理系人財の活躍フィールド ～先輩女性エンジニアが語る～

日時：平成27年11月10日（火） 12:50～14:20

会場：広島大学 東広島キャンパス

工学研究科 A1-141 中会議室

講師：岩本 麻美 氏（商品企画部（商品開発職））

梶川 直子 氏（NVH性能開発部（開発研究職））

川又 茉依 氏（ボデー開発部（開発設計職））

概要：自動車会社には多くの技術系職種の業務があり、機械系や電気系のみならず、化学系や建築系、理学系など様々な理系分野出身者が活躍している。マツダの開発領域で活躍中の先輩女性エンジニアが、その仕事の魅力ややりがいなどについて語る。

参加者：12名

参加者の声（一部抜粋）

- 数日前に本セミナーが開催されることを知り、女性の技術職について簡単に知られば良いと思って参加したのですが、講師の方々の仕事にかける熱い思いを知り、今まで以上に研究職、技術職への興味が湧きました。ありがとうございました。
- 院進学で、企業で実際に働いている方のお話を聞くというのは初めてだったが、今回聞くことができ本当に参考になった。これからこのような機会があれば、いろいろな理系職業の方のお話を聞いてみたいと思う。
- 実際に働いている方のお話を聞くのが初めてだったので今後の将来について考える良い刺激となりました。物をつくるということに興味があるのですが、開発の中にも色んな職があることが分かり、自分のやりたいことをもっと考えていきたいと思うきっかけとなりました。

広島大学工学部理系人財開発センター
女性学生のためのキャリアスタート支援セミナー
(マツダ株式会社) 参加無料

**自動車会社での理系人財の活躍フィールド
～先輩女性エンジニアが語る～**

日時：平成27年11月10日（火） 12:50～14:20
会場：東広島キャンパス 工学研究科A1-141中会議室

講師：
 岩本 麻美 さん
 (商品企画部(商品開発職))
 工学部助教授
 梶川 直子 さん
 (NVH性能開発部(開発研究職))
 工学部助教授
 川又 茉依 さん
 (ボデー開発部(開発設計職))
 工学部助教授

講演概要：
 自動車会社には多くの技術系職種の業務があり、機械系や電気系のみならず、化学系や建築系、理学系など様々な理系分野出身者が活躍しています。マツダの開発領域で活躍中の先輩女性エンジニアが、その仕事の魅力ややりがいなどについて語ります。

※申込方法：1.名前 2.所属 3.学年(職名) 4.講師の方への質問事項を明記して、下記「申込み・問い合わせ先」まで、Eメールにてご連絡ください。
 申込締切：11月4日(水)

申込み・問い合わせ先
 広島大学男女共同参画推進室(担当：香葉)
 E-mail: csp@ipc.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-4399
 URL: http://home.hiroshima-u.ac.jp/women/

6-3. 広報誌

1. 「WR (Women Researchers) - 私らしく歩む研究の道-」

本事業の目的である、男女共同参画の他機関を含めた広い普及、女性研究者の活動支援とその普及、女性研究者となる人材の育成を目指し、「本冊子を手にとった女性の学生が研究者を目指す『きっかけ』を得られる読み物」をコンセプトに広報誌を作成した。

活躍する女性研究者へのインタビューや、女性研究者との座談会などを通して、男女共同参画の理念や女性研究者活動支援の普及への理解を深める。

掲載内容は次のとおり。



CONTENTS (以下敬称略)

- 巻頭インタビュー 郷 通子
(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 理事)
- 企業の取り組みを取材 日高 乃里子
(帝人株式会社 人財部 ダイバーシティ推進室長)
- 女性研究者との座談会
 - ・参加者
 - 森井 弘子 (戸田工業株式会社 創造本部 技術開発グループ)
 - 入江 菊枝 (三菱レイヨン株式会社 大竹研究所 機能材料研究グループ)
 - 藤田 明子 (株式会社サタケ 技術本部 穀物研究グループ 食味研究室)
 - 庄林 愛 (株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 製パン技術研究室)
 - 内海 房子 (独立行政法人 国立女性教育会館)
 - 小坂 有史 (広島大学 大学院理学研究科 化学専攻 博士課程後期 3年)
 - 志田 乙絵 (広島大学 大学院文学研究科 博士課程前期 1年)
- 若手研究者インタビュー
 - 富永 依里子
(広島大学 大学院先端物質科学研究科 量子物質科学専攻 助教)
 - 波多野 さや佳
(広島大学 大学院理学研究科 化学専攻 反応有機化学研究グループ 助教)
- 女性研究者の“今”を考える
- 女性研究者の活動支援 広島大学の取り組み
- セミナー・企業訪問などのイベントについて

2. 「MIRAI」 未来の女性研究者たちへ

女性の学生を対象に、研究者への第一歩である博士課程後期への進学を身近に感じさせることをコンセプトに広報誌を作成した。博士課程後期進学の理由、生活、就職、研究と家庭との両立などについてのインタビューを踏まえ、研究を続けたいと思う学生を応援する。掲載内容は次のとおり。

掲載内容は次のとおり。

CONTENTS (以下敬称略)

●インタビュー

宮下 由里奈 (広島大学大学院理学研究科 D2)

松尾 薫 (広島大学大学院工学研究科 D3)

万代 小百合 (ラボテック株式会社 分析部)

堀川 裕加 (山口大学大学院理工学研究科 助教)

●迷わずに進め！女性研究者への道。



6-4. インターンシップ

本事業では、女性の大学院生を対象としたインターンシップ実施のための支援を行っている。

| | 所属 | 派遣先 | 実施期間 |
|---|-------------------------------|-----------|---------------------------------------|
| 1 | 広島大学 大学院国際協力研究科 博士課程後期 2 年 | 国際研究機関 | 平成 26 年 12 月 1 日 ～平成 27 年 2 月 28 日 |
| 2 | 広島大学 大学院教育学研究科 博士課程後期 1 年 | 教育研究機関 | 平成 27 年 2 月 25 日 ～平成 27 年 5 月 29 日 |
| 3 | 広島大学 大学院文学研究科 博士課程後期 3 年 | 官公庁（博物館） | 平成 27 年 9 月 1 日 ～平成 27 年 10 月 31 日 |
| 4 | 広島大学 大学院理学研究科 博士課程後期 2 年 | 製造業（計測分析） | 平成 27 年 10 月 5 日 ～平成 27 年 12 月 9 日 |

7. 女性の研究者支援（アドバンスト支援）

大学や企業研究所における女性の上位職の割合はまだ低いことから、アドバンスト支援の一環として、専門家を招聘したセミナーや、本学及び連携大学・企業間の女性研究者の交流を図るための講演会を開催した。

7-1. 管理職セミナー

1. 管理職の極意 ―チームを介して成果をあげるための基本―

日 時：平成26年12月22日（月）14:35～16:05

会 場：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟2階会議室
霞キャンパス 基礎・社会医学棟セミナー室2
(テレビ会議システムによる中継)

講 師：日本マイクロソフト株式会社 人事本部 HR マネージャー 小林 いづみ

対 象：教職員

参加者：29名

概 要：

大学を取り巻く社会環境の変化への対応のため、さらなる大学運営機能の強化及び職員の育成が求められている。本セミナーでは、日本マイクロソフト株式会社人事本部 HR マネージャーの小林いづみ氏を講師としてお招きし、管理職員としての役割やチームを介して成果をあげるための極意について学び、マネジメントの能力のさらなる発揮・向上を図ることを目指す。

参加者の声（一部抜粋）

- 管理職のスタイルが4つに分類されていて、それぞれにやり方があることに気付かされました。
- ただなんとなく部下を管理するという漠然としたイメージしかありませんでしたが、パフォーマンスへの影響を6つの視点から分析するなど、具体的な注意点が聞けたのが有益でした。
- パフォーマンスへの影響（期待値、フィードバック、リソース、職業適性、トレーニングと育成、モチベーション）の考え方が参考になりました。



(講演の様子)

2. 管理職のためのポジティブメンタルヘルス：やる気を生み出すコミュニケーション

日 時：平成27年11月9日（月）14:35～16:05

会 場：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟2階会議室

講 師：神戸学院大学 准教授／臨床心理士 土井 晶子

対 象：教職員

参加者：14名

概 要：

神戸学院大学准教授／臨床心理士の土井 晶子氏を講師としてお招きし、管理職員として成果をあげるための役割や心得について学び、マネジメントの能力のさらなる発揮・向上を図る。

参加者の声（一部抜粋）

- ポジティブフィードバックがこれほど気持ちをおちつかせる、というかパワーをもらえるものだというのを体験できたことです。また相手のよいところを意識して聞くことで改めて他の人を尊敬できたり、すごいなと思えるところに気付ける心の余裕が自分にもあったことも発見でした。職場のチームでも実践していきたいと思います。
- 自分が思っている程度、自分自身をコントロールできていない（相手の期待にこたえようとしている）事にビックリしました。又、分かっている事で、他人から褒められる事で **positive** になれるという事で、当たり前的事でも口にしていきたいと思いました。
- ポジティブなことに、焦点をあてることの重要性和楽しさがよくわかった。セミナー後、気分が軽くなったのは、自分でもおどろいたこと。大学以外の方と一緒にになった点もよかった。



本学が「社会連携推進人財育成機構の事業（女性研究者研究奨励大会等）に協賛」

管理職セミナー

大学を取り巻く社会環境の変化への対応のため、さらなる大学運営機能の強化及び職員の成長が求められています。このセミナーでは、神戸学院大学の土井晶子先生を講師としてお招きし、管理職として成果をあげるための役割や心得について学び、マネジメント能力のさらなる発揮・向上を図ります。

【日 時】 平成27年11月9日(月) 14:35～16:05

【場 所】 東広島キャンパス：本部棟2階会議室

【テ ー マ】 『管理職のためのポジティブメンタルヘルス
やる気を生み出すコミュニケーション』
土井 晶子 先生（神戸学院大学 准教授）

【対 象】 教職員

【申込締切】 11月2日(月)
※事前申込票
※参加費無料

【備 考】 詳細は学内の研究推進部のホームページをご覧ください。

【お申込み・お問合せ先】
広島大学 男女共同参画推進室 庶務・広報課
広島県東広島市鏡山1-1-1 TEL：082-424-4300 FAX：082-424-4306
E-mail: gender@hiroshima-u.ac.jp URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/sankaku/



(講演の様子)

7-2. 講演会等

1. 学会創立 90 周年記念 日本農芸化学会中四国支部 第 39 回 講演会

日 時：平成 26 年 5 月 31 日（土）11:00～18:00

会 場：福山大学 宮地茂記念館

主 催：公益財団法人日本農芸化学会中四国支部

協 賛：広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型），
福山大学

プログラム：

11:00 幹事打合せ
12:10 支部参与会
13:10 シンポジウム

「科学に挑む中四国の女性研究者」

| | |
|-----|-------------------------|
| 講 演 | 島村 智子（高知大学農学部） |
| 演 題 | 牛乳とメイラード反応の関係 |
| 講 演 | 後藤 奈美（酒類総合研究所） |
| 演 題 | 日本の在来ブドウ品種“甲州”のルーツを探る |
| 講 演 | 水田 啓子（広島大学大学院生物圏科学研究科） |
| 演 題 | 核小体の中の宝探し |
| 講 演 | 土屋 英子（広島大学大学院先端物質科学研究科） |
| 演 題 | 出芽酵母に探る細胞核，染色体構造の謎 |

15:10 一般公演

18:00 懇親会



2. 日本分析化学会 第 63 回年会

女性研究者ネットワークセミナー（公開セミナー）

日 時：平成 26 年 9 月 18 日（木）12:00～13:00

会 場：第 63 回年会 G 会場（広島大学 東広島キャンパス 総合科学部 L201 号室）

主 催：（公社）日本分析化学会

共 催：広島大学男女共同参画推進室，
広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

協 賛：東ソー株式会社

内 容：講演 相田 美砂子

広島大学 副学長（大学経営企画担当）

演 題 広島大学での女性研究者支援の取組み

7-3. 託児サービス

本事業でシンポジウム、セミナー等を開催時に、他での託児受入れが困難な女性研究者のために託児サービスを実施している。

実施内容は次のとおり。

1. 平成25年11月16日（土）
日本化学会中国四国支部大会併設企画 シンポジウム「女性が企業で活躍する」
託児人数：1名
2. 平成26年2月8日（土）
女性の活躍シンポジウム
「女性が活躍する企業が強いワケ」～イノベーションを創り出す組織づくりへ～
託児人数：9名
3. 平成27年9月12日（土）
第1回「科研費計画調書執筆リトリート」
託児人数：2名
4. 平成28年2月25日（木）
広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）セミナー
本気モードの女性活躍促進!! ～カタチだけじゃない女性活躍の進め方～
託児人数：2名

8. 共同研究支援

8-1. イノベーションセミナー

女性研究者の企業等との共同研究を推進し、女性研究者の研究の幅の拡大を図ることを目的として、イノベーションセミナーを企画した。

1. 三菱レイヨン株式会社

日 時：平成 27 年 3 月 17 日（火） 15：45～16：45

講 師：広島大学 大学院総合科学研究科教授 坂田 桐子

演 題：部下の正しい叱り方 一部下を育成するリーダーシップとは一

対 象：管理職

2. 第2回

日時：平成26年11月27日（金）14：30～16：00

会場：広島大学 理学部 理学部 E002室（東広島キャンパス）

参加者：39名

プログラム：

14：30 開会挨拶

14：35 口頭発表（発表者1名につき15分）

清酒の劣化臭成分の解明とその制御

磯谷 敦子 氏（独立行政法人酒類総合研究所）

未知・未培養微生物の遺伝子資源の利用

岡村 好子 准教授（広島大学大学院先端物質科学研究科）

低温成長 InGaAs の結晶状態とそのデバイス応用

富永 依里子 助教（広島大学大学院先端物質科学研究科）

表面張力精密測定によるリン脂質分子膜と金属錯体の相互作用の pH 依存性の解明

ヴィレヌーヴ 真澄美 准教授（広島大学大学院総合科学研究科）

15：40 全体討論

15：55 閉会挨拶



（発表の様子）

広島大学理学部理学部 理学部 E002室 女性研究者研究交流会(自主会)

第2回女性研究者研究交流会

中国四国地域の大学で企業等の産業界に所属する最先端分野の女性研究者が研究交流を求め、共同研究にもつなげることを目的として開催します。

日時：平成27年11月27日(金)
(14:30～16:00)

場所：広島大学理学部 E002室
(東広島キャンパス)

参加
無料

≪プログラム≫

14:30 開会挨拶
14:35 口頭発表(発表者1名につき15分)
磯谷の敦子氏(独立行政法人酒類総合研究所)
清酒の劣化臭成分の解明とその制御
岡村 好子 氏 (独立行政法人酒類総合研究所)
未知・未培養微生物の遺伝子資源の利用
富永 依里子 助教 (広島大学大学院先端物質科学研究科)
低温成長 InGaAs の結晶状態とそのデバイス応用
ヴィレヌーヴ 真澄美 准教授 (広島大学大学院総合科学研究科)
表面張力精密測定によるリン脂質分子膜と金属錯体の相互作用の pH 依存性の解明

15:40 全体討論
15:55 閉会挨拶

≪申込み方法≫
参加をご希望の方は、所属、職名、氏名を明記の上、以下の申込み先まで、E-mailにてお申込み下さい。なお、併せて「第2回研究交流会申込」化を記入してください。
申込締切：平成27年11月20日(金)

≪お問い合わせ≫
〒731-8585 広島県広島市東区山手1-1-2 広島大学 理学部理学部E002室 (担当：伊藤)

TEL: 082-421-2222 FAX: 082-421-2222
E-mail: hiroshima@hiroshima-u.ac.jp

≪主催≫ 広島大学理学部理学部E002室 女性研究者研究交流会(自主会) 理学部理学部E002室
≪共催≫ 広島大学理学部理学部E002室 女性研究者研究交流会(自主会) 理学部理学部E002室 理学部理学部E002室

8-3. 広島大学女性研究者研究シーズ集

女性研究者の研究シーズを企業等に周知するために、研究成果を取りまとめた「広島大学女性研究者 研究シーズ集 2014」を作成した。

本シーズ集は、広島大学産学・地域連携センターによって刊行された「広島大学研究成果集 2014」の中から、女性研究者のデータを抜粋したものを基に構成している。

なお、「広島大学研究成果集 2014」は、本学産学・地域連携センターのホームページより閲覧することができる。また、本学における最新のシーズについては、「ひまわり（統合技術情報発信システム）」より検索することができる。



広島大学 女性研究者 研究シーズ集 2014

女性研究者研究活動支援事業(拠点型)



 広島大学



- 広島大学産学・地域連携センター ホームページ

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/sangaku/>

- ひまわり（統合技術情報発信システム）

<https://hutdb.hiroshima-u.ac.jp/>

8-4. 若手研究者シーズ発表会

若手研究者と企業等諸機関とのマッチング（共同研究、就職等）を目的とした若手研究者シーズ発表会を開催した。

若手研究者には、企業等の担当者に研究内容をアピールし、共同研究や就職につながる可能性を与える場とし、企業等諸機関には、若手研究者の口頭発表を聞き、ポスター発表の場で直接やり取りをすることで、有為な博士人材を発掘できる場とすることを目的とする。また、発表者には女性研究者を含む。

実施内容は次のとおり。

1. 第1回若手研究者シーズ発表会－「健康と化学」－

日時：平成26年7月18日（金）13：00～17：15

会場：県立広島大学 サテライトキャンパス ひろしま
（広島県民文化センター5階 501・502大会議室）

主催：広島大学 グローバルキャリアデザインセンター
若手研究人材養成担当

共催：岡山大学若手研究者キャリア支援センター、山口大学、島根大学、県立広島大学、広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）、広島大学産学官連携推進研究協力会、広島大学大学院リーディングプログラム機構「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」

後援：中国経済産業局、中国経済連合会、広島県、独立行政法人産業技術総合研究所中国センター、株式会社広島銀行、公益財団法人ちゅうごく産業創造センター、公益財団法人ひろしま産業振興機構、公益財団法人くれ産業振興センター、公益財団法人岡山県産業振興財団、一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会、公益財団法人しまね産業振興財団

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 基調講演 演題「若い研究者への期待」

岡本 哲治

広島大学 理事・副学長（社会産学連携・広報・情報担当）

医歯薬保健学研究院 教授

13:35 シーズ発表（発表者15名 内女性7名）

15:35 関係機関 事業紹介

○独立行政法人産業技術総合研究所

○公益財団法人ちゅうごく産業創造センター

○公益財団法人ひろしま産業振興機構

○株式会社広島銀行



15:55 閉会挨拶

16:00 ポスター発表（15名）

17:30 情報交換会（il vento 鯉城会館（広島県民文化センター）1階）

シーズ口頭発表者詳細一覧（発表者15名 内女性7名）

| | 氏名 | 所属 | タイトル |
|----|--------|---------------------------------------|---|
| 1 | 宮良 政嗣 | 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科（薬学） D3 | わずかな細胞の変化から病気の原因を探る |
| 2 | 深田 恵里 | 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科（歯学） D3 | 口腔内圧測定による吸引・嚥下運動の解析 |
| 3 | 平川 翼 | 広島大学大学院 工学研究科 D1 | 医療画像処理の課題に挑戦 |
| 4 | 田中 小百合 | 岡山大学大学院 環境生命科学研究科 D3 | 紫外線予防のための新機能性成分の探索 |
| 5 | 上野 浩司 | 岡山大学大学院 保健学研究科 客員研究員 | 新たな抗精神病薬の開発に向けて |
| 6 | 河村 敦子 | 山口大学大学院 医学系研究科保健学系学域基礎看護学 分野 助教 | 高血圧予防・改善食の研究開発 |
| 7 | 高橋 仁 | 島根大学大学院 医学部医学科 助教 | 低アレルギーパン開発への挑戦 |
| 8 | 宇田 成利 | 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科（薬学） D3 | 抗生物質生合成酵素を利用した創薬を目指す |
| 9 | 竹下 八重 | 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科（保健） D3 | 地域での医療看護 QOL を高める挑戦 |
| 10 | 芦原 聡介 | 広島大学大学院 理学研究科 研究員 | 結び目理論の生命科学他への応用の挑戦 |
| 11 | 平野 博大 | 広島大学大学院 工学研究科 D2 | 医工連携：血管粘弾性を利用した疼痛評価の実現 |
| 12 | 柴田 紗知 | 広島大学大学院 教育学研究科 D1 | 食品・栄養成分による高齢疾患予防 |
| 13 | 神本 真紀 | 広島大学大学院 生物圏科学研究科 D3 | タンニンによる抗ノロウイルス効果 |
| 14 | 末廣 優加 | 鳥取大学大学院 連合農学研究科（島根大学配属） D1 | 黄緑色系ブドウ‘シャインマスカット’の果皮褐変現象とポリフェノールの蓄積およびその関連遺伝子の発現 |
| 15 | 平林 諒 | 広島大学大学院 理学研究科 D3 | 細胞の分化解明から臨床応用への挑戦 |

2. 第2回若手研究者シーズ発表会 「環境とエネルギー」

日時：平成26年12月17日（水）13:00～17:00

会場：県立広島大学 サテライトキャンパス ひろしま
（広島県民文化センター5階 501・502 大会議室）

主催：科学技術人材育成費補助事業

「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」

『未来を拓く地方協奏プラットフォーム』

共催：「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」連携機関、県立広島大学、広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）、広島大学産学官連携推進研究協力会、広島大学大学院リーディングプログラム機構「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」

後援：中国経済産業局、中国経済連合会、広島県、独立行政法人産業技術総合研究所中国センター、株式会社広島銀行、公益財団法人ちゅうごく産業創造センター、公益財団法人ひろしま産業振興機構、公益財団法人岡山県産業振興財団、公益財団法人やまぐち産業振興財団、公益財団法人しまね産業振興財団、公益財団法人鳥取県産業振興機構、一般財団法人四国産業・技術振興センター、四国地域イノベーション創出協議会、一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会、公益財団法人とくしま産業振興機構

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」の紹介

相田 美砂子

広島大学 副学長（大学経営企画担当）

13:15 基調講演 演題「ゲノム編集技術を用いた環境・エネルギー問題への新規アプローチ」

野地 澄晴

徳島大学 理事・副学長（研究担当）

13:45 シーズ発表（発表者15名 内女性5名）

15:05 関係機関事業紹介

○中国経済産業局

○中国経済連合会

○公益財団法人くれ産業振興センター

○一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会

○四国産業・技術振興センター

15:30 閉会挨拶

15:40 ポスター発表（15名）

17:15 情報交換会（il vento 鯉城会館（広島県民文化センター）1階）



シーズ発表者詳細一覧（発表者 15 名 内女性 5 名）

| | 氏名 | 所属 | タイトル |
|----|--------------------------|---|---|
| 1 | 青木 泰平 | 広島大学大学院 先端物質科学研究科 D2 | アンモニア 新たな水素エネルギー貯蔵媒体 |
| 2 | 浅川 愛 | 徳島大学大学院 先端技術科学教育部 環境創生工学専攻生命テクノサイエンスコース D3 | 未利用木質バイオマスの総合的有用利用法の開発 |
| 3 | Puteri Kusuma Wardhani | 岡山大学大学院 環境生命学研究科 D1 | くだものと野菜からのメタンガス発生に関する研究 |
| 4 | 政成 美沙 | 広島大学大学院 生物圏科学研究科 生物機能開発学専攻 微生物機能学研究室 D2 | 蛋白質の安定化機構から生物の環境適応戦略に迫る |
| 5 | 平儀野 雄斗 | 島根大学大学院 総合理工学研究科 D2 | 超低コスト照明装置を可能とする酸化亜鉛ナノ粒子塗布型紫外線発光ダイオードの開発 |
| 6 | 菅沼 学史 | 鳥取大学 工学部 附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー研究センター 助教 | 廃棄グリセリンから有用化学資源の創出 |
| 7 | Noor Hisyam Noor Mohamed | 徳島大学大学院 先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 機械創造システム工学コース D2 | ナノ繊維を用いたバイオコンポジット開発 |
| 8 | 松尾 薫 | 広島大学大学院 工学研究科 建築環境学研究室 D1 | 都市気候に配慮した都市づくりを支援するための都市環境気候地図の開発 |
| 9 | 陳 ナリソ | 岡山大学大学院 環境生命学研究科 D1 | GPS 測位と超音波測深による水底地形データ変動に関する研究 |
| 10 | 宮下 直 | 広島大学大学院 理学研究科 化学専攻 特任助教 | 福島復興に向けた汚染土壌の除染・減容技術の開発 |
| 11 | 門田 真樹 | 広島大学大学院 工学研究科 生産システム A 研究室 D1 | 複雑な関数において、より良い解を、より短い時間で探索する |
| 12 | 金澤 康樹 | 島根大学大学院 総合理工学研究科 D1 | 車載用パワーエレクトロニクス機器の未来 |
| 13 | 上川 修平 | 広島大学大学院 先端物質科学研究科 低温物理学研究室 D1 | 高機能な磁性物質を開発するための新規アプローチへの挑戦 |
| 14 | 中島 真実 | 広島大学大学院 工学研究科 応用化学専攻有機材料化学研究室 D1 | 有機薄膜太陽電池への応用を目指した有機半導体材料の開発 |
| 15 | 川人 浩司 | 広島大学大学院 先端物質科学研究科 エネルギー機能物質研究室 D2 | 全固体リチウムイオン電池用負極材料の開発 |

3. 第3回若手研究者シーズ発表会 「計測と分析」

日時：平成27年7月9日（木）13:00～17:15

会場：県立広島大学 サテライトキャンパス ひろしま
（広島県民文化センター5階 501・502大会議室）

主催：科学技術人材育成費補助事業

「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」

『未来を拓く地方協奏プラットフォーム』

共催：「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」連携機関、県立広島大学、広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）、

広島大学産学官連携推進研究協力会、広島大学大学院リーディングプログラム機構「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」、広島大学グローバルアントレプレナー育成促進事業「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」

後援：中国経済産業局、中国経済連合会、広島県、国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター、株式会社広島銀行、公益社団法人中国地方総合研究センター、公益財団法人ちゅうごく産業創造センター、一般財団法人四国産業・技術振興センター、四国地域イノベーション創出協議会、公益財団法人ひろしま産業振興機構、公益社団法人くれ産業振興センター、公益財団法人やまぐち産業振興財団、公益財団法人とくしま産業振興機構、公益財団法人岡山県産業振興財団、公益財団法人しまね産業振興財団、公益財団法人鳥取県産業振興機構、公益財団法人えひめ産業振興機構、公益財団法人高知県産業振興センター、一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会、

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 基調講演 演題「21世紀の課題に挑戦するイノベーション人材育成」

三池 秀敏

山口大学 理事・副学長（学術研究担当）

13:25 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」概要説明

相田 美砂子

広島大学 副学長（大学経営企画担当）

13:35 シーズ発表（発表者20名 内女性）

15:30 関係機関事業紹介

○国立研究開発法人科学技術振興機構 産学連携展開部 先端計測グループ

○公益社団法人中国地方総合研究センター

15:45 閉会挨拶

15:50 ポスター発表（20名）

17:30 情報交換会（吉山ビュッフェ鯉城会館（広島県民文化センター）地下1階）



シーズ口頭発表者詳細一覧（発表者 20 名 内女性 6 名）

| | 氏名 | 所属 | タイトル |
|----|--------------------|---|---|
| 1 | 永廣 卓哉 | 徳島大学大学院 先端技術科学教育部 化学機能創生コース D1 | MCM-41 系触媒の活性改善と各種分析手法によるキャラクタリゼーション |
| 2 | 呉 瓊 | 岡山大学大学院 自然科学研究科 生体計測工学研究室 助教 | 人間の多感覚空間注意の脳機能に関する研究 |
| 3 | 徳岡 大 | 広島大学大学院教育学研究科 教育人間科学専攻 D4 | 複雑な構造を持つデータに対するベイズ推定の可能性 |
| 4 | 猪村 剛史 | 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 生体環境適応科学研究室 助教 | 脳損傷モデルに対する神経幹細胞移植とリハビリテーションの併用効果 |
| 5 | 中野 陽平 | 山口大学大学院医学系研究科 バイオ機能高分子化学研究室 D3 | リチウムイオン電池への応用を目指した高分子固体電解質の開発 |
| 6 | 加藤 季晋 | 島根大学大学院総合理工学研究科 M2 | 窒素循環の中間体ヒドロキシルアミンとヒドラジンの分析方法の開発と現場への適用 |
| 7 | 北 真人 | 広島大学大学院工学研究科 社会基盤環境工学専攻 D2 | 数値モデルと気象レーダーによる水災害予測システムの開発 |
| 8 | 梶山 慎太郎 | 山口大学大学院 理工学研究科 環境共生系専攻 D2 | メタンハイドレートを含む砂の力学特性および分解挙動 |
| 9 | 上枝 麻友 | 徳島大学歯科 かみあわせ補綴科(第二補綴科) 助教 | TNF- α による歯髄細胞の幹細胞化 |
| 10 | 深澤 賢宏 | 広島大学自然科学研究支援開発センター 生命科学実験部門 生命科学機器分析部 研究員 | 神経筋接合部形成における ADAM19 の意義と理学療法 |
| 11 | 押村 美幸 | 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 ライフシステム部門物質変換化学講座 助教 | NMR スペクトルの多変量解析を用いたポリ乳酸の立体規則性解析 |
| 12 | 宮下 由理奈 | 広島大学大学院理学研究科 数理分子生命理学専攻 D2 | 好塩性ジヒドロ葉酸還元酵素の構造と機能に対する塩の効果 |
| 13 | Bayissa Leta Danno | 高知大学大学院人間自然科学研究科 応用自然科学専攻 D3 | 毒性の高い有機化合物の加溶媒分解に及ぼす溶媒および溶存イオンの影響 |
| 14 | 石川 朋己 | 広島大学大学院理学研究科 分析化学研究室 D1 | レーザー捕捉・顕微分光法のエアロゾル微粒子系への応用 |
| 15 | 武田 尚子 | 鳥取大学 産学・地域連携推進機構 プロジェクト研究員 | 魚類に含まれるコンドロイチン硫酸の含有量と組成分析 |
| 16 | 大塚 裕太 | 徳島大学大学院 薬科学教育部 D1 | 医薬品結晶転移制御を目的とした赤外スペクトルと多変量解析に基づく研究 |
| 17 | 中西 莉子 | 県立広島大学大学院 総合学術研究科 M1 | 2 成分 SAM 膜電極上におけるイムノリポソーム/電解発光によるインフルエンザウイルスの検出 |
| 18 | Cagdas AKSU | 岡山大学大学院自然科学研究科 産業創成工学専攻 D2 | PREMIER 燃焼 |
| 19 | 吉田 知弘 | 山口大学大学院理工学研究科 物質工学系専攻 D3 | 非プロトン性の低分子ゲル化剤を基盤としたイオン液体ゲルの開発 |
| 20 | 水川 友里 | 広島大学大学院先端物質科学研究科 半導体集積科学専攻 D2 | バイオミメティック・マイクロミラーの構築と磁気マニピュレーション法 |

4. 第4回若手研究者シーズ発表会「医療・健康と化学」

日時：平成27年11月30日（月）13:00～17:20

会場：県立広島大学 サテライトキャンパス ひろしま
（広島県民文化センター5階 501・502大会議室）

主催：科学技術人材育成費補助事業

「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」
『未来を拓く地方協奏プラットフォーム』

共催：「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」連携機関，県立広島大学，広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型），広島大学産学官連携推進研究協力会，広島大学大学院リーディングプログラム機構「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」，広島大学グローバルアントレプレナー育成促進事業「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」

後援：中国経済産業局，中国経済連合会，広島県，国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター，株式会社広島銀行，公益社団法人中国地方総合研究センター，公益財団法人ちゅうごく産業創造センター，一般財団法人四国産業・技術振興センター，四国地域イノベーション創出協議会，公益財団法人ひろしま産業振興機構，公益社団法人くれ産業振興センター，公益財団法人やまぐち産業振興財団，公益財団法人とくしま産業振興機構，公益財団法人岡山県産業振興財団，公益財団法人しまね産業振興財団，公益財団法人鳥取県産業振興機構，公益財団法人えひめ産業振興機構，公益財団法人高知県産業振興センター，一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会，

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」取り組み状況

相田美砂子

広島大学 副学長（大学経営企画担当）

13:15 シーズ口頭発表（第一部）中国四国地方の大学より 11名

14:20 基調講演 演題「広島大学の産学連携における様々な取り組み」

高田 隆

広島大学 理事・副学長（社会産学連携・広報・情報担当）

14:40 シーズ口頭発表（第二部）中国四国地方の大学より 10名

15:35 関係機関事業紹介

○一般社団法人日本医療機器産業連合会医療機器政策調査研究所

○国立研究開発法人科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部

地域イノベーショングループ

15:50 閉会挨拶

16:00 ポスター発表（21名）

17:30 情報交換会（吉山ビュッフェ鯉城会館（広島県民文化センター）地下1階）



シーズ口頭発表者詳細一覧（発表者 21 名 うち女性 10 名）

| | 氏名 | 所属 | タイトル |
|----|-------------|--|--|
| 1 | 浅枝 諒 | 広島大学大学院医歯薬保健学研究科保健学専攻運動器機能医科学研究室(D2) | 三次元動作解析によって整形外科疾患の発症と進行を予防する |
| 2 | 坂本 飛鳥 | 広島国際大学大学院 医療福祉科学研究科 医療工学専攻(D1) | 3次元MRI画像を用いた骨盤形態の評価方法の検討 |
| 3 | 富本 悠公 | 山口大学大学院 理工学研究科 情報・デザイン工学系専攻(D1) | 上肢障害者用食事支援ロボットの開発 |
| 4 | スリア ピンティ アリ | 山口大学大学院 理工学研究科 応用分子生命科学系専攻(D2) | 乾燥における機能性食品の製造プロセスの解析 |
| 5 | 許 祐菁 | 徳島大学大学院 先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻(D2) | 種々の高分子反応で合成したメタクリル酸エステル共重合体のモノマー連鎖の解析 |
| 6 | 落葉 尚子 | 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 生薬学(D1) | 天然資源由来の抗リーシュマニア活性物質 |
| 7 | 新谷 薫 | 島根大学大学院 医学系研究科(D3) | 高血圧症は皮膚の水分量とNa ⁺ , Cl ⁻ 濃度に依存するか:モデル動物を用いた比較検討 |
| 8 | 鈴木 絢子 | 山口大学大学院 医学系研究科 応用分子生命化学系 生命分子工学分野(学術研究員) | 認知症を酵母で治す |
| 9 | 川口 祐加 | 岡山大学大学院自然科学研究科化学工学専攻細胞機能設計学研究室(D2) | SRSF1-3は、AIDの核内への局在に貢献する |
| 10 | 本間 和久 | 鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻(D1) | 複数遺伝子搭載可能な人工染色体の開発 |
| 11 | 宮城 円 | 広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻心理学分野(D1) | 抑うつが自らの価値観に基づく意思決定に及ぼす影響 |
| 12 | 富田 知里 | 徳島大学大学院・栄養生命科学教育部・人間栄養科学専攻・生体栄養学分野(D1) | がん分子標的薬(血管新生阻害薬)の潜在的問題点の解明と新しい治療法への展開 |
| 13 | 清水 太郎 | 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 総合薬学研究推進室(特任助教) | 脾臓辺縁帯B細胞を標的とした新規がんワクチンの開発 |
| 14 | 星 賢治 | 広島国際大学大学院 医療福祉科学研究科 医療工学専攻(D3) | 軟部組織滑走不全改善によるマル・アライメントに対する徒手組織間リリースの効果検証 |
| 15 | 内田 貴之 | 徳島大学大学院・栄養生命科学教育部・人間栄養科学専攻・生体栄養学分野(D1) | 無重力による筋細胞内シグナル・トランスダクション |
| 16 | 渡邊 大輝 | 広島大学大学院総合科学研究科(D2) | 筋内グルタチオン量を高めることによって長期にわたる筋疲労が軽減されるか? |
| 17 | 重藤 元 | 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(サステナブル・ディベロップメント実践研究センター)(特別研究員) | 生細胞から分泌されるインスリンの連続測定法開発 |
| 18 | 山本 清威 | 徳島大学大学院 薬科学教育部 医薬品情報学分野(D3) | PKC δ シグナル抑制化合物によるグルカゴン分泌抑制効果 |
| 19 | 梶川 正人 | 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(広島大学原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医科学センター 再生医科学部門)(特別研究員) | 新規血管内皮機能測定法の開発 EncloseD Zone Flow-MeDiateD VasoDilation (ezFMD)の有用性 |
| 20 | 古川 翔大 | 山口大学大学院 理工学研究科 自然科学基盤系専攻(D3) | IVUS法を用いた冠動脈プラークの組織性状判別 |
| 21 | 中尾 真理 | 徳島大学大学院 栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 臨床栄養学分野(D3) | 栄養療法の科学的エビデンスの構築を目指して |

5. 若手研究者シーズ発表会 発表者の内の女性の割合

| 発表者所属 | | 広島 大学 | 山口 大学 | 徳島 大学 | 岡山 大学 | 島根 大学 | 鳥取 大学 | 高知 大学 | 県立 広島 大学 | 広島 国際 大学 | 計 |
|-------------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------------|----------------|-------|
| 第 1 回 | 参加者数 | 10 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | (内, 女性) | 4 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 女性比率 | 40% | 100% | / | 50% | 0% | 100% | / | / | / | 46.7% |
| 第 2 回 | 参加者数 | 8 | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | (内, 女性) | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 女性比率 | 25% | / | 50% | 50% | 0% | 100% | / | / | / | 33.3% |
| 第 3 回 | 参加者数 | 7 | 3 | 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 20 |
| | (内, 女性) | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 6 |
| | 女性比率 | 28.6% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% | 0% | 100% | / | 30% |
| 第 4 回 | 参加者数 | 6 | 4 | 6 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 21 |
| | (内, 女性) | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 10 |
| | 女性比率 | 33.3% | 50% | 50% | 100% | 100% | 0% | / | / | 50% | 47.6% |

8-5. 広島大学 新技術説明会 2015 in 広島

広島大学が保有する最新の優れた技術シーズを広く公開し、企業のニーズをマッチングさせることにより、本学と企業等との共同研究などを創出し、産学官連携促進することを目的として、新技術説明会を開催した。プレゼンテーション後には、個別相談会を実施し、研究担当教員等が企業等からの相談に応じ、企業ニーズへの技術シーズの適応性等について応答を行った。

日時：平成 27 年 12 月 7 日（月）13：30～17：00

会場：広島ガーデンパレス 2F

主催：国立大学法人 広島大学

共催：広島大学産学官連携推進研究協力会（通称：広島大学フェニックス協力会）

協力：広島大学女性研究活動推進本部，女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

後援：中国経済産業局，中国経済連合会，（公財）ひろしま産業振興機構，（公財）ちゅうごく産業創造センター，（社）中国地域ニュービジネス協議会，広島県商工会議所連合会，広島県，東広島市，広島中央サイエンスパーク研究交流推進協議会

プログラム：

第一部 [2階 白鳥・孔雀の間]

13：30 開会挨拶

13：35 教員シーズプレゼンテーション

（2会場各4件 合計8件のプレゼンテーション）

15：15 休憩：コーヒブレイク

第二部 [2階 孔雀・朱鷺の間]

15：35 主催者挨拶ならびに本学の産学官連携活動紹介

15：50 企業による本学との産学官連携活動成果紹介

（株）ナム：「ステップ・ストラテジーを応用した転倒回避トレーニング機器」

16：10 フェニックス協力会会員企業紹介

中外テクノス（株）：「エネルギーセクターの見える見透かす検査サービス」

ヒロコン（株）：「ソフトウェア技術とハードウェア技術で試作品や製品を開発」

16：40 中国経済産業局の技術開発施策の紹介

16：55 閉会挨拶



2. 女性の活躍 シンポジウム

女性が活躍する企業が強いワケ ～イノベーションを創り出す組織づくりへ～

日 時：平成 26 年 2 月 8 日（土）13:30～17:30

会 場：エソール広島（広島市中区）

参加者：79 名

プログラム：

13：30 主催者挨拶 広島大学理事・副学長 吉田 総仁

シンポジスト

日高 乃里子 帝人（株） 人財部 ダイバーシティ推進室長

麓 幸子 日経 BP 社 生活情報グループ統括補佐

日経 BP ヒット総合研究長

三山 雅代 （株）タカキヘルスケアフーズ 代表取締役社長

コーディネーター

相田 美砂子 広島大学 副学長（大学経営企画担当）

16：15 交流会

参加者の声（一部抜粋）

- 自分で考えていても表現することができなかった部分を、理論的に発表していただき、自分の考えがまとまった。
- 組織の人材育成について検討する上で、とても参考になりました。男性管理職も今日の様な内容を聞く機会を持つべきと感じています。
- 今日参加してほんとうによかったです。女性がいるだけでなく、活躍してからこそ意味があるということがよくわかりました。企業の株価と女性管理職（幹部数）のグラフが興味深かったです。
- 大変参考になりました。所属会（中小企業家同友会 安芸区商工会）で還元したいと思います。
- パネリストの方の話が、大変面白かった。女性支援は、女性のためだけでなく、誰もが働きやすい職場となることに、共感です。



（講演の様子）

平成26年度広島県中小企業家同友会理事人財育成委員会主催
広島県立広島経済大学協賛で開催 広島県立広島経済大学

女性が活躍する企業が強いワケ ～イノベーションを創り出す組織づくりへ～

予測不可能な未来に向けて、強い企業になるための鍵は
①企業トップによる意志 ②人材育成のための環境（上司）③人材（社員）の育成
の三位一体です。そして、その人材育成の鍵は女性の活躍にあります！

でも…心の中でつぶやいていませんか？

企業が優秀でも大勢、女性の活躍を助けているのか、その解決法は？
このシンポジウムでこれらの疑問へのヒントを得ることができます！

つぶやきをばやきにしないために！

平成 26 年 2 月 8 日（土）13:30～17:30
於：エソール広島 2 階（広島市中区富見町 1-1-6）
13:30～16:00 シンポジウム（無料）多目的ホール
・ 女性社員自身のキャリア形成のポイント
・ 女性社員の育成のポイント
・ 企業の取り組み 等
16:15～17:30 交流会（参加費：2,000 円）3 階・コロンブスホール

パネリスト
日高乃里子さん（帝人（株））、麓幸子さん（日経 BP 社）
三山雅代さん（株）タカキヘルスケアフーズ

詳細はホームページをご覧ください！ 広島大学 男女共同参画推進室 後援

＜お問い合わせ＞
主催：広島県中小企業家同友会理事人財育成委員会 TEL: FAX: Eメール: 広島県立広島経済大学
協賛：広島県立広島経済大学 TEL: FAX: Eメール: 広島県立広島経済大学
協賛：広島県立広島経済大学 TEL: FAX: Eメール: 広島県立広島経済大学
協賛：広島県立広島経済大学 TEL: FAX: Eメール: 広島県立広島経済大学

3. 女性研究者活躍促進シンポジウム

～研究する人生、という選択～

日 時：平成 26 年 3 月 17 日（月）13:00～16:00

会 場：広島大学 サタケメモリアルホール

対 象：教職員・学生・高校生・本事業関係機関・一般

参加者：172 名

プログラム：

| | | |
|-------|-------------------------------|------------------------------|
| 13:00 | 開会挨拶 | 学長 浅原 利正 |
| 13:10 | 第 1 回 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」授与式 | |
| | 受賞者 | (公財) 広島県男女共同参画財団理事長 長尾 ひろみ |
| 13:15 | 基調講演 | 赤松 良子 (公財) 日本ユニセフ協会会長(元文部大臣) |
| | 演題 | 女性研究者の活力を社会の活力に |
| 14:05 | 講 演 | 平田 たつみ 国立遺伝学研究所脳機能研究部門 教授 |
| 14:35 | 講 演 | 坂田 桐子 広島大学大学院総合科学研究科 教授 |
| 15:05 | 休 憩 | |
| 15:15 | パネルディスカッション | (院生・若手研究者登壇) |
| 16:00 | 閉会挨拶 | |

参加者の声（一部抜粋）

- 女性ならではの研究者としての悩みと、それを越えてきた先生方の話を聞いて、モチベーションがあがったような気がします。とにかく毎日できることを精一杯頑張りたいです。
- RPD の制度を、本シンポジウムで初めて知りました。このことから、研究者として将来やっていきたいなら、そういった制度等を積極的に調べて知っていくことが大事だと思いました。いろいろなことを考える機会として、このシンポジウムはすごく為になりましたし、参加していくべきだと感じました。
- 女性枠で採用されました。これまで、そして今も、たくさんの思いを抱えていますが、先生のご講演を聞いて感動しました。具体的に動き、私らしい **only one** の研究を、生活をしていきます。
- 研究者によって結果が異なってくるから、女性の研究者は必要であるという言葉が非常に印象的でした。であれば、職員として女性はどのような役割があるのか、自分は何ができるのか考え、仕事をしていこうと思います。



(授与式の様子)



(基調講演の様子)

4. 平成 26 年度 広島大学全学 FD 講演会

「博士人材の活躍の場とこれからの人材養成」

日 時：平成 26 年 10 月 9 日（木）10:30～12:00

会 場：広島大学 東広島キャンパス 学士会館レセプションホール
霞キャンパス 基礎・社会医学棟セミナー室 1
(テレビ会議システムによる中継)

主 催：広島大学女性研究活動委員会

共 催：広島大学人材育成推進室 (FD 部会)

講 師：広島大学グローバルキャリアデザインセンター教授 三須 敏幸

対 象：博士課程後期進学を希望している学生，博士課程在籍中の学生，
ポストドクター，上記の学生・ポストドクターを指導・受け入れている教員，
その他博士人材の養成・活躍促進に関心のある方

参加者：54 名

概 要：グローバル化が進展する知識基盤社会においては，従来の基礎研究や製品開発のみならず，サービスやデザイン思考に基づくイノベーションの創出，企業の経営戦略や国の政策立案，さらには国際社会や地域社会の課題解決に至るまで，博士人材の能力の活用が益々重要となってきた。科学技術が日々高度化・複雑化する中，博士人材はもはやアカデミックな研究者としてだけではなく，異なる領域にも果敢に挑戦し，社会の多様な場で活躍することが期待されている。本講演では，我が国における博士人材の活用状況と本学の博士課程修了者及びポストドクター等の進路動向の現状について，女性の活躍促進の観点を踏まえつつ概観し，本学における博士人材の養成と活躍促進に向けた環境のあり方について考える。

参加者の声（一部抜粋）

- 今後のキャリアパスについて考える参考となりました。
- 博士人材の将来的な活動の場が，アカデミアから企業に移行することを考えたうえで，教育プログラムを組み立てるの必要性を感じた。
- 多様な働き方として，自由度の高いポスドクを選ぶ女性が少なからず存在することは興味深かった。
- 現代は指数関数的に変化する。今やっていることはものの数年で陳腐化するなど，とても刺激的でした。変化を好まない，変わらない日本社会には重要な教訓と思う。だからこそ，変化に追従できる「対応力」が重要であることを認識できた。ポスドク云々を気にせず，やりたいことをやって力をつけるのみと思った。道は開けるだろうと。



(講演の様子)



(ディスカッションの様子)

5. 女性研究者活躍促進シンポジウム

～将来を真剣に考えるあなたにはきっと明るい未来が訪れる～

日 時：平成26年12月18日（木）14:00～16:30

会 場：広島大学 東広島キャンパス 学士会館レセプションホール
霞キャンパス 病院臨床管理棟2階1会議室

対 象：教職員・学生・高校生・本事業関係機関・一般

参加者：107名

プログラム：

| | | |
|-------|-----------------------------|---|
| 14:00 | 開会挨拶 | 学長 浅原 利正 |
| 14:10 | 第2回 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」授与式 | |
| | 受賞者 | イクメン企業同盟ひろしま |
| 14:15 | 受賞講演 | 本廣 篤子 広島県健康福祉局 働く女性・子育て支援部長 木谷 博郁 (株)サタケ 取締役 人事部部長 |
| | 演題 | イクメン企業同盟の取組について |
| 14:45 | 休 憩 | |
| 15:00 | 講 演 | 佐藤 明子 広島大学大学院総合科学研究科 准教授 |
| | 演題 | 女性だけど?女性だから? 将来の自分を少し大きく設定してみませんか? |
| 15:35 | 講 演 | 隠岐 さや香 広島大学大学院総合科学研究科 准教授 |
| | 演題 | 科学の歴史から見えてくる「ジェンダー」の本質 ～「お手本」の悪目立ちと忘却という名の差別について～ |
| 16:10 | 総合討論 | |
| 16:30 | 閉会挨拶 | |

参加者の声（一部抜粋）

- 大学教員，県職員，民間人と，異なるフィールドで働いておられる方の話が聞けてよかったです。
- 働いて自立することを希望していましたが，お話を聞いてその気持ちが強くなりました。
- これからも正社員の妻を支えていけるいい夫で頑張ろうと思いました。
- 大学院進学を考えている女子学生として，また，これから結婚，育児を行っていくであろう一女性として，とても考えさせられました。



(授与式の様子)



(講演の様子)

6. 第34回たおやかプログラムセミナー

Women's advance into society and my contribution to science

日 時：平成27年3月3日（火）10:30～12:00

会 場：広島大学 東広島キャンパス 理学研究科 A017

主 催：広島大学女性研究活動委員会，広島大学男女共同参画推進室

共 催：広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型），
女性研究者養成システム改革加速事業

講 師：Professor & Head Centre for Biomedical Engineering,
Indian institute of Technology, New Delhi India
Dr. Veena Koul

対 象：学生，職員，一般

参加者：12名

概 要：The talk will present the status of Women in pre and post historic time. It will also present how women in India have become economically self sufficient, leading to significant role models as Scientists, Engineers, Entrepreneurs and Politicians. The talk will conclude by highlighting my own research interests and contribution to science specifically in the area of Bio-medical Engineering.

The 34th TAOYAKA Program Seminar 第34回たおやかプログラムセミナー
**WOMEN'S ADVANCE INTO SOCIETY
AND MY CONTRIBUTION TO
SCIENCE**

Lecturer: **Dr. Veena Koul,**
Professor & Head
Centre for Biomedical Engineering, Indian Institute
of Technology, New Delhi India

た
お
や
か
TAOYAKA



Date: **3/3** Tue. 2015

10:30am～12:00pm

Venue: A017 Lecture Room, Graduate School of Science,
Hiroshima University

Object Persons: Teachers, Students and Others

Language: English

Abstract: The talk will present the status of Women in pre and post historic time. It will also present how women in India have become economically self-sufficient, leading to significant role models as Scientists, Engineers, Entrepreneurs and Politicians. The talk will conclude by highlighting my own research interests and contribution to science specifically in the area of Bio-medical Engineering.

会 場：広島大学大学院 理学研究科 A017講義室
対 象：学生・教職員 一 般 使用言語：英 語
共 催：広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）・女性研究者養成システム改革加速事業

【Registration/参加申込み】

Contact us for registration with your name, affiliation and contact information.

メールにて氏名、所属先を明記の上、お申し込みください。

広島大学女性研究活動支援センター（事務局）

E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp

TEL: 082-424-6213 http://taoyaka.hiroshima-u.ac.jp/



（講演の様子 1）



（講演の様子 2）

7. 今日からできる仕事と介護の両立支援 実践セミナー

日 時：平成 27 年 3 月 13 日（金）15:00～17:00

会 場：エソール広島（広島市中区）

主 催：広島大学女性研究活動委員会，広島大学男女共同参画推進室

講 師：株式会社 wiwiw（ウィウィ）社長執行役員・昭和女子大学客員教授
山極 清子

対 象：企業の経営者層，人事労務担当者等
仕事と介護の両立に関心のある人
ケアマネージャー等

参加者：68名

概 要：現在では，介護を理由に離職する従業員は，すでに年間約 10 万人にのぼり，働きながら介護している従業員は約 240 万人といわれています。

皆さんの会社でも，従業員が介護と仕事を両立する支援策の整備について検討されているかと思いますが，なかなか具体的な対応が見出せないという状況ではないでしょうか。

本セミナーでは、「誰もが介護を担う背景」「仕事と介護の両立支援ポイント」「親が倒れる前に知っておくこと」などをご紹介することで，不安を払拭し，老若男女すべての従業員のみなさんが仕事と介護を両立できるポイントを身に付けていただきます。

文部科学省科学技術・政策推進課「女性の活躍推進推進事業（広島版）」セミナー

社員にとっても企業にとっても大損失！それが介護離職… 今日からできる仕事と介護の両立支援 実践セミナー

現在では，介護を理由に離職する従業員は，すでに年間約 10 万人にのぼり，働きながら介護している従業員は約 240 万人といわれています。
皆さんの会社でも，従業員が介護と仕事を両立できるような支援策の整備について検討されているかと思いますが，なかなか具体的な対応が見出せないという状況ではないでしょうか。
本セミナーでは，「誰もが介護を担う背景」「仕事と介護の両立支援ポイント」「親が倒れる前に知っておくこと」などをご紹介することで，不安を払拭し，老若男女すべての従業員のみなさんが仕事と介護を両立できるポイントを身に付けていただきます。
事業主の方，人事労務担当の方，ぜひご参加ください！
また，介護は家族だけの問題ではなく，介護に関わる人たちが全員で考えていかなければなりません。本セミナーが第一歩となるきっかけに繋がります。

本セミナーの「従業員の介護離職を予防するための企業と介護の両立支援策」に取り組みたい 100 社の事業主を招き、
セミナー講師：山極清子さん

＜講師プロフィール＞
株式会社 wiwiw（ウィウィ）社長執行役員、昭和女子大学客員教授、広島県生涯学習推進員、昭和女子大学客員教授、(財) 厚生労働省・福祉政策推進・福祉政策推進員として長年介護離職防止に取り組む。

**【日時】平成 27 年 3 月 13 日（金）
15:00～17:00** 15:00～ 受付開始

【場所】エソール広島 2 階 ミラーコート

**【対象】企業の経営者層、人事労務担当者等
・仕事と介護の両立に関心のある人
・ケアマネージャー等**

**【申し込み方法】
TEL、FAX、Eメールで事前にお申し込みください。
※Eメールでの申し込みの方は、得意先セミナー申込としてください。**

＜申し込み・問い合わせ先＞ 公益財団法人広島県男女共同参画推進課 ④ 事務局
〒730-8510 広島市中区東区 1-1-4 TEL 82-251-2202 FAX 82-251-2446
Eメール: kankou@wv.ac.jp, kankou@wv.ac.jp, kankou@wv.ac.jp ⑤ 事務局・第 3 研修室・第 3 研修室
＜定 額＞ 広島大学 女性研究活動委員会 / 広島大学 男女共同参画推進室
TEL 82-251-2202 FAX 82-251-2203 Eメール: www@wv.ac.jp



(講演の様子 1)



(講演の様子 2)

8. 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）シンポジウム

これからのダイバーシティ社会を考える

～ポイントはあなたのキャリアマネジメントと組織のダイバーシティマネジメント～

日 時：平成 27 年 12 月 10 日（木） 12：50 ～ 17：00

会 場：広島大学 東広島キャンパス 中央図書館ライブラリーホール

対 象：教職員・学生・本事業関係機関・一般

参加者：105 名

プログラム：

12：50～13：05 メタセコイア賞授賞式

13：05～17：00 シンポジウム・ポスターセッション

〈シンポジスト〉

- ・ Barbara Moser-Mercer (Ph. D. ジュネーブ大学-スイス)
- ・ 佐藤 博樹 氏 (中央大学大学院戦略経営研究科教授)
- ・ 白河 桃子 氏 (作家・相模女子大学客員教授)
- ・ 森竹 由美子 氏 (日本ユニシス株式会社)

17：00～19：00 意見交換会

(参加費：3,000 円[一般], 1,500 円[学生])

参加者の声（一部抜粋）

- 女性、多様な人材の活躍について分析、数値化、実体験等多様な視点とリアリティを感じました。弊社も発展途上ですが優良な環境を模索できるよう取り入れていきたいと存じます。
- 大変興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。自分自身が二人の子どもを育休をとりつつ育て、転職なく継続して就業していますので、共感できるお話もたくさんありました。自身のキャリア（会社での）は残り少ないですが、後輩への参考になるような啓蒙活動もしていきたいと思います。
- 私自身今年就職活動に失敗して「働く」ということについて思いつめて考えていたところがあったのですが、今日は無意識のステレオタイプがいかにか自分をしばりつけるか、また女性としてどう働くのか時間の遣い方など人生の先輩でもある講師の方々にお話いただき、少し柔軟に考えられるきっかけになりました。有意義でした。



(授賞式の様子)



(講演の様子)

9. 広島大学女性研究者研究活動支援事業（拠点型）セミナー
本気モードの女性活躍促進!!

～カタチだけじゃない女性活躍の進め方～

日 時：平成 28 年 2 月 25 日（木） 13：30 ～ 16：00

会 場：エソール広島 2 階 会議室

講 師：白河 桃子（少子化ジャーナリスト・作家）

参加者：57 名

プログラム：

13：30 講演会

15：20 パネルディスカッション

（県内企業による取り組み紹介）

パネリスト

・マツダ株式会社

・株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所

ファシリテーター

棚多 里美（広島県男女共同参画財団常務理事）

16：10 交流会（参加費：2,000 円）

参加者の声（一部抜粋）

- 女性の活躍のため、労働時間のコントロール・総労働時間の抑制が挙げられていたが、男女とも働き方を変える、効率的な仕事・やり方を考えることにより、仕事の質が上がり子育て出産への理解が深まる。今後の人材活用の参考となった。
- 自立させることの重要性がわかりました。“今”はいいけど、20 年後を見てほしい。その思いで企業として推進していきたいと思いました。
- 私は制度、規則の改定ばかりを望んでいたと気づきました。同僚に「今子供が 3 歳なんだから周囲の協力体制が欲しい」と言いまくっていました。会社は男性 8～9 割なので、協力する男性も win-win になる規則がないか話し合っていきたいと思います。
- “働くのが当たり前”の社会を目指す。娘 2 人を育てているが、2 人が大きくなった時にそういう社会になっているように、できることを自分がやっていきたい。
- まさに 30 代で未婚という状況で、心にグサッとくる感じがした。ちょうど仕事に復帰するのをいつにしようか考えていたので、とても勉強になりました。
- 女性に優しい企業の限界についてなるほどと思った。子育て女性以外のことも考え、皆で取り組むことについて今後考えていきたい。



講演会の様子



パネルディスカッションの様子

9-2. 広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」

1. 設立の経緯と趣旨

広島大学は、女性研究者の研究活動の支援を図るとともに、他機関等との連携による新たな取り組みを通して、より独創的・学際的な活動をサポートすることを目的として、女性研究活動委員会を設置している。平成 25 年、本委員会の支援の一環として、女性自ら先導し、あるいは女性の活躍の場を広げることによって、社会全体の活力向上に貢献した個人・団体を顕彰するため、広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を創設した。

メタセコイアは生きた化石として世界的に有名で、中国で現存することが確認され、米国の植物学者が持ち帰った種子から養成した苗木が世界各国に配布された。あらゆるところから芽吹く旺盛な生命力と、まっすぐに育つ若木の成長の早さが特徴で、広島大学旧東千田キャンパスには、この苗木が美しい並木として四季に彩りを添えていた。このような歴史と特徴から、国際的な印象を与える樹木であり、新しい発見を世界に広げていくイメージがある。フェニックスと並んで広島大学のシンボリックな存在であるメタセコイアの樹木のように、女性が個性と能力を存分に発揮し、世界中で力強く活躍することを願い、本賞を設立した。

2. 授与の基準

- (1) 男女共同参画の推進及び女性の活躍促進において先進的な取組を行っていることと認められる中国四国地域の個人又は団体
- (2) 男女共同参画社会の構築において顕著な研究業績を挙げた、又は指導的働きをしたと認められる中国四国地域の研究者
- (3) 女性の活躍を支援したと認められる個人又は団体
- (4) 自ら活力向上を先導した女性

3. これまでの受賞者

| | 受賞者名 | 該当する授与基準 |
|---------------|--------------------------------|----------|
| 第1回 平成25年度 | 公益財団法人広島県男女共同参画財団理事長 長尾ひろみ氏 | (1) |
| 第2回 平成26年度 | イクメン企業同盟ひろしま | (1) |
| 第3回 平成27年度 | 竹内智香氏 | (4) |

4. 受賞コメント

平成 27 年 12 月 10 日（木）に開催された女性研究者研究活動支援事業（拠点型）シンポジウムにおいて、第 3 回広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」授与式を執り行った。本学の越智光夫学長が広島ガス株式会社広島ガススキー部長の平野誠宏氏（代理受賞）に表彰状および副賞のガラス細工（ユニコーン）を授与し、受賞者である竹内智香氏の功績を称えた。

このたびは、弊社スキー部所属の竹内智香がこのような栄えある賞をいただき、誠にありがとうございました。

竹内選手は、明後日から始まるワールドカップ初戦のため、現在はイタリアにおり、本日はあいにく出席することができません。お詫び申し上げます。

ご存じのとおり、彼女は各方面で報道されている通りの、バイタリティ溢れる女性です。ですが、本人は、ただただスノーボードが好きで、上を目指すにはどうすればよいのかという一心で、自分の信じる道を突き進んできただけで、たとえば、社会人がよりよい仕事をするために行動していくのと同じですよ、と言っていたことがあります。

端から見ていると、これまでやってきた積み重ねから生まれる自信や様々な経験から得られた心の強さ、そして誰に対しても分け隔てなく接する人間力が彼女の求心力に繋がっているような気がいたします。

好奇心旺盛で、エネルギーの塊のようでもあり、かつしなやかに生きている女性です。これから、このような世界を軽やかに駆け抜ける女性がますます増えるのではないかと感じております。

竹内も、このような賞をいただけたことを非常にうれしく思っておりますし、

何より、自分が今やるべきこと、すなわち、スノーボードの競技で結果を残すことで、自分に関わった方々に恩返ししたいという思いで平昌オリンピックに向けて日々頑張っております。

引き続き、どうかご声援いただきますようお願い申し上げます、代理としてお礼申し上げます。

広島ガス株式会社 経営統括本部 広報環境部長 広島ガススキー部長 平野誠宏



(授与式の様子)

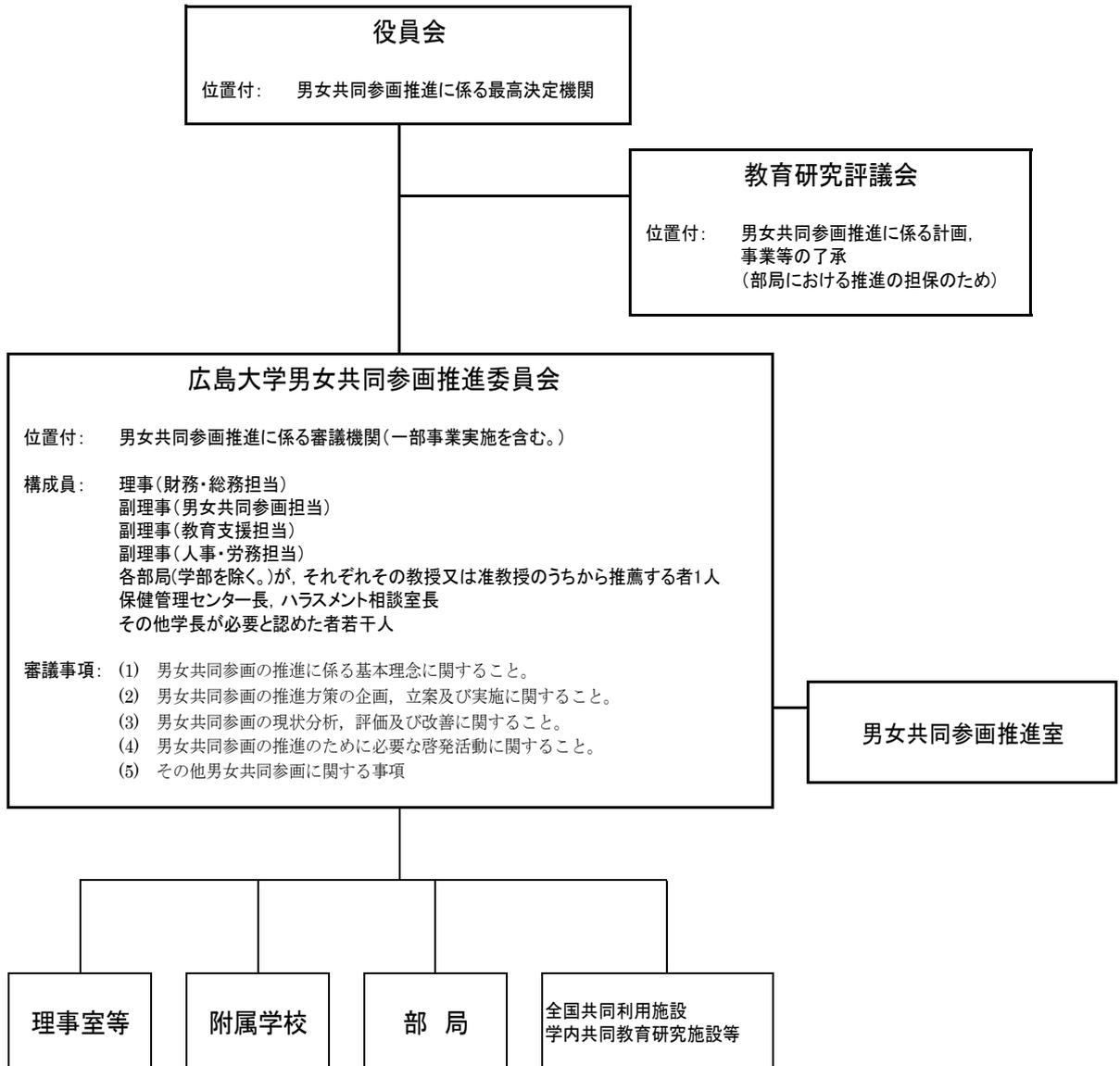


(広島大学技術センター工作部門製作の副賞のガラス細工)

Ⅲ 基盤整備（平成27年度）

10. 男女共同参画推進体制

広島大学における男女共同参画推進体制



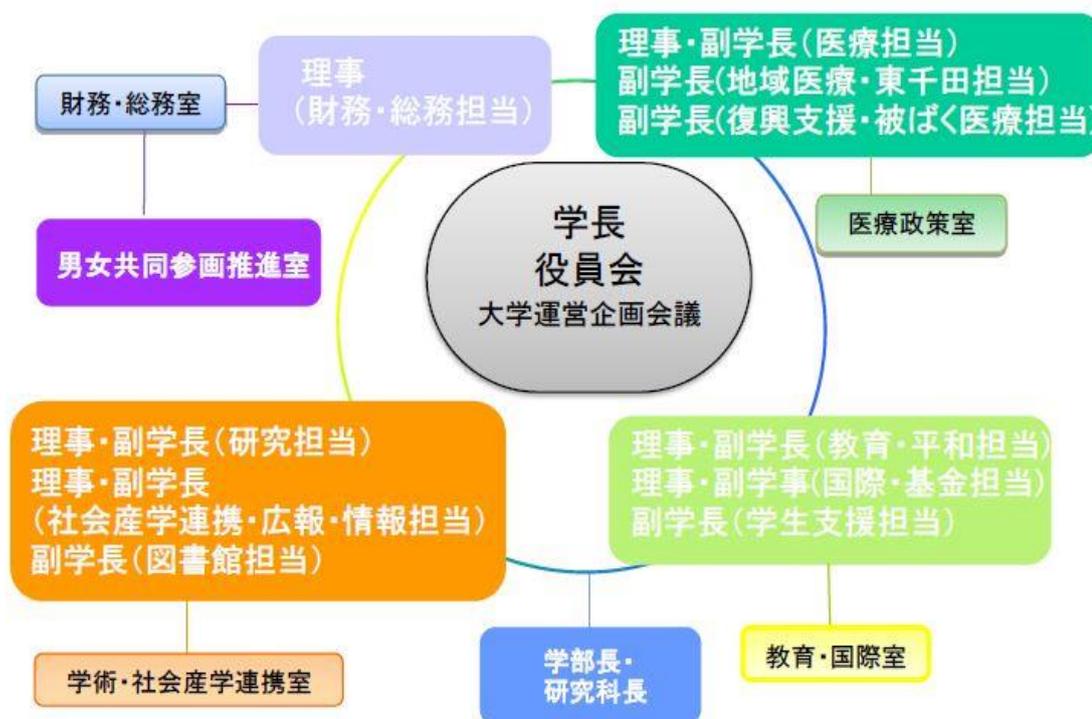
(平成27年4月1日現在)

1.1. 男女共同参画推進室

平成 19 年度に設置された「女性研究者支援プロジェクト (Career Advancement Project for Women Researchers: CAPWR) 研究センター」は発展的解消となり、男女共同参画推進室が、平成 20 年 4 月 1 日付けで設置された。広島大学男女共同参画宣言に基づき、広島大学において、構成員の個性と能力が十分発揮できる組織を構築するための具体的な取組みを推進する。



1.1-1. 広島大学における位置づけ



男女共同参画推進室は、男女共同参画推進委員会が策定する「行動目標」およびそれを達成するための「行動計画」に対する年度ごとの重点活動項目の実行を支援する。さらに、男女共同参画推進室は、女性教員増加のためのポジティブ・アクション担当組織としての役割を果たす。

11-2. 平成27年度のメンバー

◎室長

森永 康子 (副理事 (男女共同参画担当))

○室員

・財務・総務室人事グループ

島原 由起 (主査 (男女共同参画・保育園主担当))

岸本 浩明 (主任)

岡本 江利香 (キャリア支援担当員)

大島 知美 (キャリア支援担当員) (平成27年9月から)

香妻 愛未 (グループ員)

・協力教員メンバー

相田 美砂子 (大学院理学研究科・教授)

泉 俊輔 (大学院理学研究科・教授)

伊藤 圭子 (大学院教育学研究科・教授)

北仲 千里 (ハラスメント相談室・准教授)

坂田 桐子 (大学院総合科学研究科・教授)

中坪 敬子 (大学院理学研究科・助教)

中矢 礼美 (国際センター・准教授)

中坂 恵美子 (大学院社会科学研究科・教授)

横山 美栄子 (ハラスメント相談室・教授)

1 2. 男女共同参画推進委員会

1 2 - 1. 男女共同参画推進委員会委員

委員長： 松ヶ迫 和峰 理事（財務・総務担当）

副委員長： 森永 康子 副理事（男女共同参画担当）

教育グループ（支援事務組織：教育・国際室教育支援グループ）

| | 氏名 | 所属・職名 |
|---|---------------------------------------|-------------|
| 1 | 斎藤 祐見子 | 総合科学研究科教授 |
| 2 | 井内 太郎 | 文学研究科教授 |
| 3 | 三時 眞貴子 | 教育学研究科准教授 |
| 4 | 久米 晶子 | 理学研究科准教授 |
| 5 | 今榮 一郎 | 工学研究院准教授 |
| 6 | 長尾 正崇 | 医歯薬保健学研究院教授 |
| 7 | 片柳 真理 | 国際協力研究科教授 |
| 8 | 吉原 正治 | 保健管理センター長 |
| 9 | 横山 美栄子 | ハラスメント相談室長 |
| ⑩ | 岡本 修治（～27.11.30 まで） （27.12.1～原 義孝） | 副理事（教育支援担当） |

制度グループ（支援事務組織：財務・総務室サービスグループ）

| | 氏名 | 所属・職名 |
|---|--------|----------------|
| 1 | 且井 佑佳 | 社会科学研究科准教授 |
| 2 | 中ノ 三弥子 | 先端物質科学研究科准教授 |
| 3 | 鈴木 卓弥 | 生物圏科学研究科准教授 |
| 4 | 油納 健一 | 法務研究科教授 |
| 5 | 佐藤 健一 | 原爆放射線医科学研究所准教授 |
| 6 | 田妻 進 | 病院教授 |
| 7 | 相田 美砂子 | 理学研究科教授 |
| ⑧ | 眞田 一美 | 副理事（人事・労務担当） |

※ ○印はリーダーを示す。

12-2. 開催一覧

| | 男女共同参画 推進委員会 | グループミーティング | | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|
| | | 教育 | 制度 | 社会 (2012年度まで) |
| 2007年 | 第1回 3月22日(木) | | | |
| | 第2回 6月6日(水) | | | |
| | 第3回 8月31日(金) | 第1回 10月15日(月) | 第1回 10月17日(水) | 第1回 10月17日(水) |
| | 第4回 9月26日(水) | 第2回 10月31日(水) | 第2回 11月7日(水) | 第2回 11月7日(水) |
| | 第5回 11月19日(月) | 第3回 12月3日(月) | 第3回 11月27日(火) | |
| 2008年 | 第6回 1月31日(木) | 第4回 1月21日(月) | 第4回 1月15日(火) | 第3回 1月18日(金) |
| | 第7回 3月3日(月) | 第5回 3月3日(月) | 第5回 3月7日(金) | 第4回 3月7日(金) |
| | 第8回 3月21日(金) | 第6回 6月2日(月) | 第6回 4月24日(水) | 第5回 6月27日(金) |
| | 第9回 4月24日(木) | 第7回 7月14日(月) | 第7回 5月27日(火) | 第6回 10月24日(金) |
| | 第10回 7月15日(火) | 第8回 12月22日(月) | 第8回 7月11日(金) | 第7回 12月25日(木) |
| | 第11回 9月9日(火) | | 第9回 10月7日(火) | |
| | 第12回 10月27日(火) | | 第10回 12月25日(木) | |
| 2009年 | 第13回 1月27日(火) | 第9回 5月19日(火) | 第11回 6月4日(木) | 第8回 7月10日(金) |
| | 第14回 4月30日(木) | 第10回 2月8日(月) | 第12回 10月21日(水) | 第9回 2月22日(月) |
| | 第15回 6月12日(金) | | 第13回 12月17日(木) | |
| | 第16回 10月28日(水) | | 第14回 1月27日(水) | |

| | | | | |
|-------|-------------------------|-------------------|---------------------------|------------------------------|
| 2009年 | 第17回 11月19日(木) | | | |
| 2010年 | 第18回 1月28日(木) | | | |
| | 第19回 3月10日(水) | | | |
| | 第20回 4月26日(月) | 第11回 5月19日(水) | 第15回 6月2日(水) | 第10回 6月30日(水) |
| | 第21回 6月16日(水) | | 第16回 10月13日(水) | |
| | 第22回(書面審議) 9月1日~9月8日 | | 第17回 11月22日(月) | |
| | 第23回 10月14日(木) | | | |
| | 第24回 11月30日(火) | | | |
| 2011年 | 第25回 2月9日(水) | 第12回 1月7日(金) | 第18回 1月19日(水) | 第11回 1月6日(木) |
| | 第26回 5月10日(火) | 第13回 6月7日(火) | 第19回 6月23日(木) | |
| | 第27回 6月28日(火) | 第14回 10月20日(木) | 第20回 9月8日(木) | |
| | 第28回 9月21日(水) | | | |
| | 第29回 12月20日(火) | | | |
| 2012年 | 第30回 2月23日(木) | 第15回 1月20日(金) | 第21回 1月13日(金) | 第12回 2月22日(水) |
| | 第31回 4月17日(火) | 第16回 7月3日(火) | 第22回 6月12日(火) | 第13回 7月3日(火) |
| | 第32回 7月25日(水) | 第17回 10月5日(金) | 第23回 1月11日(金) | 第14回(メール審議) 10月25日~10月31日 |
| | 第33回 11月21日(水) | | 第24回(書面審議) 2月22日~2月28日 | 第15回(メール審議) 1月29日~1月30日 |

| | | | | |
|-------|--------------------------|-------------------|---------------------------|--|
| 2013年 | 第34回 1月31日(木) | 第18回 5月31日(金) | 第25回 6月21日(金) | |
| | 第35回(書面審議) 3月7日~3月12日 | 第19回 10月23日(水) | 第26回 7月11日(木) | |
| | 第36回 5月7日(火) | | | |
| | 第37回 6月6日(木) | | | |
| | 第38回 7月30日(火) | | | |
| | 第39回 11月20日(水) | | | |
| 2014年 | 第40回 1月30日(木) | | 第27回 1月28日(火) | |
| | 第41回 2月24日(月) | | 第28回 10月6日(月) | |
| | 第42回 6月11日(水) | | 第29回 12月11日(木) | |
| | 第43回 12月19日(金) | | | |
| 2015年 | 第44回 3月6日(金) | 第20回 2月9日(月) | 第30回(メール審議) 2月27日~3月3日 | |
| | 第45回 7月30日(木) | | | |
| | 第46回 12月24日(木) | | | |
| 2016年 | 第47回(書面審議) 2月4日~2月8日 | | | |

運営事務組織

男女共同参画推進委員会
教育グループ
制度グループ
ホームページ担当

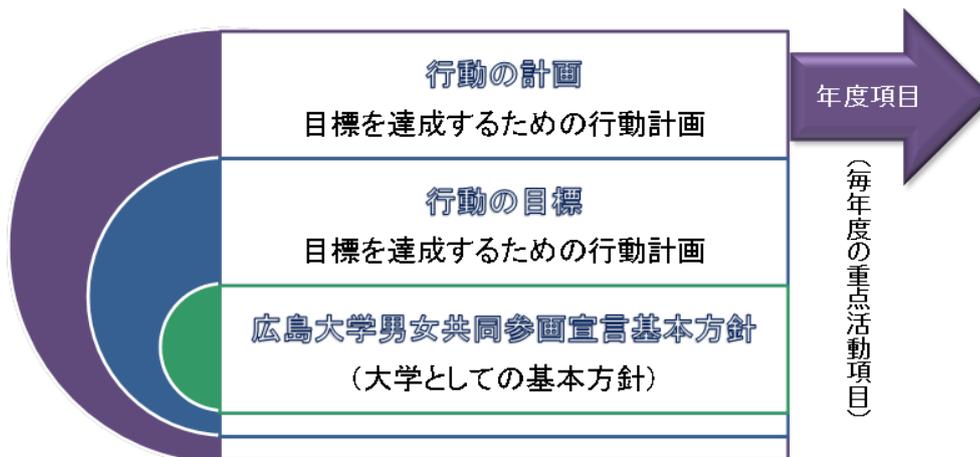
財務・総務室人事グループ
教育・国際室教育支援グループ
財務・総務室サービスグループ
財務・総務室人事グループ

12-3. 男女共同参画推進委員会の目標と計画

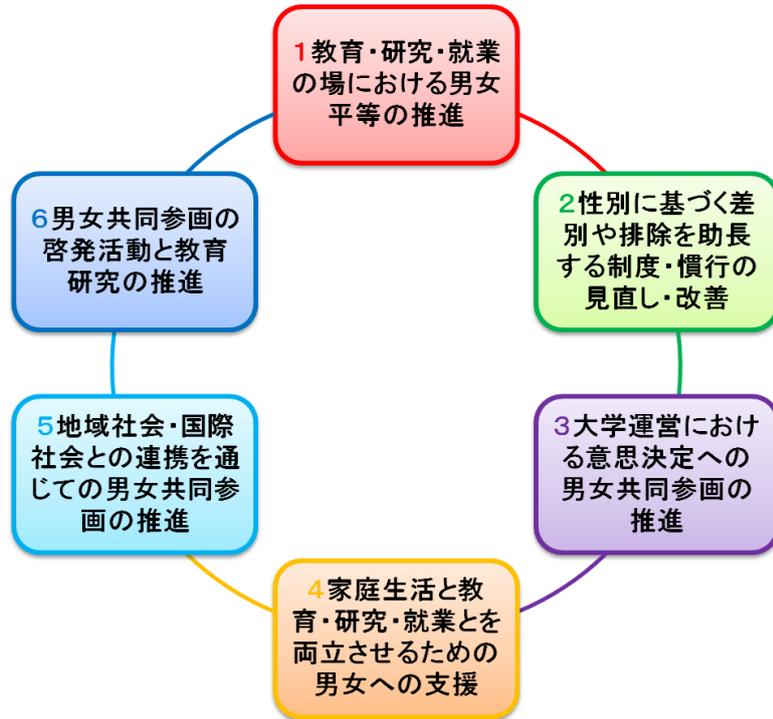
広島大学男女共同参画宣言の6項目の「基本方針」に沿って、広島大学男女共同参画推進委員会の平成23～27年度の「行動の目標」と「行動計画」を、第25回男女共同参画推進委員会（平成23年2月9日）において策定した。これらは、役員会で承認（平成23年3月1日）され、教育研究評議会で報告（平成23年3月8日）された。

また、それらの行動計画を具体的に実行するための、平成23年度の行動項目を第25回男女共同参画推進委員会（平成23年2月9日）において、平成24年度の行動項目を第30回男女共同参画推進委員会（平成24年2月23日）において、平成25年度の行動項目を第34回男女共同参画推進委員会（平成25年1月31日）において、平成26年度の行動項目を第40回男女共同参画推進委員会（平成26年1月30日）において、平成27年度の行動項目を第44回男女共同参画推進委員会（平成27年3月6日）に策定した。

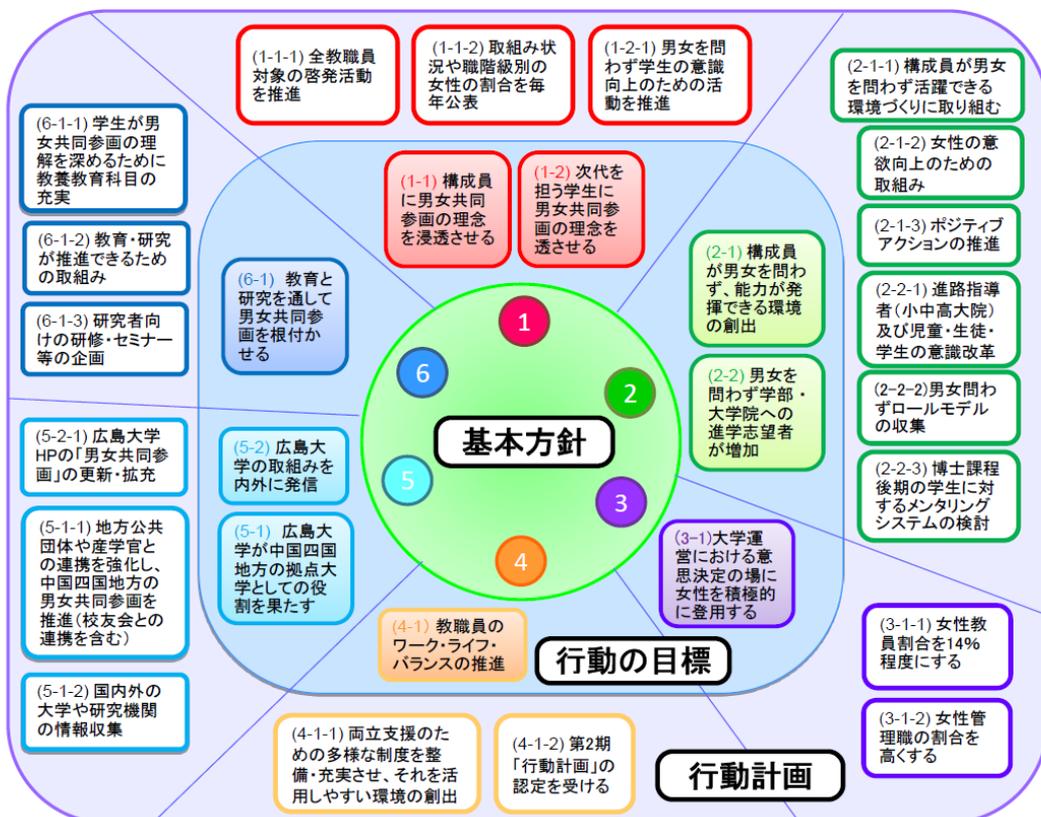
12-4. 活動の指針



12-5. 広島大学男女共同参画基本方針



12-6. 男女共同参画推進委員会の「行動の目標」と「行動計画」



12-7. 平成27年度行動項目一覧表

| 基本方針 | 行動の目標 | 行動計画(H23~27) | H27 行動項目 | 担当 |
|---|---|--|--|-----|
| 1 教育・研究・ 就業の場 における男女 平等の推進 | (1-1) 構成員に男女共 同参画の理念を 浸透させる | (1-1-1) 全教職員対象の啓発活動 を推進 | [1-1-1] セミナー等の啓発活動 | 全体 |
| | | (1-1-2) 取組み状況や職階級別の 女性の割合を毎年公表 | [1-1-2] 事務系、部局等及び全学 委員会における女性比率 の調査と公開 | 全体 |
| | (1-2) 次代を担う学生 に男女共同参画 の理念を浸透さ せる | (1-2-1) 男女を問わず学生の意識 向上のための活動を推進 | 1-2-1 学生対象アンケート結果 の検証を踏まえ、改善策 の実施 | 教育G |
| 2 性別に基づ く差別や排 除を助長す る制度・慣 行の見直し・改善 | (2-1) 構成員が男女を 問わず、能力が 発揮できる環境 の創出 | (2-1-1) 構成員が男女を問わず活 躍できる環境づくりに取り組 む | [2-1-1] 構成員が活躍できる環境 づくりの検証結果に基づく 改善策の検討・実施(意 思決定の場に両性の意見 を反映させる方策につい ての改善策の検討・実施 を含む) | 制度G |
| | | (2-1-2) 女性の意欲向上のための 取組み | [2-1-2] 女性教職員のネットワー クより意見を吸い上げる 方策の実施及び意見を審 議機関に伝え、検討結果 を公表する仕組みの導入 の検討 | 制度G |
| | | (2-1-3) ポジティブアクションの推進 | [2-1-3]女性比率向上策 の検証・改善策の検討 | 全体 |
| | (2-2) 男女を問わず学 部・大学院への 進学志望者が増 加 | (2-2-1) 進路指導者(小中高大院) 及び児童・生徒・学生の意 識改革 | [2-2-1]これまでの実施 状況を踏まえ、改善策や 向上策の検討・実施 | 教育G |
| | | (2-2-2) 男女問わずロールモデルの 収集 | [2-2-2]広報や周知の方 法等を改善し、ロールモデ ルの収集 | 教育G |

| | | | | |
|------------------------------------|---|--|---|-----|
| | | (2-2-3) 博士課程後期の学生に対するメンタリングシステムの検討 | [2-2-3] 博士課程後期の学生に対するメンタリングシステムの試行・検証 | 全体 |
| 3 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進 | (3-1) 大学運営における意思決定の場 に女性を積極的に登用する | (3-1-1) 女性教員割合を14%程度にする | [3-1-1] 女性教員割合を前年度より高くする | 全体 |
| | | (3-1-2) 女性管理職の割合を高くする | [3-1-2] 女性管理職の割合を前年度以上とする | 全体 |
| 4 家庭生活と教育・研究・就業とを両立させるための男女への支援 | (4-1) 教職員のワーク・ライフバランスの推進 | (4-1-1) 両立支援のための多様な制度を整備・充実させ、それを活用しやすい環境の創出 | [4-1-1] 両立支援のための多様な制度の整備・充実(拡大) 制度の活用状況調査の結果を踏まえ、更に制度を活用しやすい環境を整備する | 制度G |
| | | (4-1-2) 第2期「行動計画」の認定を受ける | | 制度G |
| 5 地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画の推進 | (5-1) 広島大学が中国四国地方の拠点大学としての役割を果たす | (5-1-1) 地方公共団体や産学官との連携を強化し、中国四国地方の男女共同参画を推進(校友会との連携を含む) | [5-1-1] 地元自治体等の男女共同参画組織及び産学官との連携及び拠点事業の支援 | 全体 |
| | | (5-1-2) 国内外の大学や研究機関の情報収集 | [5-1-2] 国内外の大学や研究機関の情報収集 | 全体 |
| | (5-2) 広島大学の取り組みを内外に発信 | (5-2-1) 広島大学 HP の「男女共同参画」の更新・拡充 | [5-2-1] 広島大学 HP の「男女共同参画」の更新・拡充 | 全体 |
| 6 男女共同参画の啓発活動と教育研究の推進 | (6-1) 教育と研究を通して男女共同参画を根付かせる | (6-1-1) 学生が、男女共同参画の理解を深めるために教養教育科目の充実 | [6-1-1] 学生の履修登録期間までに、男女共同参画関連の授業科目のわかりやすい一覧更新(HPにも公開) | 教育G |

| | | | | |
|--|--|------------------------------|---------------------------------|----|
| | | (6-1-2) 教育・研究が推進できるための取組み | [6-1-2] 女性研究者支援事業の継続実施・改善 | 全体 |
| | | (6-1-3) 研究者向けの研修・セミナー等の企画 | [6-1-3] 研究者向けの研修・セミナー等の企画・検討 | 全体 |

12-8. 平成27年度重点項目

平成27年度行動項目（15-7参照）の中で、特に、平成27年度に重点的に実施した項目は次のとおりである。

全体

- 女性比率向上策の検証・改善策の検討
- 士課程後期の学生に対するメンタリングシステムの試行・検証
- 地元自治体等の男女共同参画組織及び産学官との連携及び拠点事業の支援
- 女性研究者支援事業の継続実施・改善
- 研究者向けの研修・セミナー等の開催

教育グループ

- 学生対象アンケートの実施

制度グループ

- 構成員が活躍できる環境づくりの検証結果に基づく改善策の検討
（意思決定の場に両性の意見を反映させる方策についての改善策の検討を含む）
- 第3期「行動計画」の実現に向けて検討・実施

12-9. 各グループの実施状況

(1) 教育グループ

H26行動項目[1-2-1]

学生対象アンケート結果の検証を踏まえ、改善策の実施

【26年度の実施状況】

- ・女性院生・学部生のランチ持ち寄り交流会（BBC）の実施
- ・女性院生を対象としたMLへ希望者を追加

H26行動項目[2-2-1]

これまでの実施状況を踏まえ、改善策や向上策の検討・実施

【26年度の実施状況】

- ・8月7・8日オープンキャンパスで女子高生対象の質問・相談コーナーを実施（計84名参加）
- ・10月24日「広島県高等学校長協会と広島大学との懇談会」において、体験科学講座の開催について周知
- ・女子高生向けの体験科学講座を、3月7日に工学部で、3月8日に教育学部で開催

H26行動項目[2-2-2]

広報や周知の方法等を改善し、ロールモデルの収集

【26年度の実施状況】

- ・学内の女性研究者のロールモデルをHPへ掲載

H26行動項目[6-1-1]

学生の履修登録期間までに、男女共同参画関連の授業科目のわかりやすい一覧更新（HPにも公開）

【26年度の実施状況】

- ・教養教育科目「ジェンダーと社会」を開講
- ・学生の履修登録期間までに、男女共同参画関連の授業科目一覧をHPへ掲載
- ・次年度の授業科目一覧掲載の準備
- ・学生向けテキスト及び学生向け啓発パンフレットを作成

(2) 制度グループ

H26行動項目[2-1-1]

構成員が活躍できる環境づくりの実施・検証（意思決定の場に両性の意見を反映させる方策の実施・検証を含む）

【26年度の実施状況】

- ・女性研究活動委員会において、「女性賞の設立」「現状分析」「意識啓発セミナー」についての分科会を設置し、検討
- ・提言に基づき、両性の参画が必要な各種会議へ、女性委員を加える措置を講じるように依頼
- ・当該会議に対し、女性教員の平成27年度参画予定状況について照会

H26行動項目[2-1-2]

女性教職員のネットワークより意見を吸い上げる方策の試行の実施・検証

【26年度の実施状況】

- ・女性研究者の異動状況をチェックするとともに女性教員のMLに追加

H26行動項目[4-1-1]

両立支援のための多様な制度の整備・充実（拡大）の検討。必要に応じて継続的に環境を改善し、制度を活用しやすい環境を整えるとともに、制度の活用状況を調査する

【26年度の実施状況】

- ・育児部分休業制度拡充の検証のため、就労管理システム等のデータを活用した検証資料を作成し、諸会議等において公表
- ・制度活用改善策として挙げられている項目のうち、活用者からの要望が多く、優先順位の高いものの実施として、産前休暇を取得予定の職員に対してリーフレットの配付を行うよう、各部局等人事担当者へ依頼

H26動項目[4-1-2]

次世代育成支援対策推進法による「一般事業主行動計画」の適合認定を申請する

【26年度の実施状況】

- ・次世代育成支援対策推進法による「一般事業主行動計画」の適合認定を申請した（平成26年11月4日付け認定）
- ・学童保育（東広島地区・広島地区）の実施
- ・病後児保育利用料補助事業の実施
- ・来年度の保育園入園者を募集し、決定
- ・大学入試センター試験時の臨時開園についてニーズ調査を実施し、ひまわり保育園を開園
- ・年次有給休暇取得率の公表を実施
- ・年次有給休暇等の取得促進を「いろは」へ掲示

○内容： 休暇期間中の学習支援，学内の施設における体験学習（自然科学研究支援開発センター，総合博物館，ビオトープ）。屋内，屋外運動支援。

(広島地区)

○期間： 平成27年7月21日～8月28日の
平日 8：00～19：00

○場所： 霞キャンパス内

○保育対象： 本学教職員の学童61名
(小学校1年生から6年生)

○指導員： 業者委託による

○学生サポーター： 3名（広島大学在学中の学生）

○内容： 休暇期間中の学習支援，屋内，屋外運動支援。

広島大学子どもクラブ (学童保育)
夏休みの利用者募集!
(契約職員・非常勤職員の方も利用できます)

実施期間
【広島地区】7月21日(火)～8月28日(金)
8:00～19:00

募集期間
6月5日(金)～6月29日(月)まで
(入会可否の連絡 7月9日(木)予定)

【施設利用の場所】
広島大学霞キャンパス(1階)～自然科学研究支援開発センターの学童室 8:00～19:00
霞キャンパス コミュニティ教育支援施設(専ら)1階(特別室)

【保育対象の学童】
広島大学に勤務する教職員の子ども。募集に特許者が既数(1/2)の時点で、平日(土曜日)に開催される学童保育(16時～18時)に参加している学童。40名程度までの学童。学年は教職員の学年までです。

【保育内容】
1日 1,000円(おやつ、遊具費含む)※児童一人当たり約500円
(学童保育費の徴収に必要のため、学童保育費は学別徴収、別途徴収!!)

【申し込み方法】
「学童保育」申込書に必要事項を記入し、お申し込みください。お申し込みは学童保育申込書に準じて実施いたします。申し込み期間は6月29日(月)までです。

【お問い合わせ】
*申込書お取寄せの場合は、入会費を別途お支払いする必要があります。

※ 詳細については、自然科学研究支援開発センターホームページでご確認ください
URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/sanriku/>
担当: 学童保育担当 佐藤 由美子 (TEL: 082-424-4155)
〒730-8521 広島県広島市南区中野4-1-1
E-mail: sanriku@hiroshima-u.ac.jp



(ビオトープ)



(野菜収穫)

②学内学童保育：冬季子どもクラブ
(東広島地区)

○期間：平成27年12月24日～平成28年1月7日までの
平日 8:00～19:00

○場所：東広島キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童22名
(小学校1年生から6年生)

○指導員：業者委託による

○学生サポーター：8名(広島大学で教職課程履修中の学生)

○内容：休暇期間中の学習支援、学内の施設における体験学習(総合博物館、理学研究科植物管理室)。調理・工作等の体験学習。屋内、屋外運動支援。

(広島地区)

○期間：平成27年12月22日～平成28年1月7日までの
平日 8:00～19:00

○場所：霞キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童27名
(小学校1年生から6年生)

○指導員：業者委託による

○学生サポーター：1名(広島大学在学中の学生)

○内容：休暇期間中の学習支援、屋内、屋外運動支援。



(しめ縄作り)



(焼き芋作り)



③学内学童保育（春季子どもクラブ）（平成28年3月1日現在）
（東広島地区）

○期間：平成28年3月28日～4月6日までの平日 8:00～19:00

○場所：東広島キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童（新小学校1年生から6年生
（卒業生も含む））

○指導員：業者委託による

○学生サポーター：広島大学で教職課程を履修中の学生

○内容：休暇期間中の学習支援，体験学習，屋内，屋外運動
支援。

**広島大学子どもクラブ
（学童保育）
春休みの利用者募集！**

（実施期間）東広島地区
3月28日（月）～4月6日（水） 8:00～19:00

（募集期間）
2月1日（月）～3月1日（火）まで
（入会可否の連絡 3月1日（金）予定）
★契約職員・非常勤職員の方も利用できます！

【施設名称・編成】
施設名：平成28年度春休み（水）～平成28年4月6日（水）の平日のみ
施設時間：8:00～19:00
施設場所：東広島キャンパス内

【利用対象・定員】
広島大学で保育するお預かりの方で、休日に保護者が就業もしくは休養等により
お預かりいただくお預かり希望の方（小学生～6年生、休養等によるお預かり）
※契約職員・非常勤職員の方も利用できます

【お申し込み】
1日：1,000円（お預かり料、施設費含む）※定員一人あたりのお預かり
料金です。お預かり料は別途お支払いください。お預かり料は別途お支払いください。
お申し込み：お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。
申し込み期間：3月1日（火）

【お問い合わせ】
お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。
お申し込み：お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。
お申し込み：お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。

※ 詳細については、お預かり希望の方にお申し込みください。
URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/sakaku/>
お申し込み・お問い合わせ先：学内学童保育課（担当：大島）
TEL: 082-424-4413
E-mail: sakaku@hiroshima-u.ac.jp

（広島地区）

○期間：平成28年3月22日～4月7日までの平日 8:00～19:00

○場所：霞キャンパス内

○保育対象：本学教職員の学童（新小学校1年生から6年生
（卒業生も含む））

○指導員：業者の委託による

○学生サポーター：広島大学在学中の学生

○内容：休暇期間中の学習支援，屋内，屋外運動支援。

**広島大学子どもクラブ
（学童保育）
春休みの利用者募集！**

（実施期間）広島地区
3月23日（水）～4月7日（水） 8:00～19:00

（募集期間）
2月1日（月）～3月1日（火）まで
（入会可否の連絡 3月1日（金）予定）
★契約職員・非常勤職員の方も利用できます！

【施設名称・編成】
施設名：平成28年度春休み（水）～平成28年4月7日（水）の平日のみ
施設時間：8:00～19:00
施設場所：霞キャンパス内

【利用対象・定員】
広島大学で保育するお預かりの方で、休日に保護者が就業もしくは休養等により
お預かりいただくお預かり希望の方（小学生～6年生、休養等によるお預かり）
※契約職員・非常勤職員の方も利用できます

【お申し込み】
1日：1,000円（お預かり料、施設費含む）※定員一人あたりのお預かり
料金です。お預かり料は別途お支払いください。お預かり料は別途お支払いください。
お申し込み：お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。
申し込み期間：3月1日（火）

【お問い合わせ】
お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。
お申し込み：お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。
お申し込み：お申し込みは、お預かり希望の方にお申し込みください。

※ 詳細については、お預かり希望の方にお申し込みください。
URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/sakaku/>
お申し込み・お問い合わせ先：学内学童保育課（担当：大島）
TEL: 082-424-4355
E-mail: sakaku@hiroshima-u.ac.jp

13-3. 病後児保育利用料補助事業

【病後児保育利用料補助事業の概要】

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立を支援することを目的として、広島大学の職員の子（6歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子）が、病気や怪我の回復期にあるため集団保育が困難な期間について、病後児専用保育室を有する施設等を利用した場合の利用料の補助を行う事業

1. 利用対象者

広島大学に在職する職員の内、学内外の保育園を利用している者。（契約職員・非常勤職員含む。）又は、就業、介護等の事由により、その保育すべき乳幼児を家庭で保育することができない者

2. 事業内容

病後児保育施設を利用した際に支払った費用の一部を利用料補助として支援

1回あたりの支援額は、次のうちのいずれか低い額

- ・支払った金額の3分の2を超えない額（10円未満切り捨て）
- ・1,000円

3. 実施期間

前期：平成27年 4月1日～平成27年 9月30日

後期：平成27年10月1日～平成28年 3月31日

（各この期間内に利用したもの）

4. 利用回数

子ども1人あたり各期毎の実施期間中8回（8日を限度）まで

5. 制度の概要

(1) 病後児保育施設の利用

利用者が、直接当該施設に対して事前登録及び予約等の必要な手続きを行い、その利用料等を支払う。

(2) 病後児保育施設を利用したことが確認できる書類の整備

利用者は、利用施設において、病後児保育施設を利用したことが確認できる書類を交付してもらう。

- ・病後児保育施設を利用したことが確認できる記載がある「領収書」

※ 領収書に病後児保育施設を利用したことを確認できる記載がない場合は、その旨の記載がある書類が、別途必要となります。

(3) 補助金の請求

利用者は、「病後児保育利用料補助事業の利用申請書」（初回のみ）「病後児保育利用料補助金請求書」に必要書類を添付し、当月分を一括して翌月末までに男女共同参画推進室へ学内便等で提出する。

【必要書類】

- ・領収書（原本）
- ・病後児保育を利用したことが確認できる書類（領収書で確認できる場合は省略可）

(4) 補助金の支払い

内容を確認のうえ、「病後児保育利用料補助金請求書」に基づいて利用者の登録口座へ補助金を振り込む。

6. 利用対象施設

- ・ 全国病児保育協議会に加盟している広島県内の病後児保育施設
- ・ 広島県内の各市町が実施する病後児保育事業において指定された病後児保育施設
- ・ 申請により理事の承認を得て利用する病後児保育施設

13-4. キャリア支援担当員によるキャリア相談

男女共同参画推進室に2名のキャリア支援担当員を配置し、学内の女性研究者や女性院生・学部生からの相談に応じる体制を整えている。相談内容は多岐にわたっているが、研究者からは主としてキャリアの維持、キャリア形成に関する相談と、子育てなど仕事との両立支援に関する相談が多く、学生からは進路、就職に関する相談が多かった。

13-5. ユビキタス研究環境の整備

出産予定、産休、育休、育児、介護等により大学における勤務時間に制約がある女性研究者に、大学以外でも研究、教育を可能にする「ユビキタス研究環境の整備」支援を行った。

今年度は女性院生より利用申請があり、研究室と同じ環境で研究活動を効率的に進めている。

支援内容は、モバイルのノートパソコン、データ同期ソフト、ウェブカメラのリース。平成27年度は、女性研究者（7名）・女性院生（5名）の計12名が利用した。

13-6. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の認定

(1)第1期行動計画

広島大学では、大学全体の取り組みとして、職員の仕事と子育ての両立を推進するとともに、職場全体のより働きやすい環境を整えるべく、「次世代育成支援対策推進法に基づく広島大学の行動計画（平成17年4月1日～平成22年3月31日）」を策定した。この第1期行動計画は、平成16年度に人事制度検討会議で原案を作成し、部局長連絡調整会議、教育研究評議会を経て、役員会（平成17年3月17日）で承認され、平成17年4月1日に策定された。計画期間内に第1期行動計画の8項目の目標を全て達成したことにより、平成22年6月9日に2010年認定事業主として認定を受けた。

【第1期行動計画】

計画期間 平成17年4月1日から平成22年3月31日までの5年間

内容

目標1：妻の出産に伴い取得できる休暇制度を取得しやすくするとともに、常勤職員以外の職員にも導入する。

目標2：子の看護を行うために取得できる休暇制度を取得しやすくするとともに、常勤職員以外の職員にも導入する。

目標3：男性職員の育児参加を促進するための新たな休暇制度を導入する。

目標4：期間雇用職員の育児休業制度を拡充する。

目標5：育児部分休業の対象を拡充する。

目標6：出産及び育児の支援に関する制度の周知を図るため、ホームページを作成する。

目標7：時間外労働を短縮するための措置を実施する。

目標8：年次有給休暇の取得を促進するための措置を実施する。

(2)第2期行動計画

仕事と生活が両立できる多様な制度を整備・充実し、それを活用しやすい環境を創出することを目標とし、第2期行動計画（平成22年4月1日～平成27年3月31日）を策定した。この行動計画は、男女共同参画推進委員会で原案を作成し、役員会（平成22年3月16日）で承認され、平成22年4月1日に策定されたものである。計画期間内に第2期行動計画の4項目の目標を全て達成したことにより、平成26年11月4日に2014年認定事業主として認定を受けた。

※第2期行動計画の期間及び内容の一部変更について、男女共同参画推進委員会（平成25年7月30日）で承認し、役員会（平成25年9月3日）にて報告

【第2期行動計画】

計画期間 平成22年4月1日から平成26年9月30日までの4年6ヶ月

内容

目標1：学内の保育園の運営を充実させる。

(対策) ①職員の必要に応じ、学内保育園の運営（夜間・休日勤務又は休日の学校行事等に対する夜間・休日開園等）を柔軟に対応する。（平成23年1月～）

②学童保育及び病後児保育を実施する。（平成23年4月～）

目標2：育児を行う職員が、仕事と家庭の両立を実現できるよう、柔軟な働き方を可能にする制度を構築する。

(対策) ①育児を行う職員の職場の実態に応じた柔軟な働き方を可能にする勤務時間短縮の制度導入に向けて検討し、必要に応じて整備・充実を行う。（平成24年6月～）

目標3：仕事と生活の両立支援を図る制度を取得しやすい環境を整える。

(対策) ①年次有給休暇取得率を安全衛生委員会で報告すると共に、学内掲示板及び広報誌等に掲載し、現在の状況を公表する。（平成22年10月～）

②管理職に対し、年次有給休暇等を取得しやすい環境整備促進への意識啓発を行う。（平成22年10月～）

③職員に対し、年次有給休暇等を取得しやすい環境整備促進のための啓発チラシ・掲示を行う。（平成22年10月～）

目標4：行動計画策定及び制度導入の周知・広報を行う。

(対策) HP、学内広報誌、学内掲示板及びリーフレットによる周知・広報等を行う。（平成22年4月～）



(2)第3期行動計画

職員が仕事と生活を両立し、能力を十分に発揮できるよう、両立支援のさらなる充実を目指した環境の整備に取り組むことを目的とし、第3期行動計画（平成26年10月1日～平成31年9月30日）を策定した。この行動計画は、男女共同参画推進委員会の制度グループで原案を作成し、男女共同参画推進委員会（平成26年12月19日）を経て、役員会（平成26年12月24日）にて承認し、策定された。計画期間内に全ての目標を達成できるよう取り組んでいく。

【第3期行動計画】

計画期間 平成26年10月1日から平成31年9月30日までの5年間

内容

目標1：育児を行う職員が両立支援に関する制度を更に活用しやすいように整える。

（対策）①両立支援制度に関する活用状況を調査し、更に活用しやすい環境となるよう整備を行う。（平成27年10月～）

目標2：男性職員が積極的に育児に参加できるよう、制度を活用しやすい環境づくりに取り組む。

（対策）①男性職員の両立支援制度の利用促進のため、HPを充実させる。（平成27年4月～）

②男性職員を対象とした子育て支援セミナーを実施し、意識啓発を行う。（平成26年12月～）

目標3：年次有給休暇取得促進を図るため、環境の整備を行う。

（対策）①年次有給休暇取得に関するリーフレットを作成し、研修や学内掲示板及びHPにて職員に周知する。（平成27年4月～）

②各部署において年次有給休暇を取得しやすい環境整備を図るなど、年次有給休暇の取得の促進を図る。（平成28年10月～）

目標4：子育てに関する地域貢献活動を実施する。

（対策）①地方公共団体と連携し、認可保育園の誘致を行い、職員が職場復帰しやすい環境を整備するとともに、地方公共団体の保育施設における待機児童の解消に貢献する。（平成27年7月～）

②地域における子育て支援活動への積極的な参加や、本学において男女共同参画推進に関するセミナーを実施し、情報を発信する。（平成26年10月～）

14. リーダーシップ育成と意識啓発

14-1. 女性研究者奨励賞

広島大学の若手女性研究者が、より一層研究意欲を増すことの一助となることを期待して、平成19年度から広島大学女性研究者奨励賞が設けられた。第9回目となる平成27年度は、研究意欲向上とスキルアップ効果を促進するため、下記のとおり募集を行った。

15件の応募があり、研究計画書1件あたり複数名の学内審査員による審査を実施した結果、6件を採択した。

1. 応募資格等

(1) 応募資格：以下の条件をいずれも満たすこと。

- ① 広島大学に在籍する准教授以下の女性研究者（研究員を含む。ただし、大学院生を除く。）
- ② 文部科学省科学研究費助成事業（旧 補助金 以下同様）に応募実績がある者（平成28年度科学研究費助成事業へ申請予定の者も含む。）
- ③ 応募した時点で、研究代表者として文部科学省科学研究費助成事業等のあらゆる研究資金（外部及び内部）を得ていない者（ただし、内定の日までに研究資金を得たことがわかった場合は応募を取り消すこととする。）
- ④ 過去に本奨励賞を受賞していないこと。

2. 支援金額等

- (1) 支援金額：1件あたり20万～100万円（上限）
 - (2) 採択件数：4～6件程度（文系・理系 各2～3件程度）
 - (3) 支援期間：採択後～平成28年3月末日
- ※平成28年3月末日までに全額使用すること

3. 応募方法等

- (1) 応募方法：研究計画書を作成し、メール（pdfファイル）にて研究企画室へ提出
- (2) 応募締切：平成27年7月9日（木）

<平成27年度 女性研究者奨励賞 受賞者一覧>

| | 氏名 | 所属部局 | 職名 | 研究課題名 | 配分額 (千円) |
|---|--------|------------------|------|--|-------------|
| 1 | 森吉 千佳子 | 大学院理学研究科 | 准教授 | 誘電特性・結晶構造同時計測による非鉛圧電セラミックスの電場誘起歪み発生機構の解明 | 500 |
| 2 | 渡邊 園子 | 大学院国際協力研究科 | 特任講師 | 人工ウェットランド（ため池）における人間活動と生態系の相互作用の解明 | 500 |
| 3 | 久米 晶子 | 大学院理学研究科 | 准教授 | 金属電極上での有機ネットワーク薄膜のオンサイト構築と協働触媒効果の開発 | 500 |
| 4 | 樫木 薫 | 大学院医歯薬保健学 研究院 | 准教授 | マクロファージの飲食作用におけるイノシトールリン脂質代謝酵素ネットワークの解明 - 酵素欠損セルバンクの構築 - | 500 |
| 5 | 本田 有紀子 | 大学病院 | 助教 | 低線量多時相 Dual-Energy CT の腎病変診断への応用 | 500 |
| 6 | 山根 明子 | 大学院社会科学研究科 | 講師 | 投資期間の違いによる資産価格モデルのパフォーマンス評価 | 500 |

14-2. 教養教育科目「ジェンダーと社会」

平成22年度から、教養教育科目として「ジェンダーと社会」を開講した。

この授業では、現在の社会におけるジェンダーを巡る諸問題について理解し、なぜ男女共同参画が必要なのか、どうすれば男女共同参画社会が実現できるのかについて考える。男女共同参画の必要性を理解すると共に、男女共同参画推進のための各種制度に関する基本的な知識を習得し、現状の問題点について考えることができるようになることを目指す。

対象：全学生

開講日時：毎週木曜日 3・4 時限

場所：総合科学部 K108

履修者数：159名

授業スケジュール：

| | | テーマ | 講義タイトル | 担当者 |
|----|-------|-------------|-----------------------------|-------|
| 1 | 4月9日 | オリエンテーション | なぜ男女共同参画について学ぶのか | 森永康子 |
| 2 | 4月16日 | 「ジェンダー」とは何か | 男らしさ・女らしさについて考える | 北仲千里 |
| 3 | 4月23日 | | 性別とは何か | 北仲千里 |
| 4 | 4月30日 | | 女らしさ・男らしさはどのように身につくのか | 森永康子 |
| 5 | 5月7日 | | ジェンダーは個人にいかに関与を及ぼすか | 坂田桐子 |
| 6 | 5月14日 | ジェンダーと結婚・家族 | 「家族」という制度～「近代家族」に「愛」が必要なわけ～ | 西村雄郎 |
| 7 | 5月21日 | | 家事労働 | 横山美栄子 |
| 8 | 6月4日 | | 結婚について考える | 中島健一郎 |
| 9 | 6月11日 | ジェンダーと労働 | 労働分野で生起している問題について | 佐藤真奈美 |
| 10 | 6月18日 | | 男女共同参画推進のための制度 | 佐藤真奈美 |
| 11 | 6月25日 | | 労働における対人関係上の問題 | 横山美栄子 |
| 12 | 7月2日 | ジェンダーと学問・教育 | 国際社会におけるジェンダー | 恒松直美 |
| 13 | 7月9日 | | 科学とジェンダー～何故女性科学者は少なかったのか | 隠岐さや香 |
| 14 | 7月16日 | | 広島大学における男女共同参画の現状と取り組み | 中坂恵美子 |

14-3. 女子学生交流会 BBC

BBC(Brown Bag Chat)は、研究者を目指す女性の院生・学部生がランチを持寄って気軽に交流する会。研究者を目指す女子学生の情報交換や仲間づくりの場となっている。平成23年度から、毎月第4金曜日に東広島キャンパスの男女共同参画推進室での開催と定例化し、平成27年4月～平成28年1月までで計5回開催した。延べ7名の女子学生が参加した。

また、参加者が男女共同参画推進室の活動に関心をもち、学童保育の指導員やイベントなどでのスタッフとして、継続して協力しているケースもある。

【BBC=Brown Bag Chat=茶色の紙袋にランチを入れて集まっておしゃべりしよう！】

参加者の声（一部抜粋）

- 院進学を考えているので、院生の方のお話しはとても参考になります。
- 専攻も出身地も違いますが、他の研究科の方とお話しすることで、様々な見識を得ることができ、視野が広がります。
- 自分とは違う領域の研究の話聞くことで新鮮に感じ、研究以外のお話もしてとても有意義な時間を過ごすことができます。今後も是非続けていただきたいです。



14-4. 女子高校生対象の体験科学講座

女子高生のための科学講座

女子高生が自ら主体的に実験・実習ができる体験型の科学講座を2回実施した。基本的には、全員が参加するコアコース、1つを選んで参加するサブコース、及び全員が参加する質問・相談コーナーの3部構成である。テーマは女子高生に身近なもので、「これも科学!」と実感し、科学に関する興味・関心を喚起できるようにした。また、参加者と講師やスタッフの女子大学生との交流の機会を設け、科学の世界に携わる女性が身近に感じられるようにした。



1. 第15回 総合科学部編

日時：平成28年3月5日（土）
場所：広島大学 総合科学研究科
参加者：28名（参加申込者数）
内容：

- ・コアコース「光と電子の不思議を体験しよう ～このコースのテーマは2つです～」
- ・サブコース1「分子1個の大きさを計ってみよう」
- ・サブコース2「ハエの瞳の細胞生物学」
- ・サブコース3「あみだくじから覗く数理科学の世界」
- ・質問コーナー

2. 第16回 理学部編

日時：平成28年3月19日（土）
場所：広島大学 理学研究科
参加者：29名（参加申込者数）
内容：

- ・コアコース（前半）「数学と生物と生命」
- ・コアコース（後半）「パワーストーンの本当の力 ～鉱物から学ぶ物質科学～」
- ・サブコース2「光で色が変わる分子・光る分子」
- ・サブコース3「細胞の骨を観察しよう」
- ・サブコース4「岩石の顕微鏡観察：その形成プロセスに関する情報取得」
- ・質問コーナー

参加者の声（一部抜粋）

- 今回の体験で、自分が実験好きな事、物理はおもしろい事、沢山知ることができました。受験まであと2年です。自分が本当にしたいことを見つけて、頑張ります。2年後、また今日会った先生に会えると嬉しいです。1日ありがとうございました！
- 今まで体験したことのない体験ができて、すごくわくわくしました。理系の道はいいなと、改めて実感しました。ありがとうございました。
- ふだん気にして見ていない生物の目を顕微鏡で見ることができていい体験になった。授業で明暗順応を習ったけど、実際に見たことはなかったので改めて仕組みを理解することができた。
- 最後に先生から直にお話をいろいろ聞いたのがとてもよかったです。もっと色々わしく知りたいと思いました。



14-5. 女子高校生対象の質問・相談コーナー

広島大学オープンキャンパスにおいて、女子高校生を対象とした質問・相談コーナー『お茶会』を開催した。

日 時：平成27年8月18日(火)・19日(水)

2日間共 10:00~11:30

場 所：広島大学 東広島キャンパス

先端物質科学研究科3階

参加者：42名（内訳：高校生38名，保護者4名）

内 容：大学生活に対し、不安や疑問に思っている事について、お茶を飲みながら女子学生・女性院生・女性教員が質問に答えた。

1テーブル女子高校生6~7名に対し、女子学生もしくは女性院生2~3名が同席。

女子高校生の意識啓発に高い効果があった。

また、保護者からの質問に女性教員が答えた。



参加者の声（一部抜粋）

- 今回、参加させてもらってますます法学部に入りたい思いが強くなった。実際、広大に通っている方からたくさんの事を聞き、たくさんの事を学びました。英語はやっぱり大切で、今からでも全然間に合う事を聞きがंबろうと思った。今、文理選択で悩んでいたけど、アドバイスもあり決める事が出来ました。
- 先生や在学生の方の留学や研究などの細かい話が聞けて、色々な情報を知ることができた。
- 実際に通っている人にしか分からないことや、インターネットで調べてみてもでてこないような事が聞けて、とても充実していました。在校生の方も、文系の人で、センターの勉強の仕方を聞いたのが、よかったです。勉強のことだけでなく、バイトや、休みのことなどを聞いたのも、より大学への関心が強くなりました。
- AO入試への勉強法や気持ちの持ち方を実際にAO入試で入学した先輩にお話を聞けてすごく良かった。また、大学での過ごし方や勉強、バイト、サークルといった色々な話を聞くことができた。サイトやパンフレットには載っていない実際の大学生の声を聞けて、大学へのビジョンや目標を改めて強く考えることができた。より具体的に広島大学の良いところを知れて、広島大学への志望する気持ちが固まった。やりたいことを見つけることができた。

- いろいろな情報を聞くことができました。先生からも大学全般のこと、留学についてや留学生についてや先生自身の話についてもしっかりと話を聞かせていただきました。また、先輩方や先生方の雰囲気がよく、とても相談しやすかったです。このような機会を考えてくださった広島大学の皆さんに感謝します。受験生なのですが、また受験に向けて学習をしっかりと頑張ろうと思うことができました。自分の進路をしっかりと見つめ直すことのできた良い機会でした。
- 自分から積極的に参加していくことが大事だと、分かった。入試のことから、学校生活まで、様々なことが聞けたので、来てよかったと思った。まだ悩んでいることはあるけど、ちゃんと考えて、決めていきたい。広大にサークルと部活が思ったより多くて、楽しめるところを見つけて、入りたいと思った。留学についても、興味があるので考えたい。



14-6. 男女共同参画セミナー

(1) 男女共同参画社会について考えてみよう！「2015 チャレンジセミナー」(講師派遣)

○日時 平成 27 年 11 月 10 日 (火) 10:30~12:00

○場所 広島市立安佐北高等学校

○講師 森川 達也 (広島大学財務・総務室サービスグループ主任)

○内容 ・広島市立安佐北高等学校の1年生を対象とした男女共同参画セミナーの講師として、本学に所属する育児休業を取得した経験がある男性職員を派遣した。
職員が自身の経験をもとに「育児と仕事の両立」を実現するために実践していることなどについて生徒にわかりやすく伝えることにより、男性の育児が身近なものであることを将来家庭をもつ生徒に理解させることができた。また、子育てにかかる地域貢献活動となっている。

○参加者 20名 (広島市立安佐北高等学校1年生)

参加者からの声 (一部抜粋)

- 家事、育児のメリットは、負担を減らすことくらいだと思っていましたが、夫婦互いが相談相手になるということはとても良いなと思いました。残業と子育ての入れ替えで、ワークライフバランスがとれているのも良いと思います。写真を見せながら話している姿を見て子供の事が大好きなのだなと思いました。国の法律だけでなく、大学の中でも制度が多くあるのだと知りました。
- 男性にも育児休暇があるというのも驚きました。広島大学には、職員などが利用できる保育園や夏休みなどの長期休暇のときに子供を預けておける学童保育などもあって働きやすい環境だなと思いました。
- 森川さんの「育児と仕事の両立」についての考え方はとても心に響きました。自分も将来家庭を持つことになったら、家事が妻と同様にできる夫になりたいです。家族という1番身近な関係で上下関係が生じるのは嫌です。対等な関係を保つためにも、家事は今のうちからできるようになりたいです。

(2) 第4回子育て中の職員の支援セミナー（交流会）

○日時 平成28年2月29日（月）12:00～13:00

○場所 広島大学 法人本部棟 6F

○目的 厚生労働省が、男性の育児休業取得率を現状の2.03%から2020年度には13%に上げることを目標に掲げる中、本セミナーにおいて父親の役割について考え、情報交換を行う中で、ワークライフバランスの理解浸透を図る。さらに、本学の男性教職員の育児休業取得者数の向上へと繋げていく。また、子育て時期の教職員の実態・ニーズを把握し、子育てしやすい職場作りのため、環境を整えていく

○参加者 7名

参加者の声（一部抜粋）

- 子どもの年齢、立場が同じ人（配偶者の勤務形態・実家が遠い、など）同士で集まることができれば、より有意義な意見交換ができそう。さらに次につながるのでは。
- 男性の場合、女性のように子育てについて職場で話をする機会が少ないため、いいきっかけになったと思う。
- これら子どもが育っていくのに合わせて、地域の情報などを収集できればと思う。東広島市が提供するサポートなどに聞けてよかった。



15. ポジティブ・アクション

15-1. 教員公募文書

平成19年9月25日開催の教育研究評議会において、各部局等の教員、研究員の公募文書に次のように記載することが承認された。

公募文書の末尾に記載する定型文については、「パターン①」又は「パターン①'」を基本とし、部局等において特別の事情がある場合は、「パターン②」とする。

パターン①

広島大学は、男女共同参画を推進しています。本学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、業績(研究業績, 教育業績, 社会的貢献等)及び人物の評価において同等と認められた場合は女性を採用します。

Hiroshima University promotes a gender-equal society. In accordance with the legislative intent of the Basic Law for a Gender-Equal Society, our university will hire a female applicant rather than a male applicant when the achievements (including research achievements, academic achievements, societal contribution, etc) and character of both applicants are considered equal.

パターン①'

広島大学は、男女共同参画を推進しています。本学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、業績(研究業績, 教育業績, 社会的貢献等)及び人物の評価において優劣をつけがたいと認められた場合は女性を採用します。

Hiroshima University promotes a gender-equal society. In accordance with the legislative intent of the Basic Law for a Gender-Equal Society, our university will hire a female applicant rather than a male applicant when the achievements (including research achievements, academic achievements, societal contribution, etc) and character of both applicants are considered equal.

パターン②

広島大学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、男女共同参画を推進しています。

Hiroshima University promotes a gender-equal society in accordance with the legislative intent of the Basic Law for a Gender-Equal Society.

15-2. 女性教員採用割合目標値及び達成度

平成20年5月20日開催の教育研究評議会において、各部局等の女性教員採用割合の目標値が決定された。各部局及びセンター等における女性教員の割合等については、次のとおりである。

| 部局等名 | 平成18年度 | | | 平成22年度 | | | 平成23年度 | | | 平成24年度 | | | 平成25年度 | | | 平成27年4月1日現在 | | | 女性教員採用割合の目標値 | |
|--|--------|-------------|-----------|--------|-------------|-----------|--------|-------------|-----------|--------|-------------|-----------|--------|-------------|-----------|-------------|-------|-------|--------------|---------|
| | 採用教員数 | 女性教員採用割合(%) | 女性割合(%) ※ | 採用教員数 | 女性教員採用割合(%) | 女性割合(%) ※ | 採用教員数 | 女性教員採用割合(%) | 女性割合(%) ※ | 採用教員数 | 女性教員採用割合(%) | 女性割合(%) ※ | 採用教員数 | 女性教員採用割合(%) | 女性割合(%) ※ | 教員現員数 | うち男性数 | うち女性数 | | 女性割合(%) |
| 総合科学研究科 | 9 | 11 | 11.9 | 8 | 25 | 11.5 | 3 | 33 | 12.8 | 1 | 100 | 13.3 | 1 | 100 | 15.1 | 119 | 100 | 19 | 16.0 | 30 |
| 文学研究科 | 1 | 0 | 5.5 | 1 | 0 | 12.5 | 2 | 50 | 12.5 | 7 | 14 | 12.9 | 3 | 0 | 13.1 | 59 | 50 | 9 | 15.3 | 30 |
| 教育学研究科 | 12 | 33 | 13.7 | 16 | 50 | 16.8 | 17 | 41 | 18.9 | 13 | 31 | 18.5 | 10 | 70 | 21.6 | 173 | 139 | 34 | 19.7 | 30 |
| 社会科学研究科 | 2 | 0 | 6.3 | 5 | 20 | 13.7 | 3 | 0 | 11.8 | 2 | 0 | 11.0 | 6 | 50 | 14.3 | 75 | 68 | 7 | 9.3 | 30 |
| 理学研究科 | 8 | 0 | 5.0 | 5 | 40 | 5.9 | 5 | 0 | 5.3 | 7 | 29 | 6.2 | 5 | 20 | 6.9 | 148 | 136 | 12 | 8.1 | 17 |
| 先端物質科学研究科 | 4 | 0 | 3.6 | 3 | 67 | 5.2 | 1 | 0 | 5.3 | 2 | 50 | 7.1 | 1 | 100 | 8.9 | 53 | 50 | 3 | 5.7 | 6 |
| 工学研究院 | 16 | 0 | 1.0 | 8 | 0 | 1.5 | 7 | 29 | 2.1 | 14 | 7 | 2.1 | 5 | 20 | 3.3 | 184 | 177 | 7 | 3.8 | 12 |
| 生物圏科学研究科 | 1 | 0 | 2.6 | 4 | 50 | 5.3 | 2 | 50 | 7.4 | 3 | 0 | 7.6 | 2 | 50 | 9.0 | 72 | 68 | 4 | 5.6 | 26 |
| 医歯薬保健学研究院 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 22 | 32 | 25.1 | 14 | 28.6 | 26.2 | 302 | 227 | 75 | 24.8 | - |
| 保健学研究科 ※1 | 8 | 63 | 48.1 | 6 | 67 | 47.1 | 5 | 80 | 50.0 | (4) | (50) | (51.9) | (8) | (25) | (51.9) | (48) | (25) | (23) | (47.9) | 50 |
| 医歯薬学総合研究科 ※1 | 24 | 4 | 10.5 | 24 | 13 | 16.1 | 14 | 43 | 17.5 | (18) | (28) | (19.5) | (6) | (33) | (20.7) | (254) | (202) | (52) | (20.5) | 27 |
| 国際協力研究科 | 4 | 0 | 3.1 | 3 | 0 | 3.2 | 2 | 0 | 3.1 | 1 | 0 | 3.2 | 4 | 0 | 3.2 | 34 | 30 | 4 | 11.8 | 30 |
| 法務研究科 | 0 | 0 | 6.3 | 3 | 0 | 6.3 | 1 | 100 | 11.8 | 1 | 0 | 11.1 | 0 | 0 | 11.1 | 17 | 15 | 2 | 11.8 | 27 |
| 原爆放射線医科学研究所 | 1 | 0 | 8.5 | 2 | 0 | 11.6 | 2 | 0 | 9.3 | 7 | 14 | 11.6 | 4 | 50 | 14.6 | 39 | 32 | 7 | 17.9 | 27 |
| 病院 センター等(人文社会系) 高等教育研究開発センター、国際センター、教育開発国際協力研究センター、平和科学研究センター、総合博物館、北京研究センター、外国語教育研究センター、文書館、ハラスメント相談室、財務・総務室、教養教育本部、教育・国際室、学術・社会産学連携室 | 18 | 6 | 8.8 | 7 | 14 | 6.9 | 6 | 0 | 4.8 | 1 | 0 | 5.0 | 2 | 50 | 6.3 | 93 | 85 | 8 | 8.6 | 30 |
| センター等(自然科学系) 放射光科学研究センター、情報メディア教育研究センター、自然科学研究支援開発センター、産学・地域連携センター、ナノデバイス・バイオ融合科学研究所、保健管理センター、環境安全センター、宇宙科学センター、HiSIM研究センター、先進機能物質研究センター、サステナブル・ディベロップメント実践研究センター | 11 | 0 | 12.3 | 3 | 33 | 15.0 | 3 | 33 | 18.6 | 5 | 0 | 15.1 | 0 | 0 | 15.7 | 54 | 42 | 12 | 22.2 | 30 |
| | 7 | 0 | 7.8 | 3 | 0 | 8.7 | 1 | 100 | 10.1 | 6 | 17 | 8.1 | 0 | 0 | 10.1 | 66 | 60 | 6 | 9.1 | 25 |
| 合計 | 126 | 10 | 9.0 | 101 | 26 | 11.3 | 74 | 34 | 11.3 | 92 | 21 | 12.7 | 57 | 39 | 14.2 | 1,488 | 1,279 | 209 | 14.0 | |

※ 各年度の3月1日現在の女性割合

※1 平成24年4月1日より、医歯薬保健学研究院に統合された。

平成24年4月1日からは、医歯薬保健学研究院の内訳を、括弧書きで記載する。

15-3. 両性の意見を意思決定に反映させる仕組みに関する提言

男女共同参画推進委員会における行動計画「2-1-1（構成員が活躍できる環境づくりに取り組む）」を実施するにあたり、男女共同参画推進委員会で「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」＜提言＞を作成し、学長へ提出した。

「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」＜提言＞

〔平成22年11月30日〕
男女共同参画推進委員会

本学では、男女共同参画を推進させるため、これまで保育施設の整備などの諸施策を行ってきたところであるが、引き続き、仕事と生活が両立できる多様な制度を整備・充実させるとともに、それを活用しやすい環境を創出するための施策等に取り組んでいるところである。

また、広島大学では、長期ビジョンに「先進的な男女共同参画の実現（男女ともに構成員が男女共同参画の理念を理解し、多様な意見や価値を認めあい、高めあうことができる職場環境を実現する。）」を掲げている。これを実現するための更なる方策の一つとして、「男女共同参画推進委員会における行動行程」（平成19年度～平成22年度の4年計画）に定められ、平成22年度に重点的に実施予定となっている行動項目「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの検討・導入」について、「広島大学男女共同参画宣言」及び「広島大学中期目標・中期計画」等も踏まえて、次のとおり提案する。

1 女性教員の割合向上(第2期中期計画に掲げている「平成27年度に女性教員割合を14%程度」にすることについて)

- ・教育研究評議会に各部局等の女性教員採用割合を継続的に報告することにより、計画の着実な実行を目指す必要がある。
- ・部局毎の目標値達成度を評価し、何らかのインセンティブを講ずるべきである。
- ・一方、この計画を確実に実行するために、大学として学長裁量分及び本年度採択された科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」を有効活用するシステムを整備すべきである。

また、男女共同参画推進委員会が主体となり、他の室と連携し、これまで行ってきた環境整備をさらに充実させるとともに、女性研究者のキャリアアップに積極的に取り組んでいくことが急務である。

2 女性管理職の割合向上

① 大学運営に係わる意思決定の最高機関である教育研究評議会等への参画

- ・理事・副学長・学内共同教育研究施設の長に、両性の意思を反映させる等の大学運営に必要な幅広い視点から、女性の役員及び評議員を配置する必要がある。

- ・早期に女性が教育研究評議会に参画できる方策として「男女共同参画の観点からその他学長が定める者若干人」等の記述を規則に追記するなど、女性に特化したポストを評議員として加えることを検討する必要がある。
- ・管理職層（女性の部局評議員）の養成が急務である。
- ・意思決定原案策定過程にも同様な観点から、各室に女性副理事の配置を検討すべきである。

② 職員（教員を除く）の女性管理職の増

- ・管理職層の養成及び管理職登用のための研修等、支援策を検討する必要がある。

3 各種会議への女性教員の参画

ジェンダーに係わることのほか、倫理・人事・教育等に関する問題を検討するにあたっては、WG等の下位組織だけではなく、最終の意思決定の場において両性が参画し、その意思を反映させることが必要であるため、両性の参画が必要な会議として下記のとおり提案する。

| 設置室等 | 会議名等 |
|--|---|
| 教育室 | 教育室企画会議，大学院課程会議，学士課程会議，教育評価委員会，教養教育委員会，教養教育会議，学生生活会議，審査会（学生懲戒関係）， |
| キャリアセンター | キャリアセンター会議 |
| 財務・総務室 | 施設マネジメント会議，人事制度検討会議，ハラスメント対策委員会 |
| ※ 各会議等への参画は、各会議規則等に規定されている「必要と認めた者若干人」の委員とすることも可能。 | |

上記会議以外にも、短期的に設置されるものも含め、倫理・人事・教育等に関する会議・WGには、両性の意思を反映させる措置を講ずることが望ましい。

また、各研究科長等は、人事選考委員会（特に教授選考の場合）に両性を選考委員として加える措置を講ずることが望ましい。

ただし、女性教員数に限りがあるため、特定の者の負担にならないよう配慮する等、特に必要なものから実現させる必要がある。

4 両性の意見を吸い上げ、審議機関に伝え、検討結果を公表する仕組みの導入

構成員の意見を吸い上げる方策について、これまでの副理事（男女共同参画担当）が各部局において行ってきた男女共同参画意見交換会のほか、下記の方策を提案する。

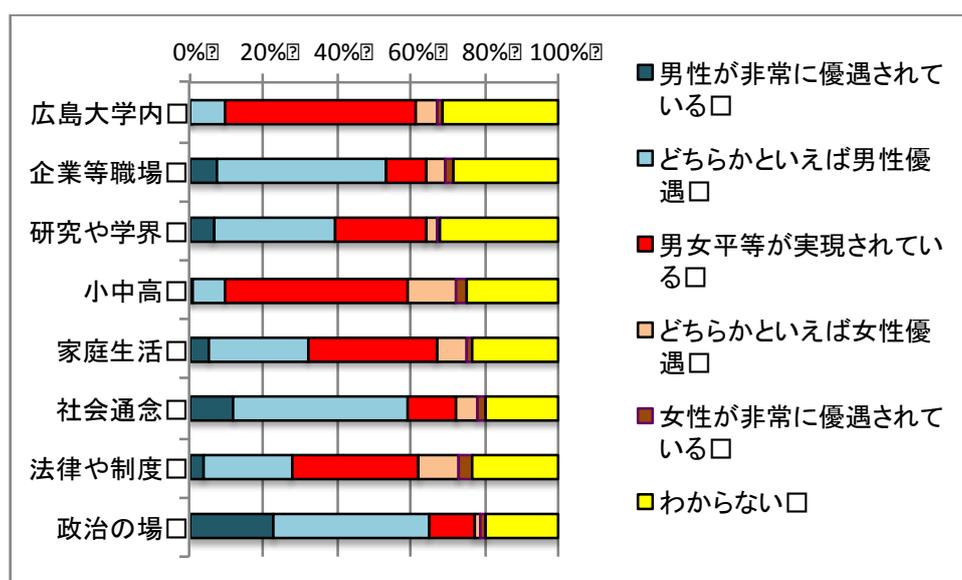
- ・男女共同参画推進室のホームページに、男女共同参画に関する意見を送付することが可能な意見フォームの設置（出来るだけ記名形式とすべきであり、意見に対する回答も公表すべきである）
- ・気軽に意見交換を行える場として、講演会等の後に茶話会を実施
- ・学長・理事との意見交換会（学長のオフィス・アワーを利用した意見の提言等）

16. 構成員や学生の意見

平成27年度には、学生を対象としたアンケート「女性と男性の現状に関する調査」を実施した。本アンケートについては、平成22年度にほぼ同様の項目で実施しており、5年間の学生の意識の変化や、自由記述を含めた詳細な結果については、広島大学男女共同参画推進委員会に報告した。対応が必要な事項等については関係部署と連携し、検討を行う。

なお、回答の主な結果については以下のとおりであるが、回答数が限られていることなどから解釈には注意を要する。

- 1) 回答者数は1118名（女性434名、男性662名を含む）
- 2) 「性別のせいで不利だと感じたことがある」と回答した者が全体の14%おり、その理由として一番多かったのが「同性の学生がいない」（不利を感じたことのある者の中の29%）、二番目が「防犯面の心配」（同22%）であった。
- 3) 「性別のせいで、不当な扱いを受けている」と回答した者が11%おり、それは「講義や演習などの授業時間中」（不当な扱いを受けたと回答した人の45%）で、また、不当な扱いの内容は「性別によって異なる接し方をされた」（24%）というもの。
- 4) 「建物や設備などの物理的環境で改善してほしい点がある」と回答した人は、4%であったが、そのほとんどがトイレに関するもの。
- 5) 男女の地位について、下図のような8つの場で、男女平等が実現されているかどうかを尋ねた。広島大学や小中高のように学校や大学では男女平等が実現されているという回答が多く見られたが、企業などの職場、社会通念や政治の場では男女平等が実現されているという回答が少なく、男性が優遇されていると思うという回答が多く見られた。研究や学界などの学問の場でも、平等よりも男性が優遇されているという回答が多く見られた。



IV 関連資料

17. 広島大学における男女共同参画関連年表

17-1. 全学関連事項

| | 全学関連事項 |
|--|---|
| 2006年 | 広島大学男女共同参画宣言（平成18年10月17日）（牟田泰三学長） |
| 2007年 | 広島大学女性研究者支援プロジェクト研究センター（CAPWR）の設置（平成19年2月8日） |
| | 平成19年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択（平成19年5月18日）“リーダーシップを育む広大型女性研究者支援”（平成19年度～平成21年度） |
| | 男女共同参画担当学長補佐の新設（平成19年5月21日）（浅原利正学長就任） 男女共同参画担当副理事に職名変更（平成19年7月1日） |
| | 「女性研究者支援モデル育成」事業採択に係る記者会見（平成19年6月27日） |
| | 各部局等の教員、研究員の公募文書にポジティブ・アクションを記載 “同等と認められた場合は女性を採用”（平成19年9月25日 教育研究評議会承認） |
| | 男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画（平成19年度～平成22年度の4年間）を決定（平成19年10月15日 役員会承認） |
| | 女性研究者奨励賞の設置（平成19年11月20日 教育研究評議会報告） |
| | 「広島大学男女共同参画の取組み」のリーフレットを作成（平成19年11月） |
| | 第1回男女共同参画シンポジウム「女性が活躍する広島大学—その環境づくりに向けて—」開催（平成19年12月4日） |
| | 2008年 |
| 学内保育園（東広島キャンパス）の名称決定（平成20年2月4日 役員会承認） | |
| 学内保育園（東広島キャンパス）の開園（平成20年3月17日） | |
| 高校生・大学生・大学院生むけの啓発リーフレットを作成（平成20年3月） | |
| 広島大学の男女共同参画2007～平成19年度成果報告書～を作成（平成20年3月） | |
| 男女共同参画推進室を設置，専任スタッフの配置（平成20年4月1日） | |
| 学生の氏名表記の取扱い（旧姓使用の許可）（平成20年4月14日） | |
| 男女共同参画推進室開所式 第2回男女共同参画シンポジウム「一人ひとりが輝く大学をめざして」開催（平成20年5月16日） | |
| 女性教員の採用割合の部局別目標値設定（平成20年5月20日 教育研究評議会承認） | |
| 女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表（平成20年7月15日 教育研究評議会報告） | |
| おもしろワクワク化学の世界'08 広島化学展に「リカだいすき！」コーナーを出展（平成20年7月25～27日） | |
| 東広島夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成20年8月1～29日） | |

| | |
|-------|--|
| 2008年 | 高校生・大学生・大学院生むけの啓発リーフレットを作成（平成20年8月） |
| | 女子高生向けの相談コーナー（オープンキャンパス）開設（平成20年8月7～8日） |
| | 夏休み体験科学講座～女子高生特別コース～（平成20年8月12日） |
| | 女性研究者が上位職を期限付きで体験できる制度としてプロフェッサーシフト（助教2名）を実施（平成20年10月1日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表（平成20年10月21日 教育研究評議会報告） |
| | 広島県仕事と家庭の両立支援企業への登録（平成20年11月10日） |
| | 第2回CAPWRセミナー「ドメスティック・バイオレンス(DV)とは」－医療現場で求められるDV被害者支援－（平成20年11月12日） |
| | 第2回女性研究者奨励賞（平成20年11月18日 教育研究評議会報告） |
| | キャリア支援・男女共同参画セミナー（平成20年12月3日） |
| | 第6回CAPWRセミナー「歯学部女子学生エンカレッジセミナー」（平成20年12月17日） |
| | クリスマス特別企画第2回体験科学講座～女子高生特別コース～（平成20年12月24日） |
| 2009年 | 女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表（平成21年1月20日 教育研究評議会報告） |
| | 第3回CAPWRセミナー「性暴力被害者支援について考える」（平成21年1月21日） |
| | 「女性の再チャレンジなんでも相談会」を開催（平成21年2月14日） |
| | 学生むけテキスト『あなたがあなたの道を歩むために～広島大学の男女共同参画～』を作成（平成21年2月） |
| | 第4・5回CAPWRセミナー「パートナーや恋人からの暴力「デートDV」を知ろう」（平成21年3月4日） |
| | 広島大学の男女共同参画2008～平成20年度成果報告書～を作成（平成21年3月） |
| | 春休み特別企画第3回体験科学講座～女子高生特別コース～（平成21年3月14日） |
| | 東広島春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成21年3月23日～4月3日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表（平成21年4月21日 教育研究評議会報告） |
| | 女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表（平成21年7月21日 教育研究評議会報告） |
| | 東広島夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成21年7月21日～8月31日） |
| | 女子中高生対象職場訪問「理系の職業を覗いてみよう～先輩にインタビュー～株式会社サタケ編」の実施（平成21年8月4日） |
| | オープンキャンパス 女子高生対象の質問・相談コーナー（平成21年8月7日） |

| | |
|--|--|
| 2009年 | 女子中高生のための科学教室（工学編）（平成21年8月8日） |
| | 夏休み特別企画第4回体験科学講座～女子高生特別コース（薬学部編） （平成21年8月11日） |
| | 女子中高生対象職場訪問「理系の職業を覗いてみよう～先輩にインタビュー～独立行政法人酒類総合研究所編」の実施（平成21年8月21日） |
| | 広島大学病院保育園（たんぼぼ保育園）を大学直営化（平成22年10月1日） |
| | 第7・8回CAPWRセミナー「女性のためのアサーティブ・トレーニング」（東広島：平成21年10月19日／霞：平成21年10月23日） |
| | 平成22年度における教員人件費ポイントにおいて女性教員採用支援分を措置（助教採用4名・助教→准教授へのポストアップ2名分）（平成21年10月20日役員会承認） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成21年10月20日 教育研究評議会報告） |
| | おもしろワクワク化学の世界'09 広島化学展 mini版に「リカとコンピュータ」コーナーを出展（平成21年10月24・25日） |
| | 第10回CAPWRセミナー「～第1回女性研究者の研究を聴こう～」 （平成21年11月10日） |
| | 第3回女性研究者奨励賞（平成21年11月17日 教育研究評議会報告） |
| | 理系女性研究者活躍促進プロジェクト設置（平成21年11月17日） |
| | 女子中高生のための科学教室（理学編）（平成21年11月28日） |
| | 第1回中国四国男女共同参画シンポジウム（第3回広島大学男女共同参画シンポジウム） ～『協働』社会へ～ 中国四国地方からのアピール（平成21年12月21日） |
| | 平成22年度女性教員採用支援分の人件費ポイントの配分計画決定（平成21年12月22日役員会承認） |
| | 東広島冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成21年12月24日～平成22年1月6日） |
| | 第9回CAPWRセミナー「草食系男子の恋愛について～その生態と男女共同参画～」開催 （平成22年1月12日） |
| | 第1回・2回女性研究者のためのスキルアップ講座を開催 （平成22年1月15日・2月23日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成22年1月19日 教育研究評議会報告） |
| | 学生向けテキスト『あなたがあなたの道を歩むために～広島大学の男女共同参画～』を作成（平成22年2月） |
| 平成22年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップの実施（助教→准教授）1名（大学院工学研究科）（平成22年2月1日） | |

| | |
|-------|--|
| 2009年 | 病後児保育利用料補助事業の実施（平成22年2月15日～3月31日） |
| | 広島大学の男女共同参画2009 ～平成21年度成果報告書～を作成（平成22年3月） |
| | リーダーシップを育む広大型女性研究者支援 ～平成19～21年度成果報告書～を作成（平成22年3月） |
| | 女子中高生のための科学教室（総合科学編）（平成22年3月13日） |
| | 次世代育成支援のための第2期行動計画の策定（平成22年3月16日役員会承認） |
| | 東広島春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成22年3月23日～4月5日）（4月からは大学にて実施） |
| | 女子中高生対象職場訪問「理系の職業を覗いてみよう～先輩にインタビュー～三菱レイヨン株式会社編」の実施（平成22年3月26日） |
| 2010年 | 次世代育成支援のための第2期行動計画の届出（平成22年4月12日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成22年4月21日 教育研究評議会報告） |
| | 広島県仕事と家庭の両立支援企業への登録（更新）（平成22年5月6日） |
| | 次世代育成支援対策推進法に基づく2010年認定事業主として認定（平成22年6月9日） |
| | 第1回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開講（平成22年7月～9月） |
| | 女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成22年7月20日 教育研究評議会報告） |
| | 東広島夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（平成22年7月21日～8月27日） |
| | オープンキャンパス2010 女子高校生・受験生対象の質問・相談コーナー （平成22年8月8日） |
| | 「女性研究者活躍促進事業」における支援内容説明会（平成22年8月10日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院先端物質科学研究科）（平成22年8月19日～10月20日） |
| | 人材育成推進室に女性研究者キャリアアップ部会を設置（平成22年9月1日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院理学研究科）（平成22年9月6日～11月1日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院生物圏科学研究科）（平成22年9月14日～10月29日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院教育学研究科）（平成22年9月22日～10月20日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成22年10月19日 教育研究評議会報告） |
| | 平成23年度女性教員採用支援分の人件費ポイントの配分計画決定（助教採用4名分・助教→准教授へのポストアップ2名分・教授及び准教授を各1名分） （平成22年10月19日役員会承認） |
| | 第4回女性研究者奨励賞（平成22年10月19日 教育研究評議会報告） |

| | |
|-------|---|
| 2010年 | 仕事と家庭の両立支援制度の活用状況調査 (平成22年11月15日～平成23年1月14日) |
| | 「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」<提言>を学長へ提出 (平成22年12月7日 役員打合せ) |
| | 「女性研究者活躍促進事業」における経理担当者説明会 (平成22年12月17日) |
| | 東広島冬季子どもクラブ事業 (学童保育) の実施 (平成22年12月24日～平成23年1月6日) |
| | 女子高生のための体験科学講座 (工学編) (平成22年12月25日) |
| | 新規養成女性教員1名採用 (大学院先端物質科学研究科: 准教授) (平成23年1月1日) |
| | 女性教員の部局別採用割合 (10月～12月期) の公表 (平成23年1月18日 教育研究評議会報告) |
| | 第2回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者スキルアップ交流会」開催 (平成23年1月24日) |
| | 新規養成女性教員2名採用 (大学院理学研究科・大学院生物圏科学研究科: 助教) (平成23年2月1日) |
| | 女性教員限定公募実施 (大学院工学研究院) (平成23年2月8日～3月31日) |
| | 男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画 (平成23年度～平成27年度の5年間) を決定 (平成23年3月1日役員会承認・平成23年3月8日教育研究評議会報告) |
| | 第3回女性研究者キャリアアップセミナー「科学英語論文ライティングセミナー」開催 (平成23年3月1日) |
| | 女子高生のための体験科学講座 (生物生産学部編) (平成23年3月12日・13日) |
| | 『広大システム改革による女性研究者活躍促進』シンポジウム～活躍する女性研究者からのメッセージ～ (平成23年3月17日) |
| | 広島大学の男女共同参画2010 ～平成22年度成果報告書～を作成 (平成23年3月) |
| | 東広島春季子どもクラブ事業 (学童保育) (平成23年3月28日～4月5日) |
| 2011年 | 新規養成女性教員1名採用 (大学院生物圏科学研究科: 助教) (平成23年4月1日) |
| | 病後児保育利用料補助事業を1施設との請負契約にて実施 (平成23年4月1日～9月30日) |
| | 女性教員の部局別採用割合 (1月～3月期) の公表 (平成23年4月19日 教育研究評議会報告) |
| | 女性教員限定公募実施 (大学院工学研究院) (平成23年5月2日～7月1日) |
| | 男女共同参画セミナー「イクメン・家事男についての話をしよう」開催 (平成23年5月26日) |
| | 男女共同参画セミナー「ベトナムの大学事情と男女共同参画について」開催 (平成23年5月26日) |
| | 新規養成女性教員1名採用 (大学院工学研究院: 助教) (平成23年6月1日) |

| | |
|--|--|
| 2011年 | 平成 23 年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップの実施（助教→准教授）1名（大学院理学研究科）（平成 23 年 6 月 1 日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院総合科学研究科）（平成 23 年 6 月 28 日～9 月 2 日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（4 月～6 月期）の公表 （平成 23 年 7 月 19 日 教育研究評議会報告） |
| | オープンキャンパス 2011 女子高校生対象の質問・相談コーナー （平成 23 年 8 月 8 日～8 月 9 日） |
| | 夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成 23 年 7 月 21 日～8 月 31 日） |
| | 第 4 回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開講（平成 23 年 9 月～10 月） |
| | 第 5 回女性研究者キャリアアップセミナー「Go! Go! 郷塾★ ～女性学長への道～」開催（平成 23 年 9 月～11 月） |
| | 新規養成女性教員 1 名採用（大学院工学研究院：助教）（平成 23 年 10 月 1 日） |
| | 病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7 月～9 月期）の公表 （平成 23 年 10 月 18 日 教育研究評議会報告） |
| | 第 5 回女性研究者奨励賞（平成 23 年 10 月 18 日 教育研究評議会報告） |
| | 第 2 回メンター講習会（平成 23 年 10 月 25 日） |
| | 第 5 回女性研究者奨励賞（平成 23 年 10 月 18 日 教育研究評議会報告） |
| | 女子高生のための体験科学講座（理学編）（平成 23 年 12 月 17 日） |
| | 女子高生のための体験科学講座（先端物質科学編）（平成 23 年 12 月 24 日） |
| | 冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区）（平成 23 年 12 月 26 日～1 月 6 日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（10 月～12 月期）の公表（平成 24 年 1 月 17 日 教育研究評議会報告） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院工学研究院）（平成 24 年 1 月 30 日～3 月 29 日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院医歯薬保健学研究科）（平成 24 年 2 月 3 日～2 月 13 日） |
| | 第 6 回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催（平成 24 年 2 月 16 日） |
| 第 7 回女性研究者キャリアアップセミナー「世界化学年と女性研究者」（相馬芳枝先生を囲んで）開催（平成 24 年 2 月 21 日） | |
| 学生向けテキスト「あなたがあなたの道を歩むために～広島大学の男女共同参画～」改訂（平成 24 年 2 月） | |
| 女性教員限定公募実施（大学院先端物質科学研究院）（平成 24 年 3 月 13 日～5 月 11 日） | |
| 第 8 回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催 | |

| | |
|-------|--|
| 2011年 | (平成24年3月19日・21日) |
| | 男女共同参画セミナー「性差問題へのアプローチ」(平成24年3月22日) |
| | 4プロジェクト合同シンポジウム(平成24年3月30日) |
| | 広島大学の男女共同参画2011 ～平成23年度成果報告書～を作成(平成24年3月) |
| | 春季子どもクラブ事業(学童保育)の実施(東広島地区・広島地区) (平成24年3月26日～4月6日) |
| 2012年 | 新規養成女性教員1名採用(大学院総合科学研究科:准教授)(平成24年4月1日) |
| | 新規養成女性教員1名採用(大学院医歯薬保健学研究院(医):助教)(平成24年4月1日) |
| | 女性教員の部局別採用割合(1月～3月期)の公表(平成24年4月10日 教育研究評議会報告) |
| | 病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施(平成24年4月1日～平成24年9月30日) |
| | 新規養成女性教員1名採用(大学院医歯薬保健学研究院(歯):助教)(平成24年5月1日) |
| | 新規養成女性教員1名採用(大学院工学研究院:教授)(平成24年6月1日) |
| | オープンキャンパス2012 女子高校生対象の質問・相談コーナー (平成24年8月7日～8月8日) |
| | 第9回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催(平成24年7月13日) |
| | 女性教員の部局別採用割合(4月～6月期)の公表 (平成24年7月17日 教育研究評議会報告) |
| | 夏季子どもクラブ事業(学童保育)の実施(東広島地区・広島地区) (平成24年7月23日～8月31日) |
| | 新規養成女性教員1名採用(大学院先端物質科学研究科:准教授)(平成24年8月1日) |
| | 第10回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開講(平成24年8月～9月) |
| | 第6回女性研究者奨励賞(平成24年9月18日 教育研究評議会報告) |
| | 女性教員の部局別採用割合(7月～9月期)の公表 (平成24年10月16日 教育研究評議会報告) |
| | 男女共同参画セミナー「女性のための護身術(WEN-DO)」開催 (平成24年10月27日・28日) |
| | 病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施 (平成24年10月1日～平成25年3月31日) |
| | 女性教員限定公募実施(大学院理学研究科)(平成24年11月14日～12月14日) |
| | 第11回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催(平成24年12月22日) |
| | 冬季子どもクラブ事業(学童保育)の実施(東広島地区・広島地区) (平成24年12月25日～平成25年1月7日) |

| | |
|-------|---|
| 2012年 | 女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成25年1月15日 教育研究評議会報告） |
| | 平成25年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップの実施（助教→准教授）2名（大学院理学研究科・医歯薬保健学研究院(医)） （平成25年1月31日） |
| | 第12回女性研究者キャリアアップセミナー「広島大学女性研究者スキルアップ交流会」開催（平成25年2月22日） |
| | 女子高生のための体験科学講座（工学部編）（平成25年3月9日） |
| | 女子高生のための体験科学講座（総合科学部編）（平成25年3月16日） |
| | 第13回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催 （平成25年3月18日・19日・27日） |
| | 広島大学の男女共同参画2012～平成24年度成果報告書～を作成（平成25年3月） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院生物圏科学研究科）（平成25年3月18日～5月31日） |
| | 春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成25年3月26日～4月5日） |
| 2013年 | 女性教員限定公募実施（大学院総合科学研究科）（平成25年4月3日～5月31日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成25年4月16日 教育研究評議会報告） |
| | 病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施 （平成25年4月1日～平成25年9月30日） |
| | 新規養成女性教員1名採用（大学院理学研究院：助教）（平成25年5月1日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成25年7月17日 教育研究評議会報告） |
| | 夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成25年7月22日～8月30日） |
| | 第14回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」開催（平成25年7月～8月） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院理学研究科）（平成25年8月2日～9月27日） |
| | オープンキャンパス2013 女子高校生対象の質問・相談コーナー （平成25年8月7日～8月8日） |
| | 男女共同参画セミナー「ヨーロッパ／スペインでのDV・ストーカー・性暴力対策とは」 開催（平成25年8月9日） |
| | 第15回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催（平成25年9月3日・4日） |
| | 第16回女性研究者キャリアアップセミナー 第2回日米女性研究者シンポジウム参加報告及びパネルディスカッション ～女性研究者のキャリアを考える～ 開催（平成25年9月4日） |

| | |
|-------|---|
| 2013年 | 新規養成女性教員1名採用（大学院生物圏科学研究科：講師）（平成25年10月1日） |
| | 新規養成女性教員1名採用（大学院総合科学研究科：准教授）（平成25年10月1日） |
| | 病後児保育利用料補助事業を対象となる利用施設数を拡充して実施（平成25年10月1日～平成26年3月31日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院工学研究院）（平成25年10月17日～12月18日） |
| | 第7回女性研究者奨励賞（平成25年10月15日 教育研究評議会報告） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成25年10月15日 教育研究評議会報告） |
| | 男女共同参画企画シンポジウム「女性が企業で活躍する」開催（平成25年11月16日） |
| | 女性教員限定公募実施（原爆放射線医科学研究所） （平成25年12月20日～平成26年1月24日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院国際協力研究科） （平成25年12月25日～平成26年3月20日） |
| | 冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成25年12月19日～平成26年1月8日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成26年1月21日 教育研究評議会報告） |
| | 平成26年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者の決定（助教→准教授）1名（大学院医歯薬保健学研究院(医)）（平成26年1月30日） |
| | 女性活躍シンポジウム「女性が活躍する企業が強いワケ ～イノベーションを創り出す組織づくりへ～」開催（平成26年2月8日） |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（オタフクソース(株)） （平成26年2月21日） |
| | 新規養成女性教員1名採用（大学院工学研究院：助教）（平成26年3月1日） |
| | 女子高生のための体験科学講座（生物生産学部編）（平成26年3月1日） |
| | 第17回女性研究者キャリアアップセミナー「英語論文ライティングセミナー」開催 （平成26年3月3日・4日） |
| | 女子高生のための体験科学講座（理学部編）（平成26年3月15日） |
| | 女性研究者活躍促進シンポジウム「女性研究者活躍促進シンポジウム ～研究する人生、という選択～」開催（平成26年3月17日） |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（(株)サタケ）（平成26年3月19日） |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（三菱レイヨン(株)） （平成26年3月27日） |
| | 広島大学の男女共同参画2013 ～平成25年度成果報告書～を作成（平成26年3月） |
| | 春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成26年3月24日～4月8日） |

| | |
|-------|---|
| 2014年 | 新規養成女性教員1名採用（大学院理学研究科：助教）（平成26年4月1日） |
| | 新規養成女性教員1名採用（原爆放射線医科学研究所：助教）（平成26年4月1日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成26年4月15日 教育研究評議会報告） |
| | 病後児保育利用料補助事業（平成26年度前期）の実施 （平成26年4月1日～9月30日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成26年7月15日 教育研究評議会報告） |
| | 夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成26年7月22日～8月29日） |
| | 第18回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者のための研究資金獲得実践セミナー」の開催（平成26年7月28日，8月18日） |
| | オープンキャンパス2014 女子高生・受験生対象の質問・相談コーナー「お茶会」の実施 （平成26年8月7日，8日） |
| | 新規養成女性教員1名採用（大学院国際協力研究科：講師）（平成26年10月1日） |
| | 病後児保育利用料補助事業（平成26年度後期）の実施 （平成26年10月1日～平成27年3月31日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表 （平成26年10月21日 教育研究評議会報告） |
| | 「働く女性応援セミナー」の実施（公益財団法人広島県男女共同参画財団との共催） （平成26年10月31日，11月14日） |
| | 次世代育成支援対策推進法に基づく2014年認定事業主として認定（平成26年11月14日） |
| | 第19回女性研究者キャリアアップセミナー「英語プレゼンテーションスキルを高めるセミナー」の開催（平成26年11月15日，16日） |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（(株)サタケ） （平成26年11月27日） |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（湧永製薬(株)） （平成26年12月1日） |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（三菱レイヨン(株)） （平成26年12月3日） |
| | 広島大学男女共同参画セミナー「多様な性別，多様な絆～24時間電話相談にみる，LGBTQ支援と制度設計の課題」の開催（平成26年12月3日） |
| | 広島大学男女共同参画セミナー「第3回子育て中の職員の支援セミナー（交流会）～お父さん応援プログラム～」の開催（平成26年12月8日） |
| | 女性教員限定公募実施（大学院総合科学研究科：助教） （平成26年12月18日～平成27年1月15日） |

| | | |
|-------|---|---|
| 2014年 | 「女性研究者活躍促進シンポジウムー将来を真剣に考えるあなたにはきっと明るい未来が訪れるー」の開催（平成26年12月18日） | |
| | メンタリング研修会「メンタリングの Why, What, How - メンターとして知っておきたい基本」の開催（平成26年12月22日） | |
| | 管理職セミナー「管理職の極意 - チームを介して成果をあげるための基本」の開催（平成26年12月22日） | |
| | 次世代育成支援のための第3期行動計画の策定（平成26年12月24日役員会承認） | |
| | 冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成26年12月19日～平成27年1月7日） | |
| | 独自養成女性教員1名採用（大学院総合科学研究科：准教授）（平成27年1月1日） | |
| | 女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表 （平成27年1月20日 教育研究評議会報告） | |
| | 女性の大学院生のキャリア支援を目的とした企業訪問（マツダ(株)）（平成27年2月23日） | |
| | 第20回女性研究者キャリアアップセミナー「女性研究者スキルアップ交流会」開催 （平成27年2月27日） | |
| | 新規養成女性教員1名採用（大学院総合科学研究科：助教）（平成27年3月1日） | |
| | 平成27年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者の決定【助教→准教授】1名（大学院理学研究科），【准教授→教授】2名（大学院総合科学研究科，大学院国際協力研究科）（平成27年3月6日） | |
| | 女子高生のための体験科学講座（工学部編）（平成27年3月7日） | |
| | 女子高生のための体験科学講座（教育学部編）（平成27年3月8日） | |
| | 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）セミナー「社員にとっても企業にとっても大損失！それが介護離職・・・今日からできる仕事と介護の両立支援 実践セミナー」 （平成27年3月13日） | |
| | 第21回女性研究者キャリアアップセミナー「英語プレゼンテーションスキルを高めるセミナー」の開催（平成27年3月24日，25日） | |
| | 広島大学の男女共同参画2014 ～平成26年度成果報告書～を作成（平成27年3月） | |
| | 春季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成27年3月23日～4月7日） | |
| | 2015年 | 女性教員の部局別採用割合（1月～3月期）の公表 （平成27年4月21日 教育研究評議会報告） |
| | | 病後児保育利用料補助事業（平成27年度前期）の実施 （平成27年4月1日～9月30日） |
| | | 女性教員の部局別採用割合（4月～6月期）の公表 （平成27年7月21日 教育研究評議会） |

| | |
|-------|---|
| 2015年 | 夏季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成27年7月21日～8月28日） |
| | オープンキャンパス2015女子高生・受験生対象の質問・相談コーナー「お茶会」の実施 （平成27年8月18日，19日） |
| | 病後児保育利用料補助事業（平成27年度後期）の実施 （平成27年10月1日～平成28年3月31日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（7月～9月期）の公表（教育研究評議会） （平成27年10月20日） |
| | 管理職セミナー「管理職のためのポジティブメンタルヘルス：やる気を生み出すコミュニケーション」開催（平成27年11月9日） |
| | 「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）シンポジウム これからのダイバーシティ社会を考える～ポイントはあなたのキャリアマネジメントと組織のダイバーシティマネジメント～」開催（平成27年12月10日） |
| | 冬季子どもクラブ事業（学童保育）の実施（東広島地区・広島地区） （平成27年12月22日～平成28年1月7日） |
| | 女性教員の部局別採用割合（10月～12月期）の公表（教育研究評議会） （平成28年1月19日） |
| | 「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）セミナー 本気モードの女性活躍促進!!～カタチだけじゃない女性活躍の進め方～」開催 （平成28年2月25日） |

17-2. 男女共同参画推進委員会関連事項

| | 委員会関連事項 |
|-------|---|
| 2007年 | 男女共同参画推進委員会の設置（平成19年2月1日） |
| | 男女共同参画ホームページの開設（平成19年6月） 全学ホームページ教員公募欄に女性の応募を促す表現を記載 |
| | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成19年6月18日～8月3日） |
| | 男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画（平成19年度～平成22年度の4年間）を策定。委員会の下に検討グループ（教育，制度，社会）を設置（平成19年9月26日第4回委員会） |
| | 女性教員，研究員等のメーリングリスト作成，運用開始（平成19年10月1日） |
| | 女性教員比率の数値目標達成に向けた対応の検討について（平成19年10月17日 教員人員等検討会議座長あて要請） |
| | 行動項目（平成19年度後半，平成20年度前半）の策定（平成19年11月19日 第5回委員会） |

| | | |
|-------------------------------------|---|--|
| 2007年 | 3つの検討グループ（教育，制度，社会）において，平成19年度の重点項目を策定し，行動開始 | |
| | 学内保育園（東広島キャンパス）の名称を学内公募（平成19年12月18日～平成20年1月10日） | |
| 2008年 | 学内保育園（東広島キャンパス）の名称候補決定（平成20年1月31日 第6回委員会） | |
| | 女性教員採用割合の目標値設定について（平成20年3月3日 第7回委員会） | |
| | 行動項目（平成20年度）の策定（平成20年3月11日 第8回委員会） | |
| | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成20年7月14日～8月18日，平成21年1月28日） | |
| | 女性研究者が上位職を期限付きで体験するプロフェッサーシフトの候補者を公募（平成20年7月15日～8月26日） （平成20年9月9日 第11回委員会において候補者決定） | |
| 2009年 | 行動項目（平成21年度）の策定（平成21年1月27日 第13回委員会） | |
| | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成21年7月8日～10月15日） | |
| | 平成22年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成21年10月27日～11月9日） （平成21年11月17日 第17回委員会において候補者決定） | |
| | 次期一般事業主行動計画の策定（平成22年1月28日 第18回委員会） | |
| | 行動項目（平成22年度）の策定（平成22年3月10日 第19回委員会） | |
| | 学生に対する男女共同参画意識調査の実施（平成22年10月1日～10月25日） | |
| 2010年 | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成22年10月～12月） | |
| | 平成23年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成22年10月15日～11月8日） （平成22年11月30日第24回委員会において候補者決定） | |
| | 「意思決定の場に両性の意見を反映させる仕組みの導入について」＜提言＞を作成（平成22年11月30日 第24回委員会） | |
| | 副理事によるポストアップの実情調査（平成22年12月14日） | |
| | 男女共同参画に関する行動の目標及び行動計画（平成23年度～平成27年度の5年間）及び行動項目（平成23年度）の策定（平成23年2月9日 第25回委員会） | |
| | 2011年 | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成23年10月～平成24年2月） |
| | | 平成24年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成23年12月20日～平成24年1月13日） （平成24年2月23日第30回委員会において候補者決定） |
| 行動項目（平成24年度）の策定（平成24年2月23日 第30回委員会） | | |

| | |
|-------|--|
| 2012年 | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成24年9月～平成24年11月） |
| | 平成25年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成24年11月27日～平成24年12月12日） （平成25年1月31日 第34回委員会において候補者決定） |
| | 行動項目（平成25年度）の策定（平成25年1月31日 第34回委員会） |
| 2013年 | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成25年12月～平成26年1月） |
| | 平成26年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成25年12月2日～平成25年12月18日） （平成26年1月30日 第40回委員会において候補者決定） |
| | 行動項目（平成26年度）の策定（平成26年1月30日 第40回委員会） |
| 2014年 | 副理事による部局巡り・意見交換会（平成27年1月～2月） |
| | 次期一般事業主行動計画の策定（平成26年12月19日 第43回委員会） |
| | 平成27年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成26年12月24日～平成26年1月19日） （平成27年3月6日 第44回委員会において候補者決定） |
| | 行動項目（平成27年度）の策定（平成27年3月6日 第44回委員会） |
| 2015年 | 学生に対する男女共同参画意識調査の実施（平成28年1月4日～2月12日） |
| | 平成28年度教員人件費ポイントの女性教員採用支援分の配分におけるポストアップ候補者を公募（平成28年2月24日～平成28年3月16日） |
| | 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定（平成28年3月8日 第48回委員会） |

18. 広島県「仕事と家庭の両立支援企業」

広島県「仕事と家庭の両立支援企業登録制度」とは、「仕事と家庭の両立」に向けて取り組むことを宣言された企業を、県が登録する制度。登録企業には、登録証を交付するとともに、ホームページなどで、企業の取り組み内容を県内外に広く紹介する。平成17年4月1日、広島大学では、広島大学全体での取り組みとして、職員の仕事と子育ての両立を推進するとともに、職場全体のより働きやすい環境を整えるべく、「次世代育成支援対策推進法に基づく広島大学の行動計画」を策定した。このことが認められ、「仕事と家庭の両立支援企業」に登録された。

19. 広島大学における女性の割合

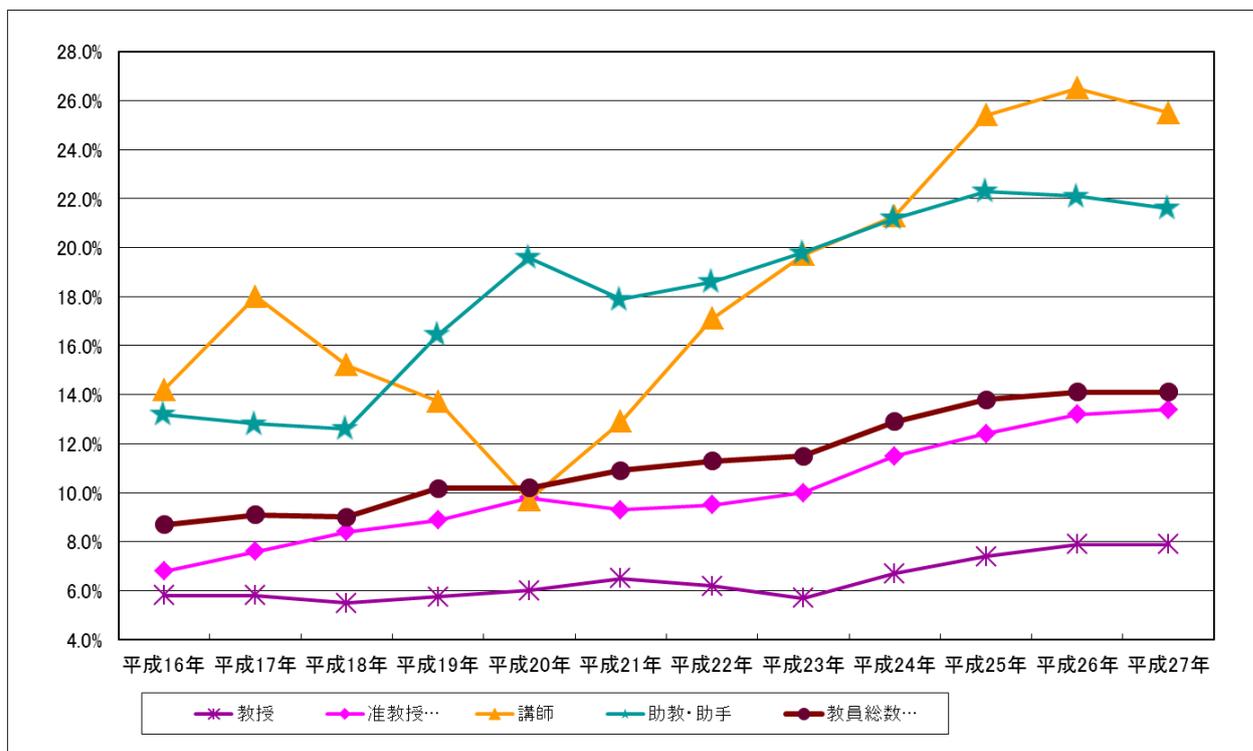
19-1. 職種別、本給表別在職状況

| 職種 | 本給表 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 役員 | 指定職 | 8 | 8 | 0 | 0 |
| 大学教員 | 年俸制職員 | 83 | 63 | 20 | 24.1% |
| | 教育職(A) | 1,410 | 1,219 | 191 | 13.5% |
| 附属学校教員 | 海事職(A) | 2 | 2 | 0 | 0 |
| | 教育職(B) | 111 | 88 | 23 | 20.7% |
| | 教育職(C) | 106 | 50 | 56 | 52.8% |
| 一般職員 | 一般職 | 572 | 374 | 198 | 34.6% |
| 技術職員 | 一般職 | 75 | 69 | 6 | 8.0% |
| 技能・労務職員 | 技能職 | 2 | 1 | 1 | 50.0% |
| 海事職員 | 海事職(A) | 6 | 6 | 0 | 0 |
| | 海事職(B) | 4 | 4 | 0 | 0 |
| 看護職員 | 看護職 | 798 | 90 | 708 | 88.7% |
| 医療職員 | 医療職 | 147 | 71 | 76 | 51.7% |
| 計 | | 3,324 | 2,045 | 1,279 | 38.5% |

平成27年5月1日現在（休職・休業者および出向中の者を除く）

19-2. 教員における女性の割合の変遷

各年度5月1日現在の、女性の割合は次のとおりである。



19-3. 教職員の職名別在職状況

平成27年5月1日現在の状況を次に示す。

(1) 大学教員の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|-----|-------|-------|-----|-------|
| 教授 | 584 | 538 | 46 | 7.9% |
| 准教授 | 426 | 369 | 57 | 13.4% |
| 講師 | 110 | 82 | 28 | 25.5% |
| 助教 | 371 | 291 | 80 | 21.6% |
| 助手 | 4 | 4 | 0 | 0 |
| 計 | 1,495 | 1,284 | 211 | 14.1% |

(2) 附属高等学校教諭等の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|------|-----|----|----|--------|
| 教頭 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| 教諭 | 107 | 86 | 21 | 19.6% |
| 養護教諭 | 2 | 0 | 2 | 100.0% |
| 計 | 111 | 88 | 23 | 20.7% |

(3) 附属小・中学校・幼稚園教諭等の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|------|-----|----|----|--------|
| 教頭 | 9 | 7 | 2 | 22.2% |
| 教諭 | 88 | 46 | 42 | 47.7% |
| 養護教諭 | 9 | 0 | 9 | 100.0% |
| 栄養教諭 | 3 | 0 | 3 | 100.0% |
| 計 | 109 | 53 | 56 | 51.4 |

(4) 一般職員（事務系）の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|-----------------------------|-----|-----|-----|-------|
| 部長・副理事・グループリーダー・主幹・高度専門職・室長 | 59 | 56 | 3 | 5.1% |
| 副グループリーダー・副室長・専門員 | 41 | 36 | 5 | 12.2% |
| 主査・専門職員 | 182 | 127 | 55 | 30.2% |
| 主任 | 158 | 79 | 79 | 50.0% |
| グループ員・室員 | 75 | 37 | 38 | 50.7% |
| 計 | 515 | 335 | 180 | 35.0% |

(5) 一般職員（図書系）の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|----------------|----|----|----|--------|
| 副図書館長・グループリーダー | 3 | 3 | 0 | 0 |
| 副グループリーダー | 1 | 0 | 1 | 100.0% |
| 主査 | 9 | 5 | 4 | 44.4% |
| 主任 | 8 | 3 | 5 | 62.5% |
| グループ員 | 7 | 1 | 6 | 85.7% |
| 計 | 28 | 12 | 16 | 57.1% |

(6) 一般職員（施設系）の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|--------------|----|----|----|-------|
| 副理事・グループリーダー | 4 | 4 | 0 | 0 |
| 副グループリーダー | 4 | 4 | 0 | 0 |
| 主査 | 11 | 11 | 0 | 0 |
| 主任 | 7 | 6 | 1 | 14.3% |
| グループ員 | 3 | 2 | 1 | 33.3% |
| 計 | 29 | 27 | 2 | 6.9% |

(7) 技術職員の職名別女性比率

| 職名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|--------|----|----|----|-------|
| 技術専門員 | 9 | 8 | 1 | 11.1% |
| 技術専門職員 | 26 | 26 | 0 | 0 |
| 技術主任 | 25 | 23 | 2 | 8.0% |
| 技術員 | 15 | 12 | 3 | 20.0% |
| 計 | 75 | 69 | 6 | 8.0% |

19-4. 役員等

| 役職等 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|----------|-----|-----|----|-------|
| 学長 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 理事・副学長兼務 | 5 | 5 | 0 | 0 |
| 理事 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 副学長 | 6 | 5 | 1 | 16.7% |
| 監事 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| 学長特命補佐 | 7 | 7 | 0 | 0 |
| 学長補佐 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 副理事 | 25 | 22 | 3 | 12.0% |
| 役員会 | 7 | 7 | 0 | 0 |
| 経営協議会 | 16 | 14 | 2 | 12.5% |
| 教育研究評議会 | 46 | 44 | 2 | 4.3% |
| 部局長 | 18 | 18 | 0 | 0 |
| 計 | 135 | 127 | 8 | 5.4% |

19-5. 全学委員会

| 委員会名 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|----------------------|-----|-----|----|-------|
| 評価委員会 | 24 | 21 | 3 | 12.5% |
| 動物実験委員会 | 14 | 13 | 1 | 7.1% |
| 組換え DNA 実験安全委員会 | 13 | 13 | 0 | 0 |
| 放射性同位元素委員会 | 11 | 11 | 0 | 0 |
| バイオセーフティ委員会 | 9 | 9 | 0 | 0 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会 | 7 | 5 | 2 | 28.6% |
| 疫学研究倫理審査委員会 | 9 | 6 | 3 | 33.3% |
| 遺伝子治療臨床研究審査委員会 | 7 | 6 | 1 | 14.3% |
| ヒト ES 細胞研究倫理審査委員会 | 7 | 4 | 3 | 42.9% |
| 臨床研究倫理審査委員会 | 8 | 6 | 2 | 25.0% |
| 男女共同参画推進委員会 | 20 | 11 | 9 | 45.0% |
| 女性研究者活動委員会 | 12 | 6 | 6 | 50.0% |
| 計 | 141 | 111 | 30 | 21.3% |

19-6. 学部学生および大学院生

| | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| 学部学生 | 10,993 | 7,006 | 3,987 | 36.3% |
| 博士課程前期 | 2,498 | 1,697 | 801 | 32.1% |
| 博士課程後期 | 1,728 | 1,096 | 632 | 36.6% |
| 専門職学位課程 | 74 | 49 | 25 | 33.8% |
| 計 | 15,293 | 9,848 | 5,445 | 35.6% |

(1) 学部学生

| | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|------------|--------|-------|-------|-------|
| 総合科学部 | 589 | 312 | 277 | 47.0% |
| 文学部 | 641 | 305 | 336 | 52.4% |
| 教育学部 | 2,140 | 1,019 | 1,121 | 52.4% |
| 法学部 | 834 | 521 | 313 | 37.5% |
| 経済学部 | 952 | 724 | 228 | 23.9% |
| 理学部 | 1,078 | 877 | 201 | 18.6% |
| 医学部 (医学科) | 733 | 536 | 197 | 26.9% |
| 医学部 (保健学科) | 518 | 124 | 394 | 76.1% |
| 歯学部 | 499 | 193 | 306 | 61.3% |
| 薬学部 | 323 | 156 | 167 | 51.7% |
| 工学部 | 2,237 | 1,999 | 238 | 10.6% |
| 生物生産学部 | 449 | 240 | 209 | 46.5% |
| 計 | 10,993 | 7,006 | 3,987 | 36.3% |

(2) 大学院生

| | 博士課程後期, 専門職学位課程 | | | | 博士課程前期 | | | |
|-----------|-----------------|-------|-----|--------|--------|-------|-----|-------|
| | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 | 合計 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
| 総合科学研究科 | 146 | 77 | 69 | 47.3% | 104 | 47 | 57 | 54.8% |
| 文学研究科 | 182 | 67 | 115 | 63.2% | 80 | 36 | 44 | 55.0% |
| 教育学研究科 | 383 | 192 | 191 | 49.9% | 233 | 122 | 111 | 47.6% |
| 社会科学研究科 | 150 | 82 | 68 | 45.3% | 79 | 48 | 31 | 39.2% |
| 理学研究科 | 306 | 233 | 73 | 23.9% | 105 | 84 | 21 | 20.0% |
| 先端物質科学研究科 | 161 | 133 | 28 | 17.4% | 66 | 54 | 12 | 18.2% |
| 保健学研究科 | 1 | 0 | 1 | 100.0% | 36 | 10 | 26 | 72.2% |
| 医歯薬保健学研究科 | 147 | 77 | 70 | 47.6% | 540 | 342 | 198 | 36.7% |
| 工学研究科 | 634 | 590 | 44 | 6.9% | 164 | 138 | 26 | 15.9% |
| 生物圏科学研究科 | 191 | 128 | 63 | 33.0% | 88 | 63 | 25 | 28.4% |
| 医歯薬学総合研究科 | 2 | 1 | 1 | 50.0% | 159 | 111 | 48 | 30.2% |
| 国際協力研究科 | 195 | 117 | 78 | 40.0% | 74 | 41 | 33 | 44.6% |
| 法務研究科 | | | | | 74 | 49 | 25 | 33.8% |
| 合計 | 2,498 | 1,697 | 801 | 32.1% | 1,802 | 1,145 | 657 | 36% |

20. 平成 27 年度成果のまとめ

平成 27 年度は、「広島大学のシステム改革と女性研究者の活躍」（本報告書第 I 部）及び「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の取り組み（最終年度，本報告書第 II 部），そして，男女共同参画推進委員会等を中心とする基盤整備の取り組み（本報告書第 III 部）を実施した。ここに，それぞれの取り組みをまとめる。

I. 広島大学のシステム改革と女性研究者の活躍

広島大学では，平成 19 年度からこれまで 9 年間，途切れることなく，女性研究者支援関連事業を実施してきた。本書の第 I 部では，この 9 年間に広島大学において進行した，「形」と「意識」の両面におけるシステム改革の結果として，女性の割合がどのように変化してきたか，また，女性研究者の活躍状況を概括した。本学の「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」は平成 27 年度で終了するが，これまでに培ってきた経験と成果を生かして，これからも，システム改革を進め，女性研究者の研究活動における活躍促進に資する取り組みを行っていく。

II. 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

平成 25 年度に採択された本事業の目的は，女性研究者の数の増加と，女性研究者の研究力のさらなる向上に資するため，主として中国四国地方の国公立大学法人等，公的機関及び企業との連携を強化し，女性研究者研究活動支援の取り組みの他機関への普及を推進することである。そのための実施体制として，女性研究者（教員及び大学院生を含む）の研究活動における活躍を支援し，本学におけるあらゆる分野の一層の進展と，新たな独創的・学際的研究を推進することを目的として，全学委員会として「女性研究活動委員会」を設置し，学内のさまざまな組織が連携した女性研究活動推進本部が中心となって，その取り組みを全学で推進している。また，委員長は学長が任命した女性教授であり，教育研究評議会の評議員となっている。さらに，中国四国地方の産学官が協働して活動する場として同委員会に設置された「産学官連絡会」を通じて，学内における取り組みと他機関連携の取り組みを効果的に進めている。同連絡会には，現在までに，官公庁，企業，大学など 40 以上の機関から，人事担当者や研究職に就く女性社員等にご参加いただいた。

本事業の主な取り組みは，「女性の大学院生支援（キャリアスタート支援）」「女性の研究者支援（アドバンスト支援）」「共同研究支援」「意識啓発」の大きく 4 つに分類される。各支援の対象者に向けて各種セミナーやシンポジウム，講演会や発表会等を実施する他，キャリアスタート支援では企業訪問や広報誌の作成・配布，インターンシップのマッチングを，アドバンスト支援では，託児サービスや外部資金の獲得等のバックアップ支援を，共同研究支援では本学女性研究者の研究シーズ集の作成を，意識啓発では女性活躍促進賞「メタセコイア賞」の候補者の選定・賞の授与を，それぞれに行うことで，本事業の目的に沿った取り組みを効率的に進めている。

III. 基盤整備

仕事と子育ての両立支援策として、昨年度に引き続き、東広島及び霞キャンパスにおける学内保育園と学内学童保育、病後児保育利用補助事業を行った。さらに、平成 26 年度の 4 月からは新たに霞キャンパスにおける乳幼児保育室を開設した。

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の第 2 期行動計画において、全ての目標を達成し、第 1 期に引き続き、厚生労働省から 2 度目の認定を受けた。

女性研究者奨励賞には文系理系あわせて 18 件の応募があり、女性研究者の研究意欲の向上がうかがえた。

女子高校生を対象にして、昨年引き続き夏休みのオープンキャンパスにおける質問・相談コーナーとしての「お茶会」、工学部及び教育学部による体験科学講座を開催した。「お茶会」は女性の大学生や大学院生から気軽に話が聞ける場として非常に好評であり、理系の選択を増やすために有用であると感じる。女性大学生及び大学院生のための BBC もコンスタントに活用されている。

平成 28 年 3 月 1 日現在で、女性教員の割合は 14.6%と増加し、女性管理職の割合も前年度からわずかではあるが増加した。

現在、平成 28 年 4 月 1 日から施行の女性活躍推進法に基づく行動計画を作成中であり、今後も、女性の個性と能力が十分に発揮できるだけでなく、ひとりひとりがより働きやすい職場環境を目指して取り組んでいく。

平成 28 年 3 月 1 日

広島大学副理事（男女共同参画担当）

森永 康子

広島大学の男女共同参画2015 ～平成25-27年度成果報告書～

発行年月：平成28年3月

編集・発行：広島大学男女共同参画推進室

所在地：〒739-8524 東広島市鏡山1-1-2

TEL:082-424-4428 FAX:082-424-4355

(無断複写・転載を禁じます)